

男女共同参画社会に関する意識調査 報告書

平成 24 年 3 月

苧 田 町

目次

町民調査結果

調査の概要

1. 調査の目的	1
2. 調査項目	1
3. 調査の性格	1
4. 標本特性	2
5. 調査結果利用上の注意	3

調査結果の分析

第1章 男女共同参画に関する考え方について

1. 性別役割分担意識	5
2. 男女の地位の平等感	7
3. 女性が職業をもつことについて	12

第2章 家庭生活について

1. 家庭内における性別役割分担の状況	14
(1) 家庭内の役割分担	14
(2) 配偶者にもっとしてもらいたいこと	20

第3章 職業について

1. 就労状況	22
(1) 職業の有無	22
(2) 職業	24
(3) 就業形態	25
(4) 一日の勤務時間(通勤時間含む)	26
(5) 今後の就労意向	28
(6) 職業につくためにあったらよい支援	29
2. ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の認知度	31
3. 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度	32
4. 家庭生活、地域・個人の生活等の時間の満足度	35

第4章 暴力などの人権侵害について

1. セクシュアル・ハラスメントについて	37
(1) セクシュアル・ハラスメントの経験、見聞き	37
(2) セクシュアル・ハラスメントの内容	39

(3) セクシュアル・ハラスメントを受けたときの対応	41
2. ドメスティック・バイオレンスについて	42
(1) ドメスティック・バイオレンスの認知	42
(2) 「デートDV」の認知	43
(3) ドメスティック・バイオレンスと思う内容	44
(4) ドメスティック・バイオレンスの被害経験	48
(5) ドメスティック・バイオレンスを受けたときの対応	53
(6) 相談しなかった理由	54
3. 暴力防止の啓発をはじめめる時期	55

第5章 社会活動への参画について

1. 地域の役職に女性がつくことに対する考え方	56
2. 男女がともに参画していくために必要なこと	60

第6章 男女共同参画社会の実現に向けて

1. 男女共同参画社会関連の法律や制度などの認知状況	62
2. 学校教育の中で男女共同参画を進めるために必要なこと	64
3. リプロダクティブ・ヘルス/ライツのために必要なこと	66
4. 男女共同参画社会の実現のための行政施策	68

青少年調査結果

調査の概要

1. 調査の目的	71
2. 調査項目	71
3. 調査の性格	71
4. 標本特性	72
5. 調査結果利用上の注意	73

調査結果の分析

第1章 男女平等に関する考え方について

1. 男女の地位の平等感	75
2. 男女に関する意見について	78
3. 性別役割分担意識	81

第2章 日ごろの生活や考えていることについて

1. 家庭内の状況	83
2. 家事の状況	85
3. 父親との会話の状況	88

4 . 母親との会話の状況	90
5 . 家庭生活の満足度	92
6 . 希望する暮らしや生き方	94
7 . 自分自身にあてはまること	95

第3章 暴力などの人権侵害について

1 . ドメスティック・バイオレンスの認知	98
2 . 「デートDV」の認知	99
3 . 彼氏/彼女との関係についての考え方	100
4 . 彼氏/彼女との関係	101
(1) 彼氏/彼女の有無	101
(2) 彼氏/彼女へしたことがある行為	102
(3) 彼氏/彼女からされたことがある行為	103
(4) 相談先	104
5 . 暴力防止の啓発をはじめる時期	105
6 . 学校教育で教わった性教育の内容	106

第4章 男女共同参画社会づくりについて

1 . 法律や制度等の認知状況	107
2 . 男女共同参画のイメージ	108

教職員調査結果

調査の概要

1 . 調査の目的	111
2 . 調査項目	111
3 . 調査の性格	111
4 . 標本特性	112
5 . 調査結果利用上の注意	113

調査結果の分析

第1章 男女共同参画に関する考え方について

1 . 性別役割分担意識	115
2 . 男女の地位の平等感	117
3 . 女性が職業をもつことについて	122

第2章 家庭生活について

1 . 家庭内における性別役割分担の状況	124
(1) 家庭内の役割分担	124
(2) 配偶者にもっとしてもらいたいこと	128

第3章 職業について	
1. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の認知度	129
2. 一日の勤務時間（通勤時間含む）	130
3. 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度	131
4. 家庭生活、地域・個人の生活等の時間の満足度	133
第4章 暴力などの人権侵害について	
1. セクシュアル・ハラスメントについて	135
（1）セクシュアル・ハラスメントの経験、見聞き	135
（2）セクシュアル・ハラスメントの内容	137
（3）セクシュアル・ハラスメントを受けたときの対応	138
2. ドメスティック・バイオレンスについて	139
（1）ドメスティック・バイオレンスの認知	139
（2）「デートDV」の認知	140
（3）ドメスティック・バイオレンスと思う内容	141
（4）相談を受けたときの対応	145
3. セクハラやDVをなくすために必要なこと	146
4. 暴力防止の啓発をはじめる時期	147
第5章 社会活動への参画について	
1. 地域の役職に女性がつくことに対する考え方	148
2. 男女がともに参画していくために必要なこと	151
第6章 男女共同参画社会の実現に向けて	
1. 男女共同参画社会関連の法律や制度などの認知状況	153
2. リプロダクティブ・ヘルス/ライツ のために必要なこと	155
3. 男女共同参画社会の実現のための行政施策	157

町職員調査結果

調査の概要

1. 調査の目的	159
2. 調査項目	159
3. 調査の性格	159
4. 標本特性	160
5. 調査結果利用上の注意	161

調査結果の分析

第1章 男女共同参画に関する考え方について

1. 性別役割分担意識	163
-------------	-----

2 . 男女の地位の平等感	165
3 . 女性が職業をもつことについて	170
第2章 家庭生活について	
1 . 家庭内における性別役割分担の状況	172
(1) 家庭内の役割分担	172
(2) 配偶者にもっとしてもらいたいこと	176
第3章 職業について	
1 . ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の認知度	177
2 . 一日の勤務時間（通勤時間含む）	178
3 . 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度	179
4 . 家庭生活、地域・個人の生活等の時間の満足度	181
第4章 暴力などの人権侵害について	
1 . セクシュアル・ハラスメントについて	183
(1) セクシュアル・ハラスメントの経験、見聞き	183
(2) セクシュアル・ハラスメントの内容	185
(3) セクシュアル・ハラスメントを受けたときの対応	186
2 . ドメスティック・バイオレンスについて	187
(1) ドメスティック・バイオレンスの認知	187
(2) 「デートDV」の認知	188
(3) ドメスティック・バイオレンスと思う内容	189
(4) 相談を受けたときの対応	193
3 . セクハラやDVをなくすために必要なこと	194
4 . 暴力防止の啓発をはじめる時期	195
第5章 社会活動への参画について	
1 . 地域の役職に女性がつくことに対する考え方	196
2 . 男女がともに参画していくために必要なこと	199
第6章 男女共同参画社会の実現に向けて	
1 . 男女共同参画社会関連の法律や制度などの認知状況	201
2 . リプロダクティブ・ヘルス/ライツ のために必要なこと	203
3 . 男女共同参画社会の実現のための行政施策	205

調査結果のまとめ

ま と め

1 . 男女平等に関する意識	207
----------------------	-----

2 . 家庭生活と仕事	208
3 . 暴力などの人権侵害	209
4 . 男女共同参画に向けて	210

使用した調査票

1 . 男女共同参画社会に関する意識調査	町民	211
2 . 男女共同参画社会に関する意識調査	青少年	218
3 . 男女共同参画社会に関する意識調査	教職員	223
4 . 男女共同参画社会に関する意識調査	町職員	229

町民調査結果

調査の概要

町民調査

調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、苅田町における男女共同参画について町民の意識と実態を把握し、第2次苅田町男女共同参画行動計画策定のための基礎資料を得ることを目的として実施した。

2. 調査項目

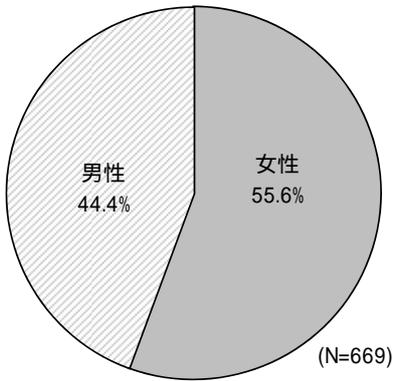
- (1) 男女共同参画に関する考え方について
- (2) 家庭生活について
- (3) 職業について
- (4) 暴力などの人権侵害について
- (5) 社会活動への参画について
- (6) 男女共同参画社会の実現に向けて

3. 調査の性格

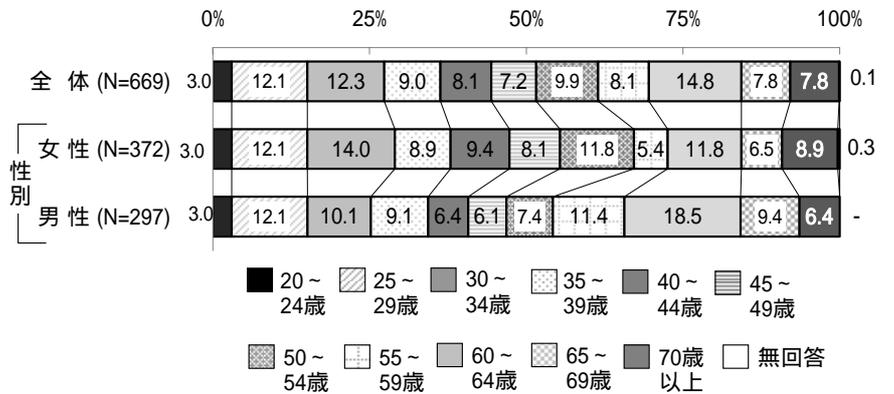
- | | |
|----------------|---|
| (1) 調査地域 | 苅田町全域 |
| (2) 調査対象者 | 20歳以上の男女2,000人 |
| (3) 回収率 | 有効回収数 669人 有効回収率 33.5% |
| (4) 抽出方法 | 住民基本台帳から無作為抽出 |
| (5) 調査方法 | 郵送法 |
| (6) 調査期間 | 平成23年8月19日～9月5日 |
| (7) 調査企画 | 苅田町総務部人権男女共同参画課 |
| (8) 調査実施機関 | (株)西日本新聞社 マーケティング室 |
| (9) 調査結果の分析と監修 | 分析 吉田 喜代子
(NPO法人福岡ジェンダー研究所研究員)
監修 横山 美栄子
(広島大学ハラスメント相談室長・教授) |

4. 標本特性

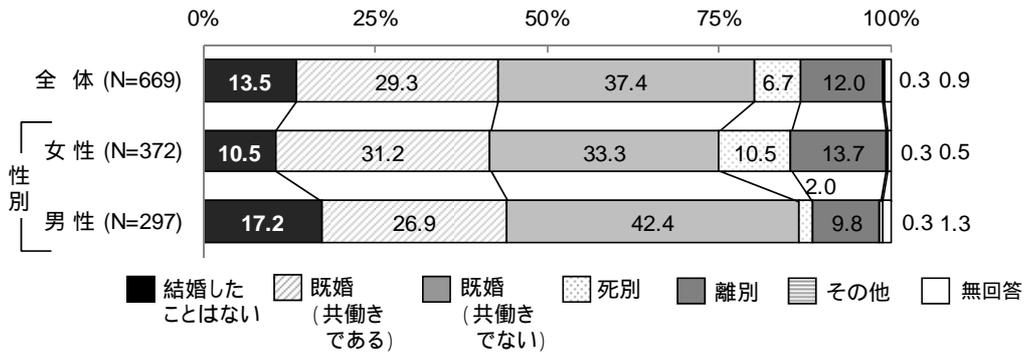
性別



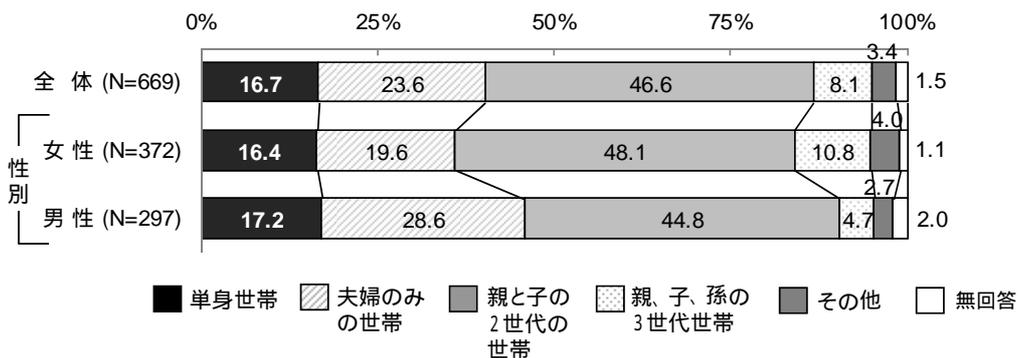
年代



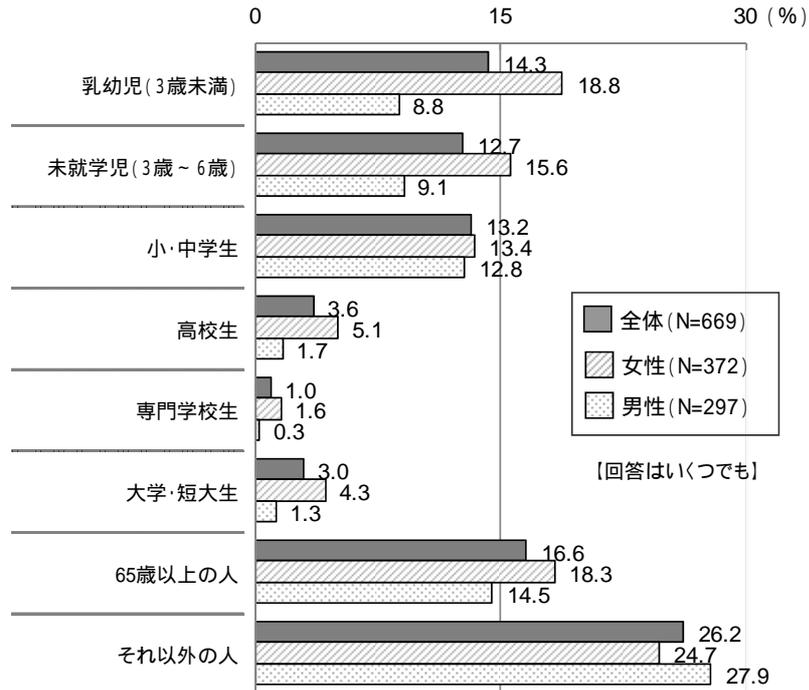
配偶関係



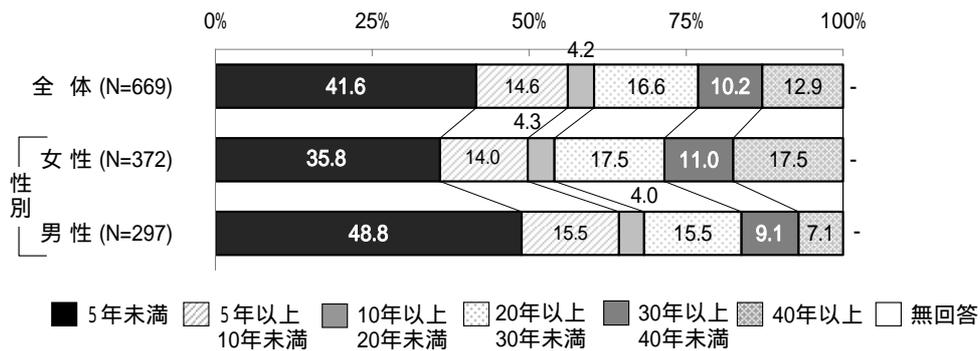
世帯状況



同居家族



居住年数



5. 調査結果利用上の注意

- (1) 数表、図表に示すNは、比率算出上の基数（標本数）である。数表で、分析項目によっては対象者が限定されるため、全体の標本数と合わないことがある。
- (2) 文中の数字は、百分比の小数以下第2位を四捨五入しているため、回答比率の合計は必ずしも100%とはならない。
- (3) 2つ以上の回答を要する(複数回答)質問の場合、その回答比率の合計は原則として100%を超える。
- (4) 数表中の「-」は、該当する選択肢の回答がないことを示す。
- (5) 付問、付問 - 等は、前問で特定の回答をした一部の回答者のみに対して続けて行った質問である。
- (6) 文中の選択肢の表記は「 」で行い、選択肢のうち2つ以上のものを合計して表す場合は『 』とした。

調査結果の分析

町民調査

調査結果の分析 町民

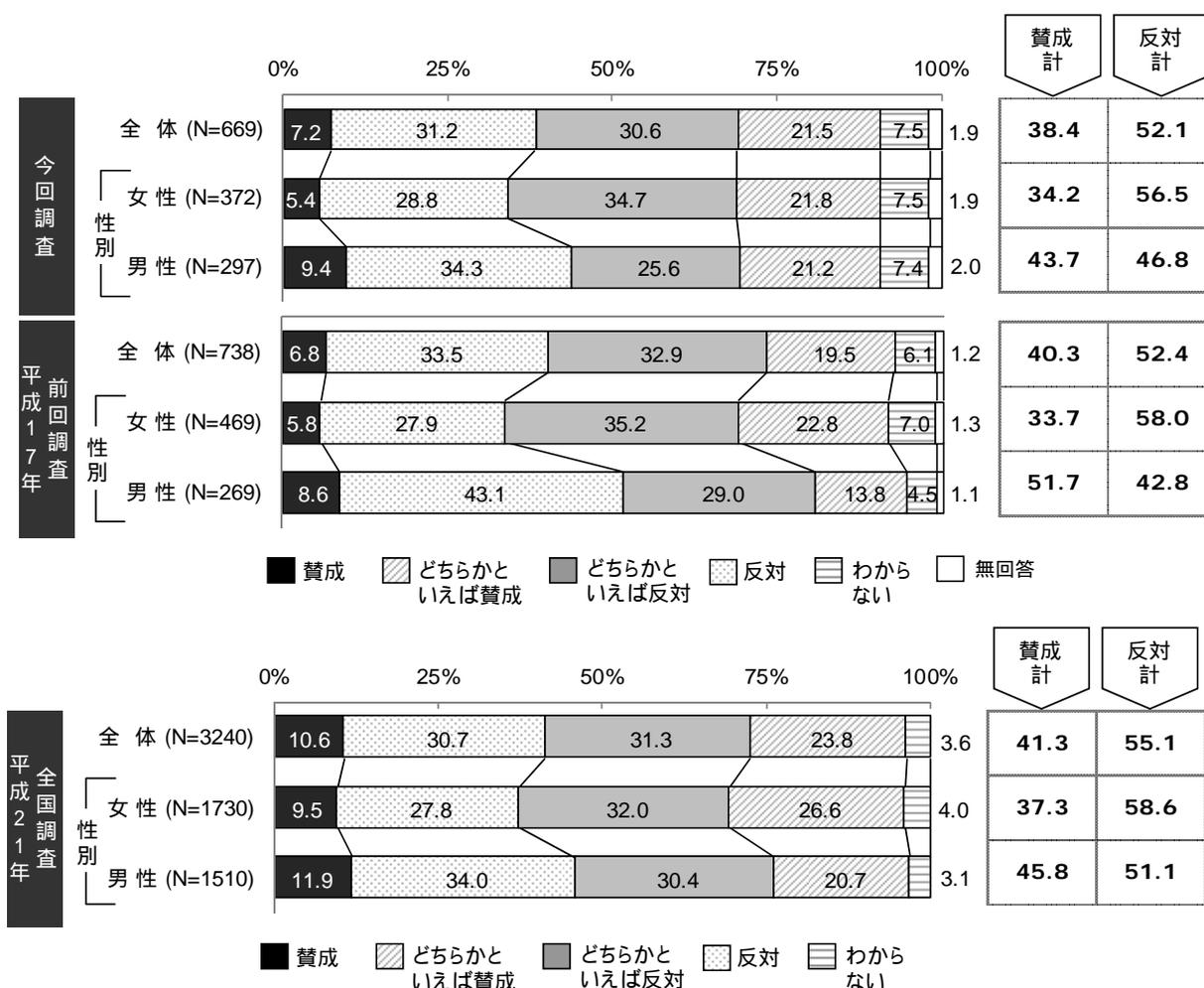
第1章 男女共同参画に関する考え方について

1. 性別役割分担意識

問1. 「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」という考え方について、どう思いますか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。(印は1つ)

性別役割分担に『反対』は、女性 56.5%、男性 46.8%と女性が約 10 ポイント高い。
50 歳代の女性の『反対』は 67.2%、男性は 33.9%と大差がみられる。

図1-1 性別役割分担意識 [全体、性別] (前回調査・全国調査比較)



「男は外で働き、女性は家庭を守るべきである」という性別役割分担意識について「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた性別役割分担に『賛成』の人は 38.4%、一方、「反対」「どちらかといえば反対」の合計は 52.1%と性別役割分担に『反対』の人の方が 13.7 ポイント上回っている。

性別にみると、性別役割分担に『反対』の女性は56.5%と男性(46.8%)を9.7ポイント上回っている。

平成17年に実施された「男女共同参画に関する住民意向調査」(以下、「前回調査」という)と比較すると、女性では大きな変化がみられないが、男性は性別役割分担に『賛成』が前回調査の51.7%から43.7%と8ポイント減少し、容認しない人や「わからない」人が増えている。また、平成21年に実施された内閣府の「男女共同参画に関する世論調査」(以下、「全国調査」という)と比較すると、性別役割分担に『反対』の割合は女性では大差はないが、男性で苅田町の方が4.3ポイント低く、「わからない」と態度を保留する人が多い。

属性別特徴

年代別にみると、女性の『反対』はすべての年代で5割以上となっており、特に20歳代と50歳代では6割台と高い。一方、男性では20歳代の『反対』が57.7%と最も高く、年齢が低い層で性別役割分担を容認しない人が多くなる傾向にある。男性50歳代の『反対』は33.9%と低く、女性の67.2%とは33.3ポイントの大差となっている。

配偶関係別にみると、男女とも結婚したことはないや共働きの場合、『反対』が5割を超えており、特に女性は6割台と高いのに対し、共働きでない場合は4割台と低くなっている。

表1-1 性別役割分担意識 [全体、年代別、配偶関係別]

		標本数	賛成	いど えち ら 賛 か 成	いど えち ら ば ら 反 か 対	反 対	わ か ら な い	無 回 答	賛 成 計	反 対 計
全体		669	48	209	205	144	50	13	257	349
		100.0	7.2	31.2	30.6	21.5	7.5	1.9	38.4	52.1
性別 × 年代別	女性:20歳代	56	3.6	17.9	35.7	25.0	16.1	1.8	21.5	60.7
	女性:30歳代	85	3.5	32.9	32.9	17.6	12.9	-	36.4	50.5
	女性:40歳代	65	7.7	27.7	35.4	20.0	6.2	3.1	35.4	55.4
	女性:50歳代	64	3.1	25.0	40.6	26.6	1.6	3.1	28.1	67.2
	女性:60歳代	68	10.3	29.4	26.5	27.9	4.4	1.5	39.7	54.4
	女性:70歳以上	33	-	45.5	42.4	9.1	-	3.0	45.5	51.5
	男性:20歳代	45	6.7	26.7	33.3	24.4	8.9	-	33.4	57.7
	男性:30歳代	57	7.0	28.1	24.6	26.3	8.8	5.3	35.1	50.9
	男性:40歳代	37	13.5	24.3	18.9	32.4	10.8	-	37.8	51.3
	男性:50歳代	56	8.9	42.9	23.2	10.7	12.5	1.8	51.8	33.9
男性:60歳代	83	7.2	38.6	27.7	21.7	2.4	2.4	45.8	49.4	
男性:70歳以上	19	26.3	47.4	21.1	5.3	-	-	73.7	26.4	
無回答	1	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-	
性別 × 配偶 関係 別	女性:結婚したことはない	39	5.1	12.8	30.8	30.8	17.9	2.6	17.9	61.6
	女性:既婚(共働きである)	116	3.4	20.7	37.9	30.2	7.8	-	24.1	68.1
	女性:既婚(共働きでない)	124	3.2	37.9	34.7	13.7	8.1	2.4	41.1	48.4
	女性:死別	39	10.3	38.5	30.8	17.9	-	2.6	48.8	48.7
	女性:離別	51	11.8	31.4	31.4	19.6	2.0	3.9	43.2	51.0
	女性:その他	1	-	-	100.0	-	-	-	-	100.0
	男性:結婚したことはない	51	9.8	29.4	23.5	29.4	7.8	-	39.2	52.9
	男性:既婚(共働きである)	80	3.8	23.8	28.8	25.0	13.8	5.0	27.6	53.8
	男性:既婚(共働きでない)	126	11.9	42.9	26.2	15.9	3.2	-	54.8	42.1
	男性:死別	6	-	66.7	33.3	-	-	-	66.7	33.3
	男性:離別	29	10.3	34.5	13.8	27.6	6.9	6.9	44.8	41.4
	男性:その他	1	-	-	100.0	-	-	-	-	100.0
	無回答	6	33.3	-	33.3	-	33.3	-	33.3	33.3

2. 男女の地位の平等感

問2 .あなたは、次にあげるような分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。(ア) ~ (ク)の各分野ごとに、あなたの考えに最も近いものを選んでください。
(印は1つずつ)

各分野において男性は女性よりも「平等」が高く、女性は『男性優位』が高い。

図1 - 2 (1) 男女の地位の平等感 [全体、性別] (前回調査比較)

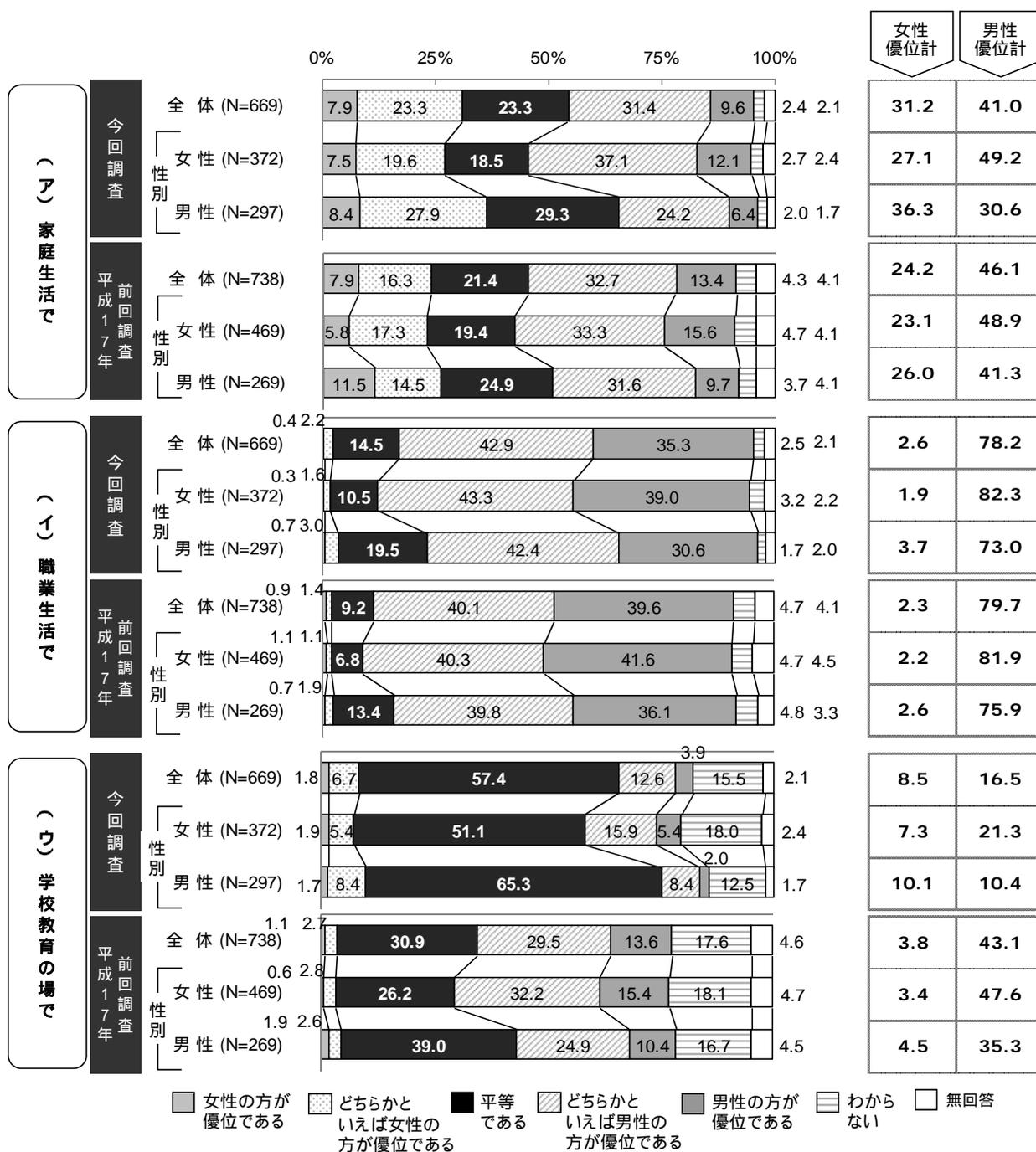
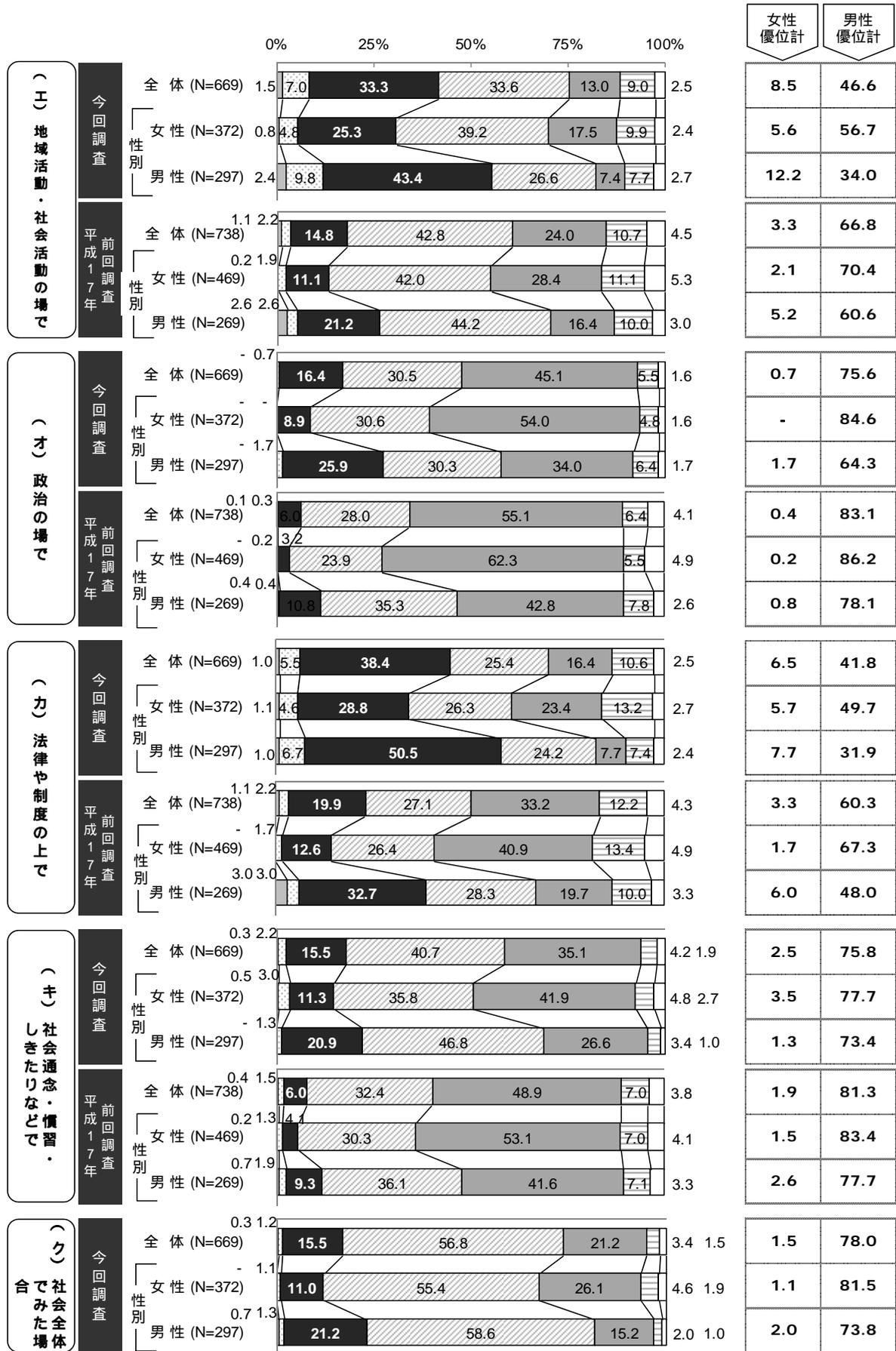


図1-2(2) 男女の地位の平等感 [全体、性別] (前回調査比較)



女性の方が優位である
 どちらかといえば女性の方が優位である
 平等である
 どちらかといえば男性の方が優位である
 男性の方が優位である
 わからない
 無回答

社会における8種類の分野において、男女の地位の平等感についてたずねた。

全体でみると「(イ)職業生活で」「(オ)政治の場で」「(キ)社会通念・慣習・しきたりなどで」「(ク)社会全体でみた場合」において、「男性の方が優位である」と「どちらかといえば男性の方が優位である」を合わせた『男性優位』の回答が7割を上回り、男性優位の傾向が強く認識されている分野となっている。一方、「(ウ)学校教育の場で」においては「平等である」(57.4%)が他の分野の中で最も高い。次いで「(カ)法律や制度の上で」(38.4%)や「(工)地域活動・社会活動の場で」(33.3%)も他の分野に比べて比較的「平等である」が高いが、『男性優位』の割合を上回ってはいない。「(ア)家庭生活で」においては、「女性の方が優位である」と「どちらかといえば女性の方が優位である」を合わせた『女性優位』が31.2%と他の分野に比べ高くなっているが、やはりこれも『男性優位』の割合を上回ってはいない。

性別にみると、すべての分野において男性の方が女性よりも「平等である」と感じる割合が高く、女性は『男性優位』の割合が男性よりも高いという傾向が共通してみられる。男性自身は女性を感じているほど男性の方が優位であるとは感じておらず、男女は平等であると感じているようである。

前回調査と比較すると、「(ウ)学校教育の場で」「(工)地域活動・社会活動の場で」「(オ)政治の場で」「(カ)法律や制度の上で」「(キ)社会通念・慣習・しきたりなどで」などにおいては男女とも『男性優位』が低くなり、「平等である」や『女性優位』が高くなるなど、平等感が前回よりも感じられているようである。

また、「(ア)家庭生活で」「(イ)職業生活で」などにおいては、男性では『男性優位』の割合が前回調査よりも低くなっているが、女性では『男性優位』がやや高く、「平等である」があまり変わらないなど男性は平等と感じるようになってきているが、女性は男性ほど感じられないようである。

属性別特徴

年代別にみると、まず「(ア)家庭生活で」では女性の30歳以上では『男性優位』の割合が『女性優位』を上回っているが、男性の30歳代から50歳代と女性の20歳代では『女性優位』の割合が『男性優位』を上回っている。

「(イ)職業生活で」では女性の30歳代から50歳代で『男性優位』が8割を超えて高く、特に50歳代では89.1%と最も高い。

「(ウ)学校教育の場で」では男女のどの年代も「平等である」の認識が高いが、女性の60歳代では『男性優位』が35.3%と高くなっている。

「(工)地域活動・社会活動の場で」では、地域活動に参加するなどして、地域の実態に触れる機会が多いと思われる女性の30歳以上と男性の60歳以上で『男性優位』の認識が強まる。

「(オ)政治の場で」においては、男女とも『男性優位』との認識はあるが、男性の30歳代以下と70歳以上で「平等である」の認識が高くなる傾向がある。

「(カ)法律や制度の上で」では、男性では70歳以上をのぞく年代で「平等である」との認識が強く、女性はすべての年代で『男性優位』の認識が強い。

「(キ)社会通念・慣習・しきたりなどで」では、男女ともいずれの年代も『男性優位』の認識が強いが、特に女性の30歳代から50歳代で『男性優位』が8割台と強くなっている。

表1 - 2 (2) 男女の地位の平等感 [全体、年代別]

(%)

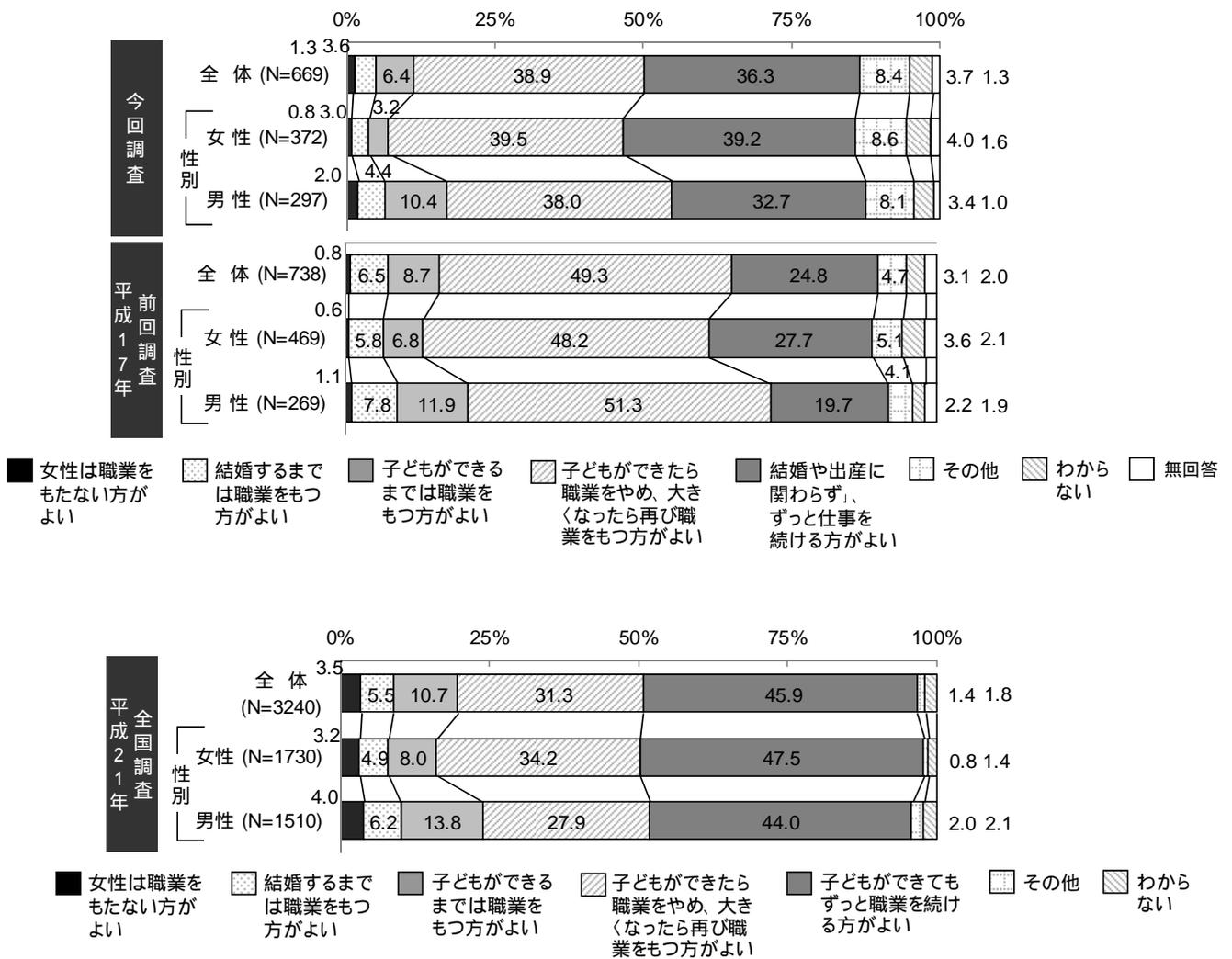
	標本数	(キ) 社会通念・慣習・しきたりなどで								(ク) 社会全体でみた場合										
		る女性の方が優位である	性どちらかといえれば女性	平等である	性どちらかといえれば男性	る男性の方が優位である	わからない	無回答	女性優位計	男性優位計	る女性の方が優位である	性どちらかといえれば女性	平等である	性どちらかといえれば男性	る男性の方が優位である	わからない	無回答	女性優位計	男性優位計	
全体	669	2	15	104	272	235	28	13	17	507	2	8	104	380	142	23	10	10	522	
	100.0	0.3	2.2	15.5	40.7	35.1	4.2	1.9	2.5	75.8	0.3	1.2	15.5	56.8	21.2	3.4	1.5	1.5	78.0	
性別×年代別	女性:20歳代	56	1.8	-	10.7	33.9	35.7	16.1	1.8	1.8	69.6	-	3.6	7.1	50.0	30.4	5.4	3.6	3.6	80.4
	女性:30歳代	85	-	1.2	10.6	38.8	45.9	3.5	-	1.2	84.7	-	1.2	8.2	58.8	25.9	5.9	-	1.2	84.7
	女性:40歳代	65	-	1.5	6.2	35.4	50.8	4.6	1.5	1.5	86.2	-	-	7.7	56.9	32.3	3.1	-	-	89.2
	女性:50歳代	64	-	6.3	3.1	42.2	45.3	1.6	1.6	6.3	87.5	-	-	6.3	67.2	20.3	4.7	1.6	-	87.5
	女性:60歳代	68	1.5	5.9	19.1	32.4	35.3	1.5	4.4	7.4	67.7	-	1.5	19.1	48.5	26.5	4.4	-	1.5	75.0
	女性:70歳以上	33	-	3.0	21.2	27.3	33.3	3.0	12.1	3.0	60.6	-	-	21.2	45.5	18.2	3.0	12.1	-	63.7
	男性:20歳代	45	-	2.2	28.9	35.6	24.4	8.9	-	2.2	60.0	2.2	2.2	26.7	55.6	11.1	2.2	-	4.4	66.7
	男性:30歳代	57	-	-	21.1	36.8	35.1	3.5	3.5	-	71.9	-	-	24.6	50.9	17.5	3.5	3.5	-	68.4
	男性:40歳代	37	-	2.7	13.5	54.1	27.0	2.7	-	2.7	81.1	2.7	2.7	13.5	62.2	16.2	2.7	-	5.4	78.4
	男性:50歳代	56	-	3.6	25.0	44.6	23.2	3.6	-	3.6	67.8	-	1.8	21.4	58.9	16.1	1.8	-	1.8	75.0
	男性:60歳代	83	-	-	16.9	53.0	27.7	1.2	1.2	-	80.7	-	-	19.3	62.7	16.9	-	1.2	-	79.6
	男性:70歳以上	19	-	-	21.1	68.4	10.5	-	-	-	78.9	-	5.3	21.1	63.2	5.3	5.3	-	5.3	68.5
無回答	1	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	

3. 女性が職業をもつことについて

問3. 一般的に「女性が職業をもつこと」について、あなたはどのようにお考えですか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。(印は1つ)

女性の職業の持ち方について継続派(36.3%)と中断・再就職派(38.9%)が拮抗。前回調査に比べ、男女とも継続派が増加し、中断・再就職派が減少。

図1-3 女性が職業をもつことについて [全体、性別] (前回調査比較)



女性が職業をもつことについてたずねたところ、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」という中断・再就職派が38.9%、「結婚や出産に関わらず、ずっと仕事を続ける方がよい」という継続派が36.3%とこの二つの考え方が拮抗している。

性別にみると、女性は「結婚や出産にかかわらず、ずっと仕事を続ける方がよい」が39.2%と男性(32.7%)よりも6.5ポイント高い。一方、男性は「女性は職業をもたない方がよい」と「結婚

するまでは職業をもつ方がよい」「子どもができるまでは職業をもつ方がよい」を合わせた専業主婦派が16.8%と女性(7.0%)よりも9.8ポイント高くなっている。

前回調査と比較すると、「結婚や出産にかかわらず、ずっと仕事を続ける方がよい」という継続派は女性で11.5ポイント、男性では13ポイント増加し、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」という中断・再就職派は男女とも減少している。

全国調査と比較すると、継続派は苅田町の方が男女とも10ポイント前後低く、中断・再就職派は女性で5.3ポイント、男性で10.1ポイント高くなっている。

年代別にみると、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」は女性の年齢が高い層で、男性は20歳代と60歳代で4割台と高い。「結婚や出産に関わらず、ずっと仕事を続ける方がよい」は男女とも30歳代から50歳代で高い傾向があり、これらの年代では片働きだけでは経済的に難しいことが実感としてあると思われる。

属性別特徴

性別役割分担意識別にみると、男女とも性別役割分担を容認する人は「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」や「結婚するまでは職業をもつ方がよい」「子どもができるまで職業をもつ方がよい」といった中断・再就職派や中断派が多い。一方、容認しない人は「結婚や出産に関わらず、ずっと仕事を続ける方がよい」といった継続派が多くなっている。

表1-3 女性が職業をもつことについて [全体、年代別、性別役割分担意識別] (%)

		標本数	がよいは職業をもたない方	結婚するまでは職業をもつ方がよい	子どもができるまでは職業をもつ方がよい	子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	子どもができたら仕事を続ける方がよい	その他	わからない	無回答
全体		669 100.0	9 1.3	24 3.6	43 6.4	260 38.9	243 36.3	56 8.4	25 3.7	9 1.3
性別 × 年代別	女性:20歳代	56	1.8	3.6	5.4	32.1	35.7	16.1	3.6	1.8
	女性:30歳代	85	-	2.4	1.2	31.8	44.7	14.1	5.9	-
	女性:40歳代	65	-	1.5	3.1	40.0	40.0	4.6	9.2	1.5
	女性:50歳代	64	-	-	4.7	43.8	40.6	7.8	-	3.1
	女性:60歳代	68	2.9	4.4	1.5	47.1	36.8	4.4	1.5	1.5
	女性:70歳以上	33	-	9.1	6.1	45.5	33.3	-	3.0	3.0
	男性:20歳代	45	-	2.2	6.7	42.2	31.1	15.6	2.2	-
	男性:30歳代	57	3.5	3.5	10.5	28.1	35.1	14.0	1.8	3.5
	男性:40歳代	37	5.4	5.4	2.7	35.1	37.8	8.1	5.4	-
	男性:50歳代	56	-	5.4	12.5	35.7	37.5	1.8	7.1	-
男性:60歳代	83	2.4	2.4	12.0	47.0	27.7	6.0	1.2	1.2	
男性:70歳以上	19	-	15.8	21.1	31.6	26.3	-	5.3	-	
無回答	1	-	-	-	100.0	-	-	-	-	
性別 × 意識別 役割 分担	女性:賛成	20	5.0	15.0	5.0	35.0	30.0	10.0	-	-
	女性:どちらかといえば賛成	107	1.9	6.5	3.7	59.8	17.8	4.7	4.7	0.9
	女性:どちらかといえば反対	129	-	-	3.9	39.5	45.0	10.1	1.6	-
	女性:反対	81	-	1.2	-	23.5	67.9	7.4	-	-
	女性:わからない	28	-	-	3.6	21.4	25.0	17.9	28.6	3.6
	男性:賛成	28	3.6	21.4	21.4	35.7	10.7	3.6	3.6	-
	男性:どちらかといえば賛成	102	3.9	5.9	18.6	53.9	14.7	2.9	-	-
	男性:どちらかといえば反対	76	-	1.3	1.3	36.8	46.1	11.8	2.6	-
	男性:反対	63	-	-	6.3	23.8	58.7	7.9	3.2	-
	男性:わからない	22	4.5	-	4.5	18.2	27.3	27.3	18.2	-
無回答	13	-	-	7.7	7.7	15.4	7.7	7.7	53.8	

第2章 家庭生活について

1. 家庭内における性別役割分担の状況

(1) 家庭内の役割分担

【現在、配偶者・パートナー(事実婚含む)と同居している方におたずねします】

問4.あなたのご家庭では、次にあげるような家庭内の仕事を、主に誰がしていますか。(ア)～(ケ)の各項目について、最もあてはまるものを選んでください。
(印はそれぞれ1つ)

日常の家事、家計の管理、育児・しつけ、親の世話などの仕事では、女性は「主に妻が行っている」、男性は「夫が一部を分担」「妻と夫が同程度」と評価し、男女差がみられる。

図2-1(1) 家庭内の役割分担 [全体、性別] (前回調査比較)

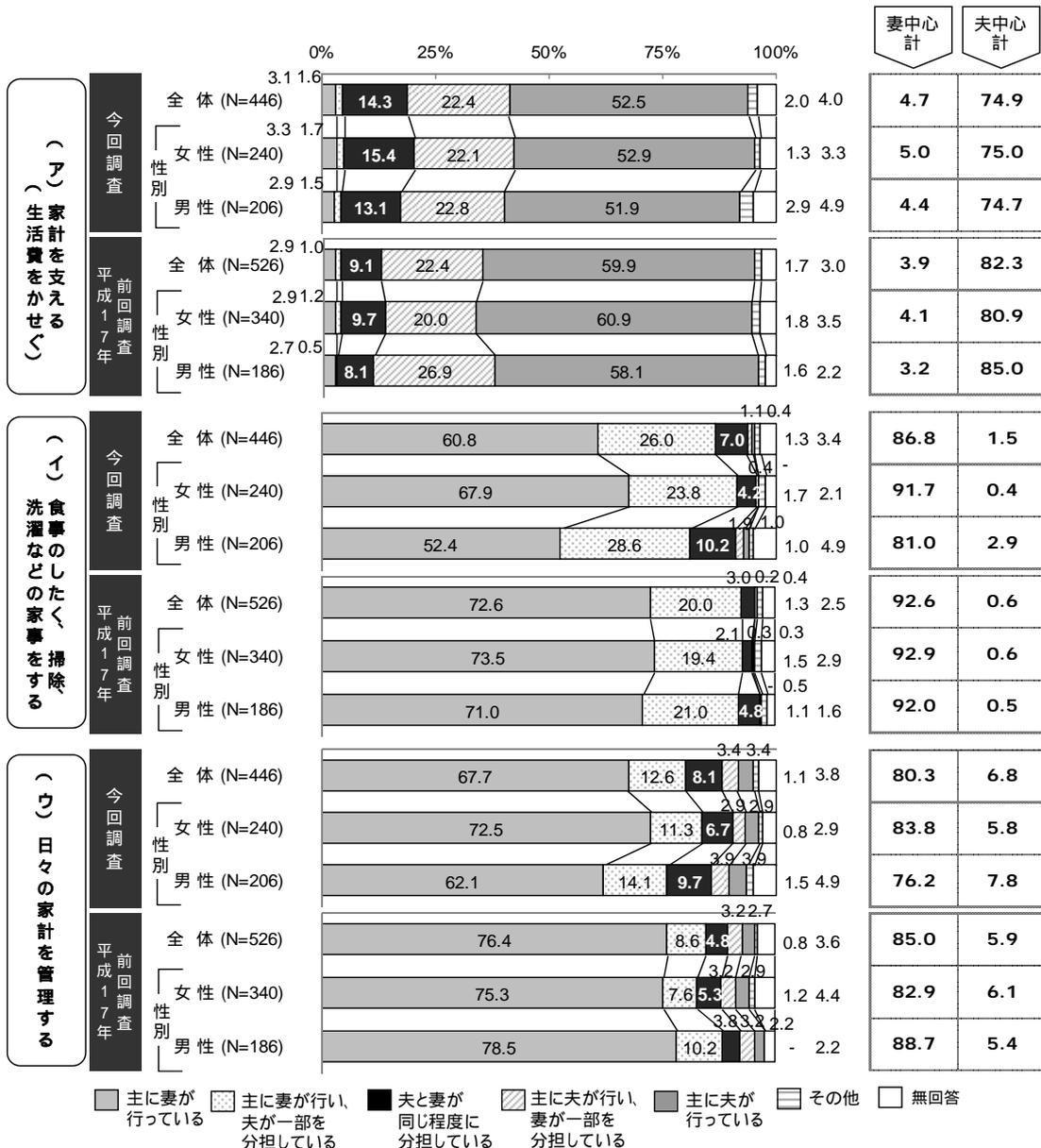


図2-1(2) 家庭内の役割分担 [全体、性別](前回調査比較)

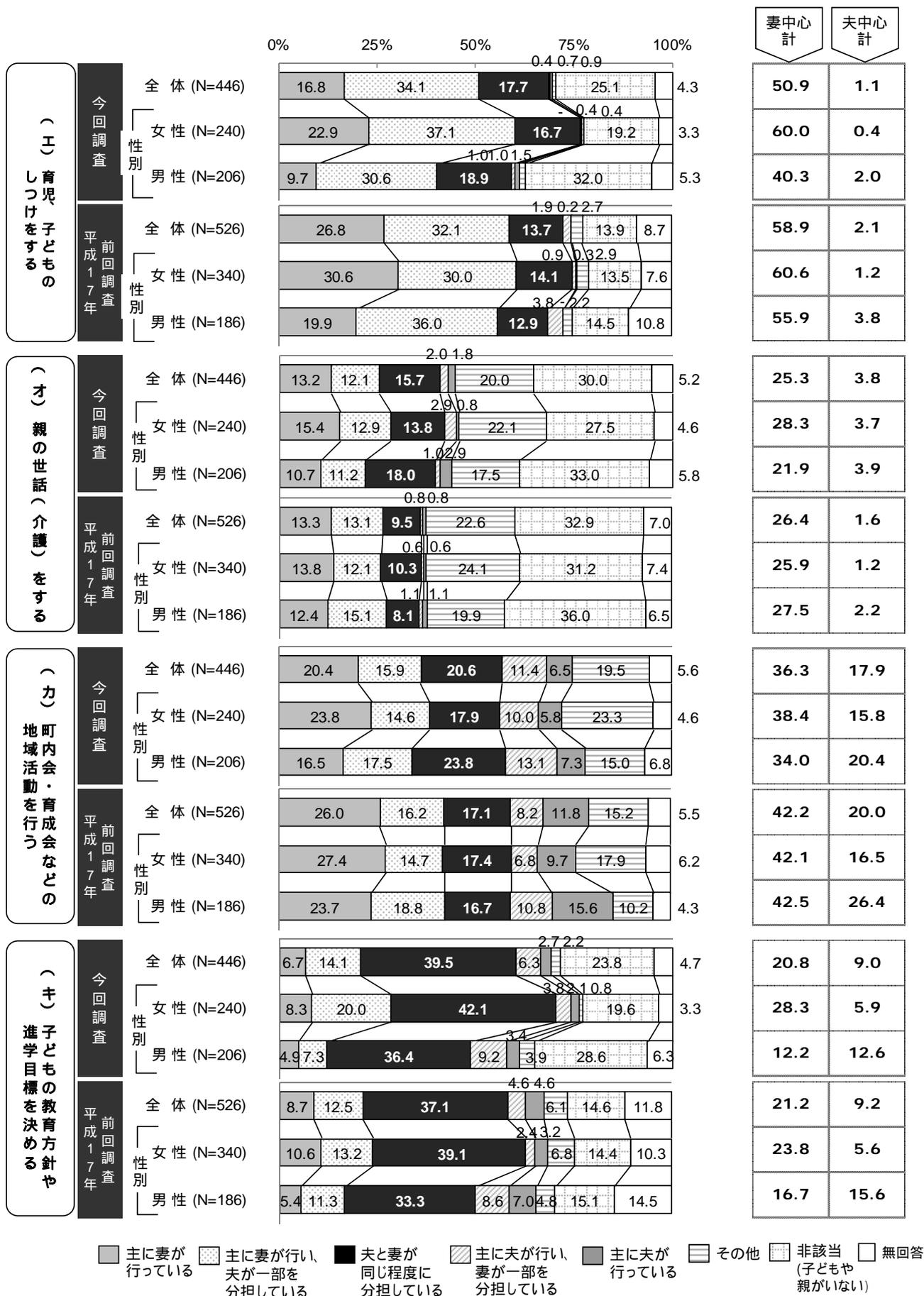
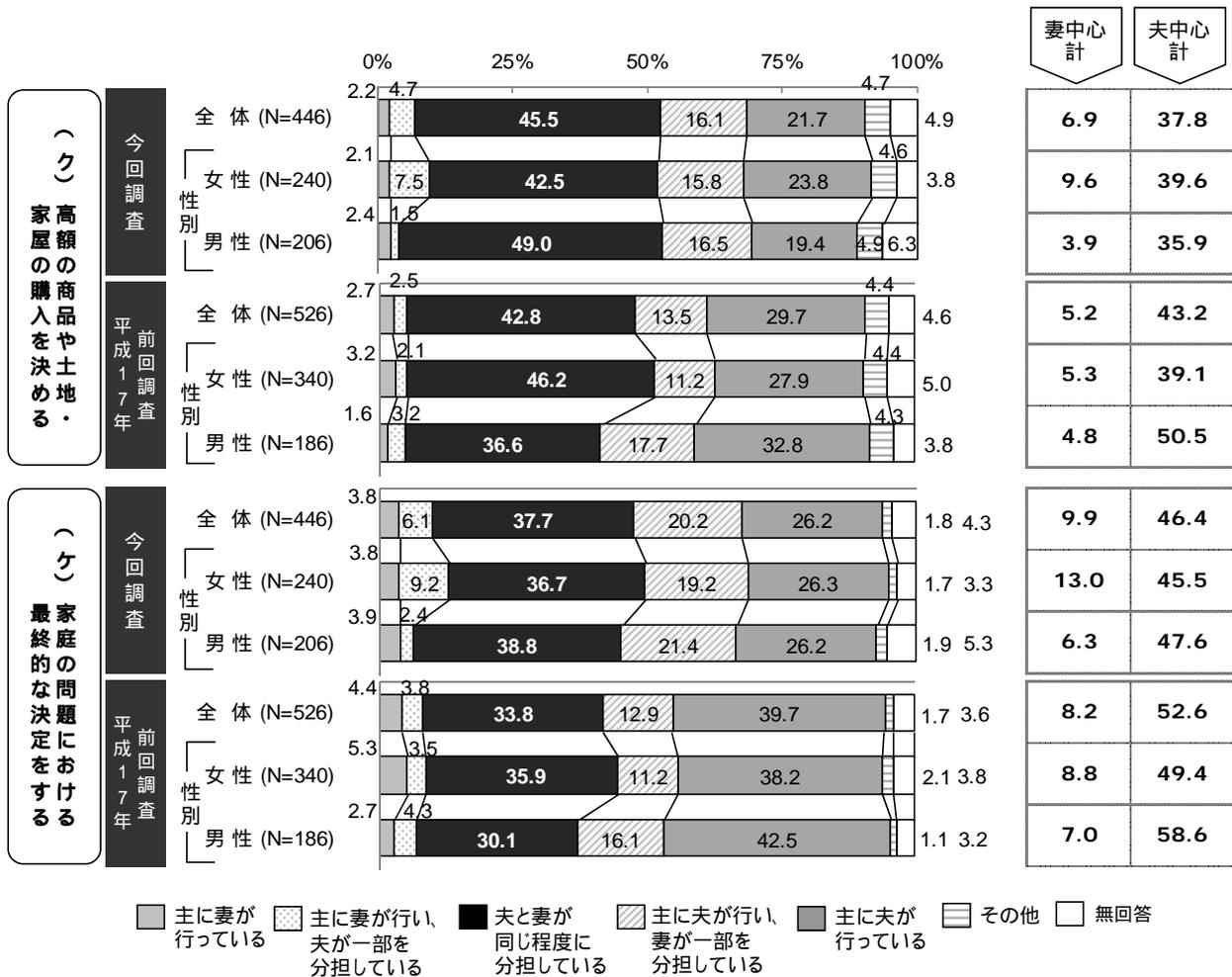


図2-1(3) 家庭内の役割分担 [全体、性別](前回調査比較)



配偶者・パートナーがいる人に9種類の家庭内の仕事を主に夫と妻のどちらがやっているかをたずねた。

「(イ) 食事のしたく、掃除、洗濯などの家事をする」「(ウ) 日々の家計を管理する」などの日常的なことは、「主に妻が行っている」と「主に妻が行い、夫が一部を分担している」を合わせた『妻中心』が8割以上となっている。また「(エ) 育児、子どものしつけをする」(50.9%)や「(カ) 町内会・育成会などの地域活動を行う」(36.3%)なども『妻中心』の割合が高い。

「(ア) 家計を支える(生活費をかせぐ)」は「主に夫が行っている」と「主に夫が行い、妻が一部を分担している」を合わせた『夫中心』が74.9%と高く、また「(ケ) 家庭の問題における最終的な決定をする」(46.4%)も『夫中心』の割合が高い。

「(キ) 子どもの教育方針や進学目標を決める」(39.5%)、「(ク) 高額の商品や土地・家屋の購入を決める」(45.5%)などは「妻と夫が同じ程度に分担している」が4割前後と高い。

性別にみると、「(イ) 食事のしたく、掃除、洗濯などの家事をする」「(ウ) 日々の家計を管理する」「(エ) 育児、子どものしつけをする」「(オ) 親の世話(介護)をする」「(カ) 町内会・育成会などの地域活動を行う」などの役割分担意識に男女差がみられ、女性は妻が行っているという認識が高いが、男性は一部を分担、または同程度に分担しているという自己評価が高くなる傾向がうかがえる。

前回調査と比較すると、「(ア) 家計を支える(生活費をかせぐ)」「(ケ) 家庭の問題における最終的な決定をする」などは男女とも『夫中心』の割合が減少し、「夫と妻が同じ程度に分担し

ている」の割合が増加している。「(イ) 食事のしたく、掃除、洗濯などの家事をする」「(ウ) 日々の家計を管理する」「(エ) 育児、子どものしつけをする」などについては、女性は『妻中心』の割合にあまり変化は無いが、男性の方は11ポイント以上減少し、「夫と妻が同じ程度に分担している」の割合が増加している。「(オ) 親の世話(介護)をする」「(キ) 子どもの教育方針や進学目標を決める」などは『妻中心』の割合が女性は増加しているが、男性は減少し「夫と妻が同じ程度に分担している」の割合が増加している。「(カ) 町内会・育成会などの地域活動を行う」は男女とも『妻中心』『夫中心』の割合が減少し、男性では「夫と妻が同じ程度に分担している」の割合が増加している。依然として役割に偏りがあるものの、ほとんどの項目で前回調査よりは「夫と妻が同じ程度に分担している」という認識が増加してきているようだ。

属性別特徴

年代別にみると、「(ア) 家計を支える(生活費をかせぐ)」は男性の20歳代で『夫中心』が91.3%、女性は40歳代で86.9%と高い。「(イ) 食事のしたく、掃除、洗濯などの家事をする」は『妻中心』が女性のすべての年代で8割以上、男性の50歳代と60歳代は8割を下回るもののその他の年代では8割以上と高率である。「(ウ) 日々の家計を管理する」は女性の60歳代以下、男性の40歳代以下と70歳以上で『妻中心』が8割を超えて高い。「(エ) 育児、子どものしつけをする」は『妻中心』の割合が高いが、男女とも40歳代以下では「主に妻が行い、夫が一部を分担している」や「夫と妻が同じ程度に分担している」の割合が他の年代に比べて高い。「(オ) 親の世話(介護)をする」は実際に親を介護する年代である50歳以上では『妻中心』の割合が高くなり、特に女性の50歳代と60歳代では「主に妻が行っている」が3割前後となっている。「(カ) 町内会・育成会などの地域活動を行う」は女性の40歳代と50歳代で『妻中心』が5割を超えて高い。「(キ) 子どもの教育方針や進学目標を決める」は男女とも40歳代以下で「夫と妻が同じ程度に分担している」が4割以上と高い。「(ク) 高額の商品や土地・家屋の購入を決める」は男女とも年齢が低い層で「夫と妻が同じ程度に分担している」の割合が高い傾向にある。「(ケ) 家庭の問題における最終的な決定をする」は男女とも40歳代以下では「夫と妻が同じ程度に分担している」の割合が高く、年齢が高い層では『夫中心』の割合が高い。

配偶関係別にみると、男女とも共働きの場合「(ア) 家計を支える(生活費をかせぐ)」は「夫と妻が同じ程度に分担している」や「主に夫が行い、妻が一部を分担している」の割合が共働きでない場合よりも高くなっている。共働きでない女性は「(イ) 食事のしたく、掃除、洗濯などの家事をする」や「(エ) 育児、子どものしつけをする」「(オ) 親の世話(介護)をする」「(カ) 町内会・育成会などの地域活動を行う」などの日常的な活動が共働きである女性に比べると『妻中心』の割合が高く、共働きである女性は「(キ) 子どもの教育方針や進学目標を決める」「(ク) 高額の商品や土地・家屋の購入を決める」「(ケ) 家庭の問題における最終的な決定をする」などの意思決定の場面において『妻中心』や「夫と妻が同じ程度に分担している」の割合が共働きでない女性よりも高くなっている。

調査結果の分析 町民

表2 - 1 (1) 家庭内の役割分担 [全体、年代別、配偶関係別]

(%)

	標本数	(ア) 家計を支える (生活費をかせく)										(イ) 食事のしたく、掃除、洗濯などの家事をする									
		主に妻が行っている	一部に妻が行っている、夫が	夫と妻が同じ程度に	一部に夫が行っている、妻が	主に夫が行っている	その他	無回答	妻中心計	夫中心計	主に妻が行っている	一部に妻が行っている、夫が	夫と妻が同じ程度に	一部に夫が行っている、妻が	主に夫が行っている	その他	無回答	妻中心計	夫中心計		
		全体	446 100.0	14 3.1	7 1.6	64 14.3	100 22.4	234 52.5	9 2.0	18 4.0	21 4.7	334 74.9	271 60.8	116 26.0	31 7.0	5 1.1	2 0.4	6 1.3	15 3.4	387 86.8	7 1.5
性別 × 年代別																					
女性: 20歳代	38	2.6	2.6	31.6	5.3	55.3	2.6	-	5.2	60.6	63.2	26.3	7.9	-	-	2.6	-	89.5	-		
女性: 30歳代	69	4.3	-	18.8	24.6	49.3	1.4	1.4	4.3	73.9	68.1	27.5	2.9	-	1.4	-	-	95.6	-		
女性: 40歳代	46	2.2	-	10.9	21.7	65.2	-	-	2.2	86.9	76.1	21.7	-	-	2.2	-	-	97.8	-		
女性: 50歳代	43	7.0	4.7	7.0	27.9	48.8	-	4.7	11.7	76.7	62.8	20.9	7.0	2.3	-	7.0	-	83.7	2.3		
女性: 60歳代	31	-	3.2	9.7	22.6	58.1	3.2	3.2	3.2	80.7	67.7	19.4	6.5	-	3.2	3.2	-	87.1	-		
女性: 70歳以上	13	-	-	7.7	38.5	23.1	-	30.8	-	61.6	69.2	23.1	-	-	-	7.7	-	92.3	-		
男性: 20歳代	23	-	4.3	4.3	21.7	69.6	-	-	4.3	91.3	43.5	47.8	8.7	-	-	-	-	91.3	-		
男性: 30歳代	36	-	2.8	19.4	22.2	52.8	-	2.8	2.8	75.0	44.4	44.4	5.6	-	2.8	-	2.8	88.8	2.8		
男性: 40歳代	25	12.0	-	20.0	44.0	20.0	-	4.0	12.0	64.0	52.0	28.0	16.0	-	-	4.0	-	80.0	-		
男性: 50歳代	36	5.6	-	19.4	8.3	52.8	-	13.9	5.6	61.1	58.3	11.1	5.6	8.3	-	13.9	-	69.4	8.3		
男性: 60歳代	71	1.4	1.4	7.0	19.7	60.6	7.0	2.8	2.8	80.3	59.2	19.7	12.7	1.4	1.4	4.2	-	78.9	2.8		
男性: 70歳以上	15	-	-	13.3	40.0	33.3	6.7	6.7	-	73.3	40.0	46.7	13.3	-	-	-	-	86.7	-		
偶性関係別 × 別配																					
女性: 既婚 (共働きである)	116	2.6	0.9	30.2	37.9	25.0	0.9	2.6	3.5	62.9	58.6	29.3	6.9	-	2.6	2.6	-	87.9	-		
女性: 既婚 (共働きでない)	124	4.0	2.4	1.6	7.3	79.0	1.6	4.0	6.4	86.3	76.6	18.5	1.6	0.8	-	0.8	1.6	95.1	0.8		
男性: 既婚 (共働きである)	80	6.3	2.5	27.5	40.0	17.5	-	6.3	8.8	57.5	40.0	32.5	13.8	3.8	2.5	-	7.5	72.5	6.3		
男性: 既婚 (共働きでない)	126	0.8	0.8	4.0	11.9	73.8	4.8	4.0	1.6	85.7	60.3	26.2	7.9	0.8	-	1.6	3.2	86.5	0.8		
	標本数	(ウ) 日々の家計を管理する										(エ) 育児、子どものしつけをする									
		主に妻が行っている	一部に妻が行っている、夫が	夫と妻が同じ程度に	一部に夫が行っている、妻が	主に夫が行っている	その他	無回答	妻中心計	夫中心計	主に妻が行っている	一部に妻が行っている、夫が	夫と妻が同じ程度に	一部に夫が行っている、妻が	主に夫が行っている	その他	がいない (子どもや親)	無回答	妻中心計	夫中心計	
		全体	446 100.0	302 67.7	56 12.6	36 8.1	15 3.4	15 3.4	5 1.1	17 3.8	358 80.3	30 6.8	75 16.8	152 34.1	79 17.7	2 0.4	3 0.7	4 0.9	112 25.1	19 4.3	227 50.9
性別 × 年代別																					
女性: 20歳代	38	86.8	2.6	7.9	-	-	2.6	-	89.4	-	18.4	47.4	15.8	-	-	-	18.4	-	65.8	-	
女性: 30歳代	69	71.0	17.4	7.2	1.4	2.9	-	-	88.4	4.3	18.8	44.9	18.8	-	1.4	-	15.9	-	63.7	1.4	
女性: 40歳代	46	73.9	6.5	10.9	4.3	4.3	-	-	80.4	8.6	21.7	37.0	23.9	-	-	2.2	15.2	-	58.7	-	
女性: 50歳代	43	69.8	11.6	4.7	2.3	2.3	2.3	7.0	81.4	4.6	30.2	32.6	7.0	-	-	-	23.3	7.0	62.8	-	
女性: 60歳代	31	71.0	12.9	-	9.7	3.2	-	3.2	83.9	12.9	32.3	19.4	16.1	-	-	-	29.0	3.2	51.7	-	
女性: 70歳以上	13	46.2	15.4	7.7	-	7.7	-	23.1	61.6	7.7	15.4	23.1	15.4	-	-	-	15.4	30.8	38.5	-	
男性: 20歳代	23	60.9	26.1	4.3	4.3	-	4.3	-	87.0	4.3	4.3	47.8	21.7	-	-	-	26.1	-	52.1	-	
男性: 30歳代	36	69.4	13.9	5.6	-	5.6	2.8	2.8	83.3	5.6	5.6	41.7	19.4	-	-	-	30.6	2.8	47.3	-	
男性: 40歳代	25	56.0	24.0	16.0	-	-	-	4.0	80.0	-	12.0	40.0	28.0	-	4.0	-	12.0	4.0	52.0	4.0	
男性: 50歳代	36	47.2	5.6	13.9	8.3	11.1	-	13.9	52.8	19.4	13.9	27.8	19.4	2.8	2.8	2.8	16.7	13.9	41.7	5.6	
男性: 60歳代	71	66.2	12.7	11.3	4.2	1.4	1.4	2.8	78.9	5.6	9.9	21.1	15.5	1.4	-	2.8	43.7	5.6	31.0	1.4	
男性: 70歳以上	15	73.3	6.7	-	6.7	6.7	-	6.7	80.0	13.4	13.3	13.3	13.3	-	-	-	60.0	-	26.6	-	
偶性関係別 × 別配																					
女性: 既婚 (共働きである)	116	75.0	9.5	6.9	1.7	4.3	-	2.6	84.5	6.0	23.3	34.5	18.1	-	0.9	0.9	19.8	2.6	57.8	0.9	
女性: 既婚 (共働きでない)	124	70.2	12.9	6.5	4.0	1.6	1.6	3.2	83.1	5.6	22.6	39.5	15.3	-	-	-	18.5	4.0	62.1	-	
男性: 既婚 (共働きである)	80	53.8	13.8	16.3	3.8	5.0	1.3	6.3	67.6	8.8	8.8	37.5	26.3	1.3	2.5	-	17.5	6.3	46.3	3.8	
男性: 既婚 (共働きでない)	126	67.5	14.3	5.6	4.0	3.2	1.6	4.0	81.8	7.2	10.3	26.2	14.3	0.8	-	2.4	41.3	4.8	36.5	0.8	

表2 - 1 (2) 家庭内の役割分担 [全体、年代別、配偶関係別]

		(オ)親の世話(介護)をする										(カ)町内会・育成会などの地域活動を行う																														
		主		一主		夫と妻		一主		主		その他		無回答		妻中心計		夫中心計		主		一主		夫と妻		一主		主		その他		無回答		妻中心計		夫中心計						
		に妻が行っている		に妻が行っている、夫が		と妻が行っている程度に		に夫が行っている、妻が		に夫が行っている		その他		がいない(子どもや親)		無回答		妻中心計		夫中心計		に妻が行っている		に妻が行っている、夫が		と妻が行っている程度に		に夫が行っている、妻が		に夫が行っている		その他		無回答		妻中心計		夫中心計				
		標本数																		標本数																						
全体		446	59	54	70	9	8	89	134	23	113	17	91	71	92	51	29	87	25	162	80	100.0	13.2	12.1	15.7	2.0	1.8	20.0	30.0	5.2	25.3	3.8	20.4	15.9	20.6	11.4	6.5	19.5	5.6	36.3	17.9	
性別×年代別	女性:20歳代	38	2.6	2.6	18.4	-	-	23.7	52.6	-	5.2	-	15.8	2.6	15.8	15.8	10.5	39.5	-	18.4	26.3	69	8.7	15.9	20.3	1.4	-	34.8	18.8	-	24.6	1.4	17.4	17.4	20.3	7.2	2.9	34.8	-	34.8	10.1	
	女性:30歳代	46	10.9	17.4	15.2	2.2	2.2	23.9	23.9	4.3	28.3	4.4	32.6	19.6	19.6	2.2	-	23.9	2.2	52.2	2.2	43	32.6	9.3	9.3	7.0	2.3	9.3	23.3	7.0	41.9	9.3	27.9	23.3	14.0	4.7	11.6	7.0	11.6	51.2	16.3	
	女性:40歳代	31	29.0	16.1	3.2	3.2	-	16.1	25.8	6.5	45.1	3.2	32.3	-	16.1	29.0	9.7	9.7	3.2	32.3	38.7	13	15.4	15.4	-	7.7	-	-	30.8	30.8	30.8	7.7	15.4	23.1	23.1	7.7	-	-	30.8	-	38.5	7.7
	女性:50歳代	23	-	13.0	17.4	4.3	-	26.1	39.1	-	13.0	4.3	13.0	8.7	21.7	8.7	13.0	34.8	-	21.7	21.7	36	8.3	2.8	22.2	-	-	36.1	27.8	2.8	11.1	-	19.4	19.4	13.9	8.3	5.6	30.6	2.8	38.8	13.9	
	女性:60歳代	25	4.0	4.0	32.0	-	-	28.0	28.0	4.0	8.0	-	12.0	24.0	40.0	12.0	-	8.0	4.0	36.0	12.0	36	13.9	16.7	13.9	-	8.3	8.3	27.8	11.1	30.6	8.3	22.2	13.9	27.8	8.3	8.3	2.8	16.7	36.1	16.0	
	女性:70歳以上	71	18.3	12.7	14.1	-	4.2	9.9	33.8	7.0	31.0	4.2	15.5	19.7	22.5	14.1	8.5	12.7	7.0	35.2	22.6	15	-	20.0	13.3	6.7	-	-	53.3	6.7	20.0	6.7	13.3	13.3	20.0	40.0	6.7	-	6.7	26.6	46.7	
	男性:20歳代	116	12.1	12.9	13.8	1.7	0.9	25.9	30.2	2.6	25.0	2.6	20.7	13.8	19.8	6.9	4.3	31.0	3.4	34.5	11.2	36	8.3	2.8	22.2	-	-	36.1	27.8	2.8	11.1	-	19.4	19.4	13.9	8.3	5.6	30.6	2.8	38.8	13.9	
	男性:30歳代	124	18.5	12.9	13.7	4.0	0.8	18.5	25.0	6.5	31.4	4.8	26.6	15.3	16.1	12.9	7.3	16.1	5.6	41.9	20.2	25	4.0	4.0	32.0	-	-	28.0	28.0	4.0	8.0	-	12.0	24.0	40.0	12.0	-	8.0	4.0	36.0	12.0	
	男性:40歳代	80	7.5	7.5	23.8	1.3	2.5	21.3	30.0	6.3	15.0	3.8	17.5	21.3	27.5	10.0	3.8	12.5	7.5	38.8	13.8	36	13.9	16.7	13.9	-	8.3	8.3	27.8	11.1	30.6	8.3	22.2	13.9	27.8	8.3	8.3	2.8	16.7	36.1	16.0	
	男性:50歳代	126	12.7	13.5	14.3	0.8	3.2	15.1	34.9	5.6	26.2	4.0	15.9	15.1	21.4	15.1	9.5	16.7	6.3	31.0	24.6	71	18.3	12.7	14.1	-	4.2	9.9	33.8	7.0	31.0	4.2	15.5	19.7	22.5	14.1	8.5	12.7	7.0	35.2	22.6	
男性:60歳代	80	7.5	7.5	23.8	1.3	2.5	21.3	30.0	6.3	15.0	3.8	17.5	21.3	27.5	10.0	3.8	12.5	7.5	38.8	13.8	15	-	20.0	13.3	6.7	-	-	53.3	6.7	20.0	6.7	13.3	13.3	20.0	40.0	6.7	-	6.7	26.6	46.7		
男性:70歳以上	116	12.1	12.9	13.8	1.7	0.9	25.9	30.2	2.6	25.0	2.6	20.7	13.8	19.8	6.9	4.3	31.0	3.4	34.5	11.2	126	12.7	13.5	14.3	0.8	3.2	15.1	34.9	5.6	26.2	4.0	15.9	15.1	21.4	15.1	9.5	16.7	6.3	31.0	24.6		
偶性別係別配	女性:既婚(共働きである)	116	12.1	12.9	13.8	1.7	0.9	25.9	30.2	2.6	25.0	2.6	20.7	13.8	19.8	6.9	4.3	31.0	3.4	34.5	11.2	女性:既婚(共働きでない)	124	18.5	12.9	13.7	4.0	0.8	18.5	25.0	6.5	31.4	4.8	26.6	15.3	16.1	12.9	7.3	16.1	5.6	41.9	20.2
	男性:既婚(共働きである)	80	7.5	7.5	23.8	1.3	2.5	21.3	30.0	6.3	15.0	3.8	17.5	21.3	27.5	10.0	3.8	12.5	7.5	38.8	13.8	男性:既婚(共働きでない)	80	7.5	7.5	23.8	1.3	2.5	21.3	30.0	6.3	15.0	3.8	17.5	21.3	27.5	10.0	3.8	12.5	7.5	38.8	13.8
	男性:既婚(共働きでない)	126	12.7	13.5	14.3	0.8	3.2	15.1	34.9	5.6	26.2	4.0	15.9	15.1	21.4	15.1	9.5	16.7	6.3	31.0	24.6	男性:既婚(共働きでない)	126	12.7	13.5	14.3	0.8	3.2	15.1	34.9	5.6	26.2	4.0	15.9	15.1	21.4	15.1	9.5	16.7	6.3	31.0	24.6
		(キ)子どもの教育方針や進学目標を決める										(ク)高額の商品や土地・家屋の購入を決める																														
		主		一主		夫と妻		一主		主		その他		無回答		妻中心計		夫中心計		主		一主		夫と妻		一主		主		その他		無回答		妻中心計		夫中心計						
		に妻が行っている		に妻が行っている、夫が		と妻が行っている程度に		に夫が行っている、妻が		に夫が行っている		その他		がいない(子どもや親)		無回答		妻中心計		夫中心計		に妻が行っている		に妻が行っている、夫が		と妻が行っている程度に		に夫が行っている、妻が		に夫が行っている		その他		無回答		妻中心計		夫中心計				
		標本数																		標本数																						
全体		446	30	63	176	28	12	10	106	21	93	40	10	21	203	72	97	21	22	31	169	100.0	6.7	14.1	39.5	6.3	2.7	2.2	23.8	4.7	20.8	9.0	2.2	4.7	45.5	16.1	21.7	4.7	4.9	6.9	37.8	
性別×年代別	女性:20歳代	38	13.2	18.4	44.7	2.6	-	2.6	18.4	-	31.6	2.6	7.9	13.2	57.9	2.6	13.2	5.3	-	21.1	15.8	69	7.2	17.4	53.6	4.3	1.4	-	15.9	-	24.6	5.7	-	5.8	44.9	24.6	15.9	8.7	-	5.8	40.5	
	女性:30歳代	46	13.0	15.2	45.7	6.5	2.2	2.2	15.2	-	28.2	8.7	2.2	4.3	52.2	19.6	19.6	2.2	-	6.5	39.2	43	2.3	34.9	27.9	-	2.3	-	25.6	7.0	37.2	2.3	2.3	11.6	32.6	14.0	30.2	2.3	7.0	13.9	44.2	
	女性:40歳代	31	6.5	16.1	35.5	6.5	3.2	-	29.0	3.2	22.6	9.7	-	6.5	29.0	9.7	45.2	3.2	6.5	6.5	54.9	13	7.7	15.4	23.1	-	7.7	-	15.4	30.8	23.1	7.7	-	-	15.4	15.4	38.5	-	30.8	-	53.9	
	女性:50歳代	23	-	17.4	47.8	4.3	-	8.7	21.7	-	17.4	4.3	4.3	-	65.2	21.7	4.3	4.3	-	4.3	26.0	36	5.6	5.6	52.8	-	2.8	-	30.6	2.8	11.2	2.8	-	5.6	55.6	11.1	16.7	8.3	2.8	5.6	27.8	
	女性:60歳代	25	4.0	8.0	52.0	8.0	8.0	8.0	8.0	4.0	12.0	16.0	4.0	-	64.0	16.0	8.0	4.0	4.0	4.0	24.0	36	5.6	8.3	33.3	5.6	11.1	2.8	19.4	13.9	13.9	16.7	2.8	2.8	44.4	2.8	30.6	-	16.7	5.6	33.4	
	女性:70歳以上	71	5.6	5.6	25.4	16.9	-	4.2	35.2	7.0	11.2	16.9	2.8	-	40.8	23.9	21.1	5.6	5.6	2.8	45.0	15	6.7	-	13.3	13.3	-	-	60.0	6.7	6.7	13.3	-	-	33.3	20.0	33.3	6.7	6.7	-	53.3	
	男性:20歳代	116	10.3	21.6	39.7	2.6	1.7	0.9	20.7	2.6	31.9	4.3	3.4	6.9	44.8	17.2	17.2	7.8	2.6	10.3	34.4	36	5.6	5.6	52.8	-	2.8	-	30.6	2.8	11.2	2.8	-	5.6	55.6	11.1	16.7	8.3	2.8	5.6	27.8	
	男性:30歳代	124	6.5	18.5	44.4	4.8	2.4	0.8	18.5	4.0	25.0	7.2	0.8	8.1	40.3	14.5	29.8	1.8	4.8	8.9	44.3	25	4.0	4.0	32.0	-	-	28.0	28.0	4.0	8.0	-	12.0	24.0	40.0	12.0	-	8.0	4.0	36.0	12.0	
	男性:40歳代	80	5.0	8.8	46.3	6.3	7.5	3.8	15.0	7.5	13.8	13.8	3.8	-	55.0	12.5	16.3	5.0	7.5	3.8	28.8	36	5.6	8.3	33.3	5.6	11.1	2.8	19.4	13.9	13.9	16.7	2.8	2.8	44.4	2.8	30.6	-	16.7	5.6	33.4	
	男性:50歳代	126	4.8	6.3	30.2	11.1	0.8	4.0	37.3	5.6	11.1	11.9	1.6	2.4	45.2	19.0	21.4	4.8	5.6	4.0	40.4	71	5.6	5.6	25.4	16.9	-	4.2	35.2	7.0	11.2	16.9	2.8	-	40.8	23.9	21.1	5.6	5.6	2.8	45.0	
男性:60歳代	80	5.0	8.8	46.3	6.3	7.5	3.8	15.0	7.5	13.8	13.8	3.8	-	55.0	12.5	16.3	5.0	7.5	3.8	28.8	15	6.7	-	13.3	13.3	-	-	60.0	6.7	6.7	13.3	-	-	33.3	20.0	33.3	6.7	6.7	-	53.3		
男性:70歳以上	116	10.3	21.6	39.7	2.6	1.7	0.9	20.7	2.6	31.9	4.3	3.4	6.9	44.8	17.2	17.2	7.8	2.6	10.3	34.4	偶性別係別配	女性:既婚(共働きである)	116	5.2	10.3	40.5	12.9	26.7	1.7	2.6	15.5	39.6										
	女性:既婚(共働きでない)	124	2.4	8.1	33.1	25.0	25.8	1.6	4.0	10.5	50.8	女性:既婚(共働きでない)	124	18.5	12.9	13.7	4.0	0.8	18.5	25.0	6.5	31.4	4.8	26.6	15.3	16.1	12.9	7.3	16.1	5.6	41.9	20.2										
	男性:既婚(共働きである)	80	3.8	1.3	52.5	13.8	21.3	1.3	6.3	5.1	35.1	男性:既婚(共働きである)	80	7.5	7.5	23.8	1.3	2.5	21.3	30.0	6.3	15.0	3.8	17.5	21.3	27.5	10.0	3.8	12.5	7.5	38.8	13.8										
	男性:既婚(共働きでない)	126	4.0	3.2	30.2	26.2	29.4	2.4	4.8	7.2	55.6	男性:既婚(共働きでない)	126	12.7	13.5	14.3	0.																									

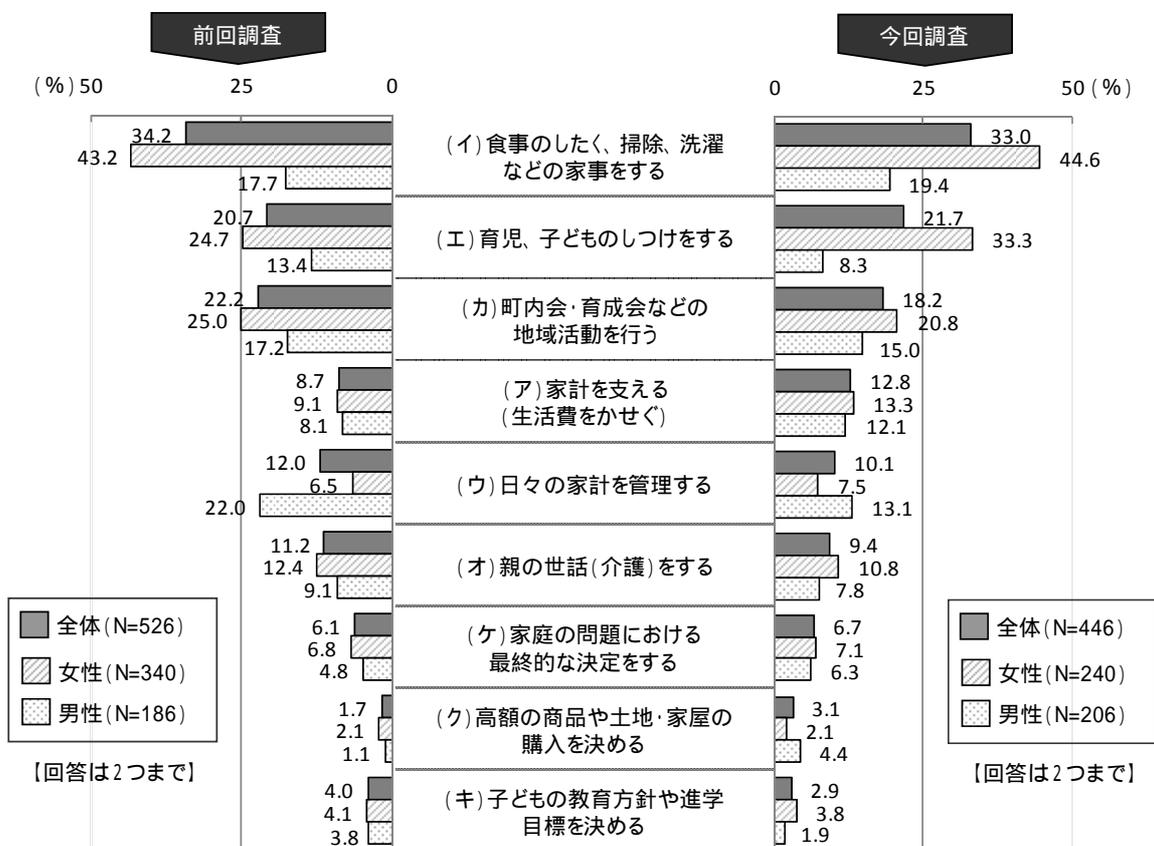
(2) 配偶者にもっとしてもらいたいこと

【現在、配偶者・パートナー(事実婚含む)と同居している方におたずねします】

問4 . また、あなたが、配偶者の方にもっとしてほしいことはどれですか。問4の(ア)～(ケ)のうち、主なものを2つまで選び、下の枠の中にカタカナで記入してください。

女性は日常的な家事、育児・しつけ、地域活動に夫側の参画を求めている。
共働きである女性は日常的な家事、共働きでない女性は育児・しつけ、地域活動への要望が高い。

図2 - 2 配偶者にもっとしてもらいたいこと [全体、性別] (前回調査比較)



先述の9種類の家庭内の仕事について、配偶者にもっとしてもらいたいものとして2つまで選んでもらった。

男女差がみられるのは「(イ) 食事のしたく、掃除、洗濯などの家事をする」では25.2ポイント、「(エ) 育児、子どものしつけをする」では25ポイント、また「(カ) 町内会・育成会などの地域活動を行う」でも5.8ポイント女性の方が高くなっており、日常的な家事、育児・しつけ、地域活動などについて夫の参画を妻が求めていることがわかる。

前回調査と比較すると、あまり大きな変化はみられないが、「(エ) 育児、子どものしつけをする」は女性の要望が前回調査よりも8.6ポイント増加、「(ウ) 日々の家計を管理する」は男性の要望が8.9ポイント減少している。また「(ア) 家計を支える(生活費をかせぐ)」は男女とも前回調査より4ポイントほど増加している。

属性別特徴

年代別にみると、「(イ) 食事のしたく、掃除、洗濯などの家事をする」は女性の 60 歳代以下で 4 割を超えて高く、特に 40 歳代では 54.3% と 5 割を超えている。また、その他女性では「(エ) 育児、子どものしつけをする」は 40 歳代以下で、「(カ) 町内会・育成会などの地域活動を行う」は 40 歳代と 50 歳代、「親の世話(介護)をする」は 50 歳以上での要望が高い。

配偶関係別にみると、共働きである女性は「(イ) 食事のしたく、掃除、洗濯などの家事をする」が 53.4% と最も高く、共働きでない女性は「(エ) 育児、子どものしつけをする」(37.1%)、「(カ) 町内会・育成会などの地域活動を行う」(23.4%) などの要望が高くなっている。

表 2 - 2 配偶者にもっとしてもらいたいこと [全体、年代別、配偶関係別]

		(%)											
		標本数	(ア) 生活費をかせぐ	(イ) 掃除、洗濯などの家事をする	(ウ) 日々の家計を管理する	(エ) 育児、子どものしつけをする	(オ) 親の世話(介護)をする	(カ) 町内会・育成会などの地域活動を行う	(キ) 子どもの教育方針や進学目標を決める	(ク) 高額の商品や土地・家屋の購入を決める	(ケ) 最終的な決定をする	無回答	
全体		446 100.0	57 12.8	147 33.0	45 10.1	97 21.7	42 9.4	81 18.2	13 2.9	14 3.1	30 6.7	148 33.2	
性別 × 年代別	女性:20歳代	38	26.3	47.4	5.3	50.0	2.6	7.9	-	-	18.4	15.8	
	女性:30歳代	69	8.7	43.5	2.9	46.4	8.7	13.0	4.3	2.9	4.3	24.6	
	女性:40歳代	46	13.0	54.3	10.9	41.3	8.7	30.4	2.2	4.3	-	6.5	
	女性:50歳代	43	14.0	41.9	11.6	7.0	16.3	41.9	9.3	2.3	4.7	16.3	
	女性:60歳代	31	9.7	48.4	6.5	19.4	19.4	12.9	3.2	-	16.1	22.6	
	女性:70歳以上	13	7.7	7.7	15.4	7.7	15.4	15.4	-	-	-	-	61.5
	男性:20歳代	23	17.4	30.4	13.0	17.4	4.3	8.7	-	-	8.7	43.5	
	男性:30歳代	36	13.9	16.7	13.9	5.6	5.6	11.1	-	-	2.8	58.3	
	男性:40歳代	25	4.0	8.0	16.0	16.0	12.0	8.0	8.0	-	-	56.0	
	男性:50歳代	36	16.7	36.1	27.8	5.6	8.3	11.1	2.8	2.8	8.3	36.1	
男性:60歳代	71	9.9	14.1	5.6	7.0	7.0	19.7	1.4	9.9	7.0	49.3		
男性:70歳以上	15	13.3	13.3	6.7	-	13.3	33.3	-	6.7	13.3	46.7		
偶性 関係 × 配偶 別	女性:既婚(共働きである)	116	12.9	53.4	7.8	29.3	10.3	18.1	6.0	2.6	9.5	17.2	
	女性:既婚(共働きでない)	124	13.7	36.3	7.3	37.1	11.3	23.4	1.6	1.6	4.8	22.6	
	男性:既婚(共働きである)	80	10.0	27.5	17.5	15.0	12.5	11.3	2.5	-	2.5	45.0	
	男性:既婚(共働きでない)	126	13.5	14.3	10.3	4.0	4.8	17.5	1.6	7.1	8.7	50.8	

第3章 職業について

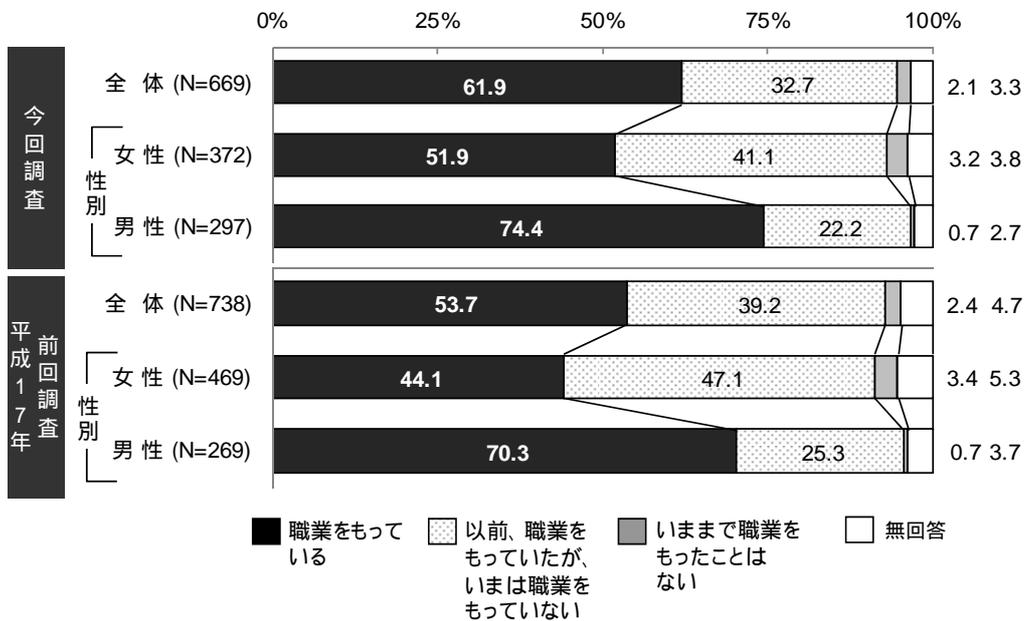
1. 就労状況

(1) 職業の有無

問5. あなたは現在、職業（収入のある仕事）をもっていますか。（印は1つ）

女性の有職率は約5割。前回調査より約8ポイント上昇。
女性の50歳代までの有職率は6割台である。

図3-1 職業の有無 [全体、性別] (前回調査比較)



現在の職業の有無について、「職業をもっている」は61.9%、「以前、職業をもっていたが、いまは職業をもっていない」は32.7%、「いままで職業をもったことはない」は2.1%となっている。

性別にみると、「職業をもっている」女性は51.9%、男性は74.4%となっている。前回調査と比較すると、女性の有職率は44.1%から7.8ポイント上昇している。

属性別特徴

年代別にみると、女性の50歳代までは「職業をもっている」割合が6割台となっている。

表3 - 1 職業の有無 [全体、年代別]

(%)

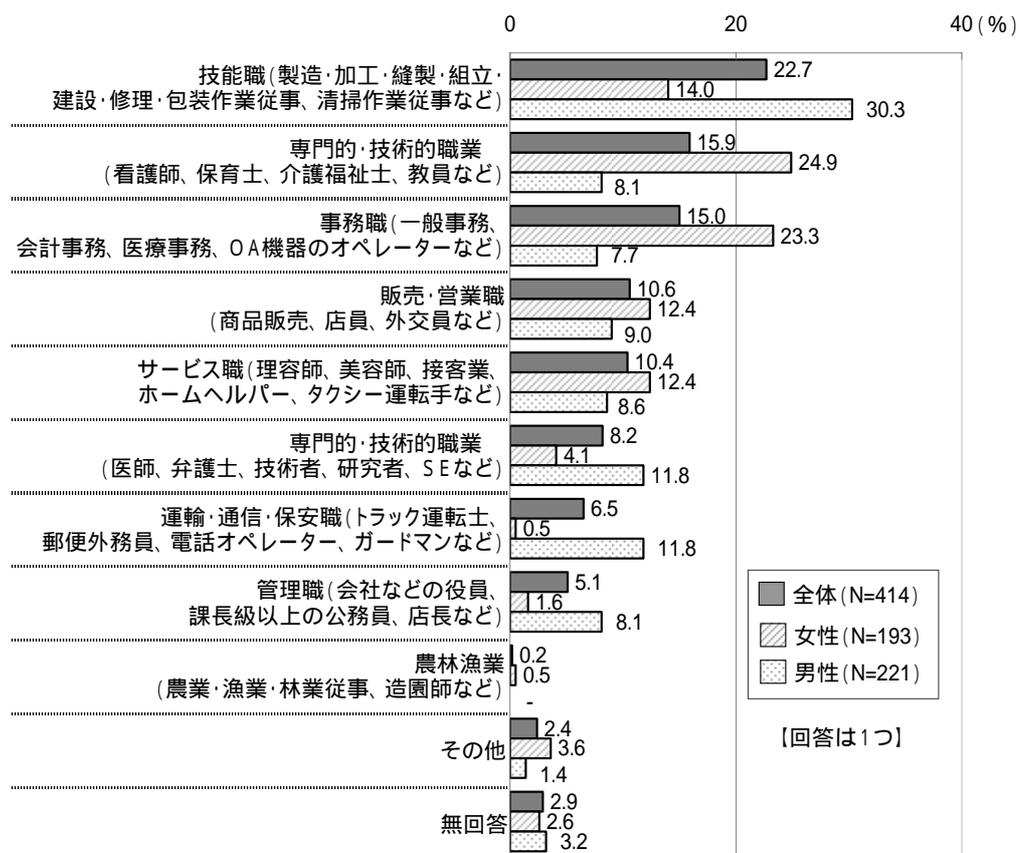
		標 本 数	職 業 を も っ て い る	い 職 業 を も っ て い ま な は っ	も い っ た ま で 職 業 を な い	無 回 答
全 体		669 100.0	414 61.9	219 32.7	14 2.1	22 3.3
性 別 × 年 代 別	女性:20歳代	56	60.7	37.5	-	1.8
	女性:30歳代	85	63.5	35.3	1.2	-
	女性:40歳代	65	60.0	40.0	-	-
	女性:50歳代	64	64.1	32.8	1.6	1.6
	女性:60歳代	68	35.3	48.5	8.8	7.4
	女性:70歳以上	33	3.0	66.7	12.1	18.2
	男性:20歳代	45	93.3	4.4	2.2	-
	男性:30歳代	57	93.0	7.0	-	-
	男性:40歳代	37	91.9	5.4	-	2.7
	男性:50歳代	56	85.7	14.3	-	-
	男性:60歳代	83	51.8	43.4	-	4.8
	男性:70歳以上	19	5.3	73.7	5.3	15.8
	無回答	1	-	-	-	100.0

(2) 職業

問5付問1.〔問5で1.「職業をもっている」と答えた方に〕
あなたの職業は次のどれですか。(印は1つ)

女性では看護師などの「専門的・技術的職業」、「事務職」、男性では「技能職」、医師などの「専門的・技術的職業」、「運輸・通信・保安職」に従事している人が多い。

図3-2 職業〔全体、性別〕



職業は「技能職」が22.7%と最も高く、次いで看護師などの「専門的・技術的職業」15.9%、「事務職」15.0%などとなっている。

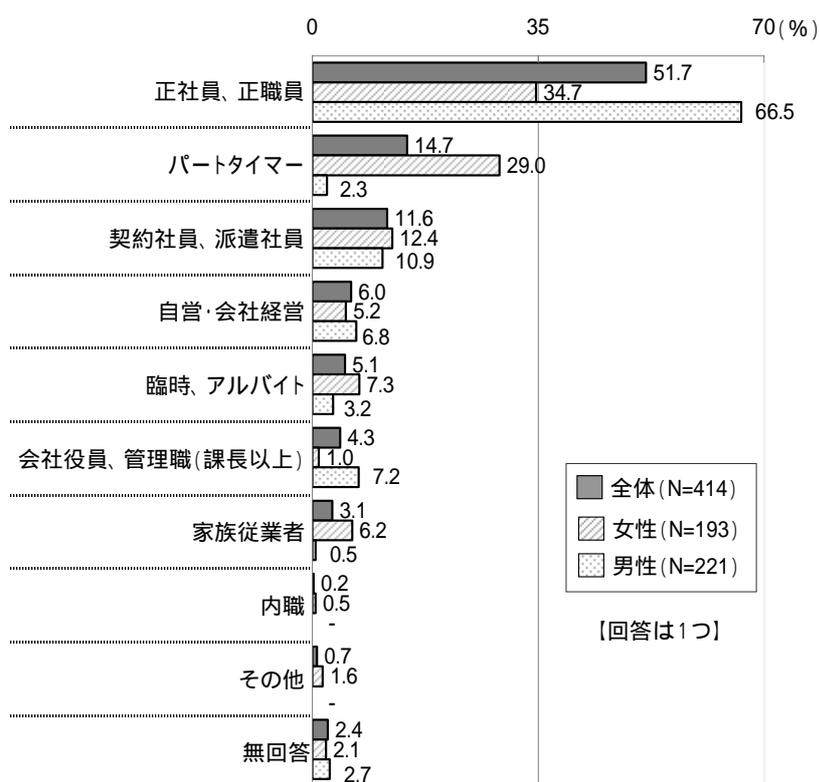
性別にみると、女性では看護師などの「専門的・技術的職業」(24.9%)、「事務職」(23.3%)などが多く、男性では「技能職」(30.3%)、医師などの「専門的・技術的職業」、「運輸・通信・保安職」(同率11.8%)などが多い。

(3) 就業形態

問5付問2.〔問5で1.「職業をもっている」と答えた方に〕
あなたの就業形態は次のどれですか。(印は1つ)

男性の「正社員、正職員」(66.5%)の割合は女性を約32ポイント上回っている。
女性は30歳以上になると正規ではない働き方が増える。

図3-3 就業形態 [全体、性別]



就業形態は「正社員、正職員」が51.7%と最も高く、以下「パートタイマー」が14.7%、「契約社員、派遣社員」が11.6%、「自営・会社経営」が6.0%などとなっている。

性別にみると、女性の「正社員、正職員」は34.7%であるのに対し、男性は66.5%と31.8ポイント高い。一方、「パートタイマー」は女性が29.0%で男性の2.3%を26.7ポイント上回っている。

属性別特徴

年代別にみると、女性では20歳代で「正社員、正職員」の割合が58.8%と最も高く、30歳代と40歳代では4割前後にまで低くなる。30歳以上で「パートタイマー」は3割前後を占め、また「契約社員、派遣社員」の割合も高くなるなど、正規でない働き方をする人が多くなる。

表3 - 2 就業形態 [全体、年代別]

		(%)										
		標本数	自営・会社経営	家族従業者	会社役員、管理職 (課長以上)	正社員、正職員	パートタイマー	契約社員、派遣社員	臨時、アルバイト	内職	その他	無回答
全体		414 100.0	25 6.0	13 3.1	18 4.3	214 51.7	61 14.7	48 11.6	21 5.1	1 0.2	3 0.7	10 2.4
性別×年代別	女性:20歳代	34	2.9	2.9	-	58.8	20.6	5.9	8.8	-	-	-
	女性:30歳代	54	5.6	9.3	-	37.0	29.6	9.3	3.7	-	-	5.6
	女性:40歳代	39	-	-	-	41.0	30.8	12.8	10.3	-	5.1	-
	女性:50歳代	41	9.8	7.3	2.4	22.0	29.3	17.1	9.8	-	2.4	-
	女性:60歳代	24	8.3	12.5	4.2	8.3	33.3	20.8	4.2	4.2	-	4.2
	女性:70歳以上	1	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-
	男性:20歳代	42	-	-	-	81.0	2.4	7.1	4.8	-	-	4.8
	男性:30歳代	53	7.5	-	3.8	84.9	-	1.9	1.9	-	-	-
	男性:40歳代	34	11.8	2.9	11.8	67.6	2.9	-	-	-	-	2.9
	男性:50歳代	48	2.1	-	10.4	62.5	2.1	14.6	4.2	-	-	4.2
	男性:60歳代	43	14.0	-	11.6	34.9	4.7	30.2	4.7	-	-	-
	男性:70歳以上	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0

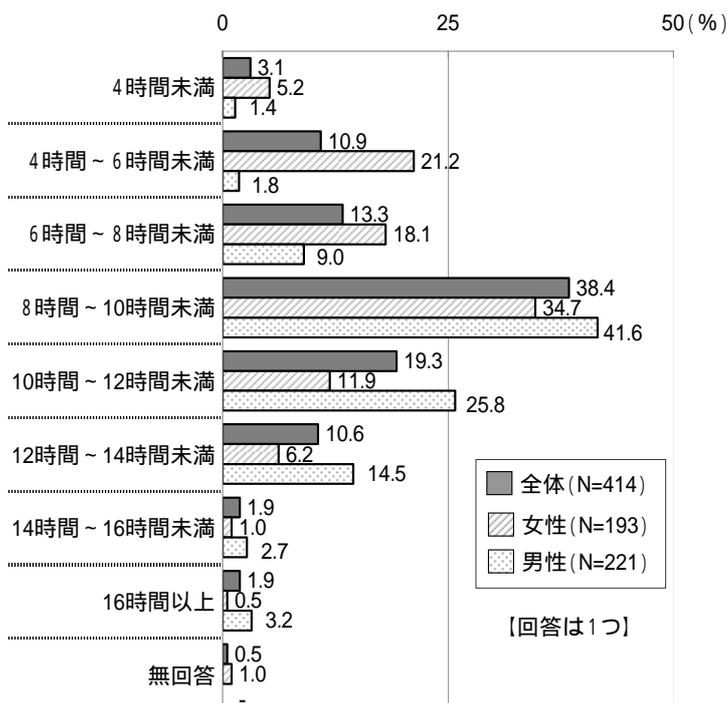
(4) 一日の勤務時間 (通勤時間含む)

問5付問3 . [問5で1. 「職業をもっている」と答えた方に]

あなたのふだんの一日の勤務時間と通勤時間を合計すると、何時間くらいになりますか。最近1週間くらいのことで、残業時間も含めてお答えください。

1日の勤務時間は「8時間～10時間未満」が約4割。
男性は「10時間以上」の勤務が4割以上、40歳代では7割近くを占めている。

図3 - 4 一日の勤務時間 (通勤時間も含む) [全体、性別]



1日の勤務時間をみると、「8時間～10時間未満」が38.4%と最も高く、次いで「10時間～12時間未満」19.3%、「6時間～8時間未満」13.3%となっている。

性別にみると、男女とも「8時間～10時間未満」が最も多く、女性は34.7%、男性は41.6%となっている。以下、女性では「4時間～6時間未満」21.2%、「6時間～8時間未満」18.1%と『8時間未満』の時間帯が続くが、男性は「10時間～12時間未満」25.8%、「12時間～14時間未満」14.5%と『10時間以上』の勤務時間が46.2%と4割以上を占めている。

属性別特徴

年代別にみると、男性の40歳代で『10時間以上』が67.6%と最も高く、また20歳代や30歳代でも約5割を占めるなど、これらの年代で長時間勤務となっていることがわかる。

配偶関係別にみると、女性の既婚者で共働きである場合、『8時間未満』の人が52.2%、共働きでない場合は28.6%と、共働きの場合は女性が短時間の働き方をしている場合が多い。男性の共働きである場合、勤務時間が『10時間以上』は48.7%と共働きでない男性よりも高い。家庭内での役割分担で共働きである女性は配偶者に「(イ) 食事のしたく、掃除、洗濯などの家事をする」ことにもっと関わってほしいと要望する人が半数以上を占めていたが、男性の長時間の働き方からすると、女性が日常の家事を担わざるを得ない、また短時間勤務をせざるを得ない状況がうかがわれる。

表3-3 一日の勤務時間(通勤時間も含む)[全体、年代別、配偶関係別]

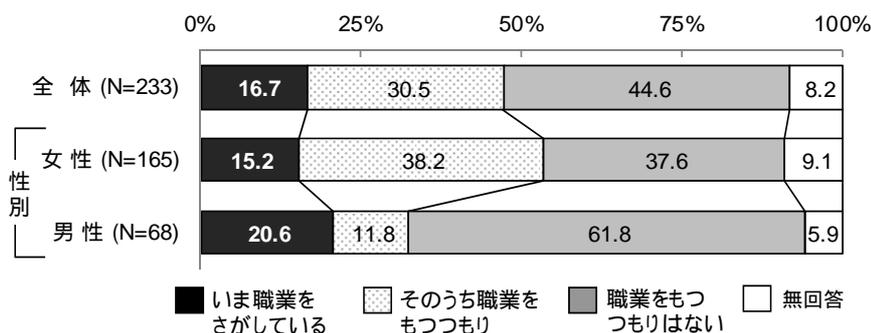
		標本数	4時間未満	4時間～6時間未満	6時間～8時間未満	8時間～10時間未満	10時間～12時間未満	12時間～14時間未満	14時間～16時間未満	16時間以上	無回答	10時間以上計
全体		414 100.0	13 3.1	45 10.9	55 13.3	159 38.4	80 19.3	44 10.6	8 1.9	8 1.9	2 0.5	62 33.7
性別×年代別	女性:20歳代	34	8.8	11.8	11.8	41.2	11.8	11.8	-	2.9	-	26.5
	女性:30歳代	54	-	16.7	27.8	27.8	18.5	7.4	-	-	1.9	25.9
	女性:40歳代	39	7.7	17.9	17.9	35.9	12.8	2.6	5.1	-	-	20.5
	女性:50歳代	41	2.4	29.3	17.1	41.5	7.3	2.4	-	-	-	9.7
	女性:60歳代	24	12.5	33.3	8.3	29.2	4.2	8.3	-	-	4.2	12.5
	女性:70歳以上	1	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
	男性:20歳代	42	-	4.8	2.4	40.5	33.3	14.3	2.4	2.4	-	52.4
	男性:30歳代	53	-	-	3.8	45.3	24.5	18.9	5.7	1.9	-	51.0
	男性:40歳代	34	-	2.9	5.9	23.5	32.4	29.4	2.9	2.9	-	67.6
	男性:50歳代	48	2.1	2.1	10.4	52.1	20.8	6.3	-	6.3	-	33.4
男性:60歳代	43	4.7	-	20.9	41.9	20.9	7.0	2.3	2.3	-	32.5	
男性:70歳以上	1	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	
性別×配偶関係別	女性:結婚したことはない	27	3.7	3.7	14.8	37.0	18.5	18.5	-	3.7	-	40.7
	女性:既婚(共働きである)	115	6.1	26.1	20.0	29.6	12.2	4.3	0.9	-	0.9	17.4
	女性:既婚(共働きでない)	7	-	14.3	14.3	57.1	14.3	-	-	-	-	14.3
	女性:死別	8	-	50.0	12.5	25.0	-	-	-	-	12.5	-
	女性:離別	35	5.7	14.3	17.1	45.7	8.6	5.7	2.9	-	-	17.2
	女性:その他	1	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-
	男性:結婚したことはない	41	-	7.3	2.4	43.9	29.3	12.2	-	4.9	-	46.4
	男性:既婚(共働きである)	78	2.6	1.3	5.1	42.3	29.5	12.8	5.1	1.3	-	48.7
	男性:既婚(共働きでない)	76	1.3	-	14.5	44.7	18.4	15.8	2.6	2.6	-	39.4
	男性:死別	3	-	-	-	66.7	33.3	-	-	-	-	33.3
	男性:離別	20	-	-	15.0	20.0	35.0	25.0	-	5.0	-	65.0
	男性:その他	1	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	100.0
	無回答	2	-	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-

(5) 今後の就労意向

問5付問4.〔問5で2.または3.と答えた「現在職業をもっていない」方に〕
あなたは今後、職業をもちたいと思いますか。(印は1つ)

男性は「いま職業さがしている」、女性は「そのうち職業をもつつもり」が多い。
女性は年齢が低い人ほど「そのうち職業をもつつもり」が高くなる。

図3-5 今後の就労意向 [全体、性別]



現在、職業をもっていない人に、今後の就労意向をたずねたところ、「いま職業をさがしている」と具体的な人が16.7%、「そのうち職業をもつつもり」が30.5%と就労意向のある人は47.2%と半数近くを占めている。「職業をもつつもりはない」人は44.6%である。

性別でみると、男性は「いま職業をさがしている」と具体的な人が20.6%と女性(15.2%)より多く、女性は「そのうち職業をもつつもり」が38.2%と男性(11.8%)より約3倍多くなっている。

属性別特徴

年代別にみると、女性で年齢が低い人ほど「そのうち職業をもつつもり」の割合が高くなり、20歳代で81.0%、30歳代で71.0%と高率である。

表3-4 今後の就労意向 [全体、年代別]

		標本数	がいま職業をさがしている	をそのうち職業をもつつもり職業	も職業はもつつもりはない	無回答
全体		233 100.0	39 16.7	71 30.5	104 44.6	19 8.2
性別 × 年代別	女性:20歳代	21	14.3	81.0	-	4.8
	女性:30歳代	31	12.9	71.0	12.9	3.2
	女性:40歳代	26	26.9	53.8	11.5	7.7
	女性:50歳代	22	27.3	45.5	27.3	-
	女性:60歳代	39	10.3	-	74.4	15.4
	女性:70歳以上	26	3.8	-	76.9	19.2
	男性:20歳代	3	66.7	33.3	-	-
	男性:30歳代	4	50.0	25.0	-	25.0
	男性:40歳代	2	100.0	-	-	-
	男性:50歳代	8	50.0	12.5	25.0	12.5
	男性:60歳代	36	11.1	8.3	75.0	5.6
	男性:70歳以上	15	-	13.3	86.7	-

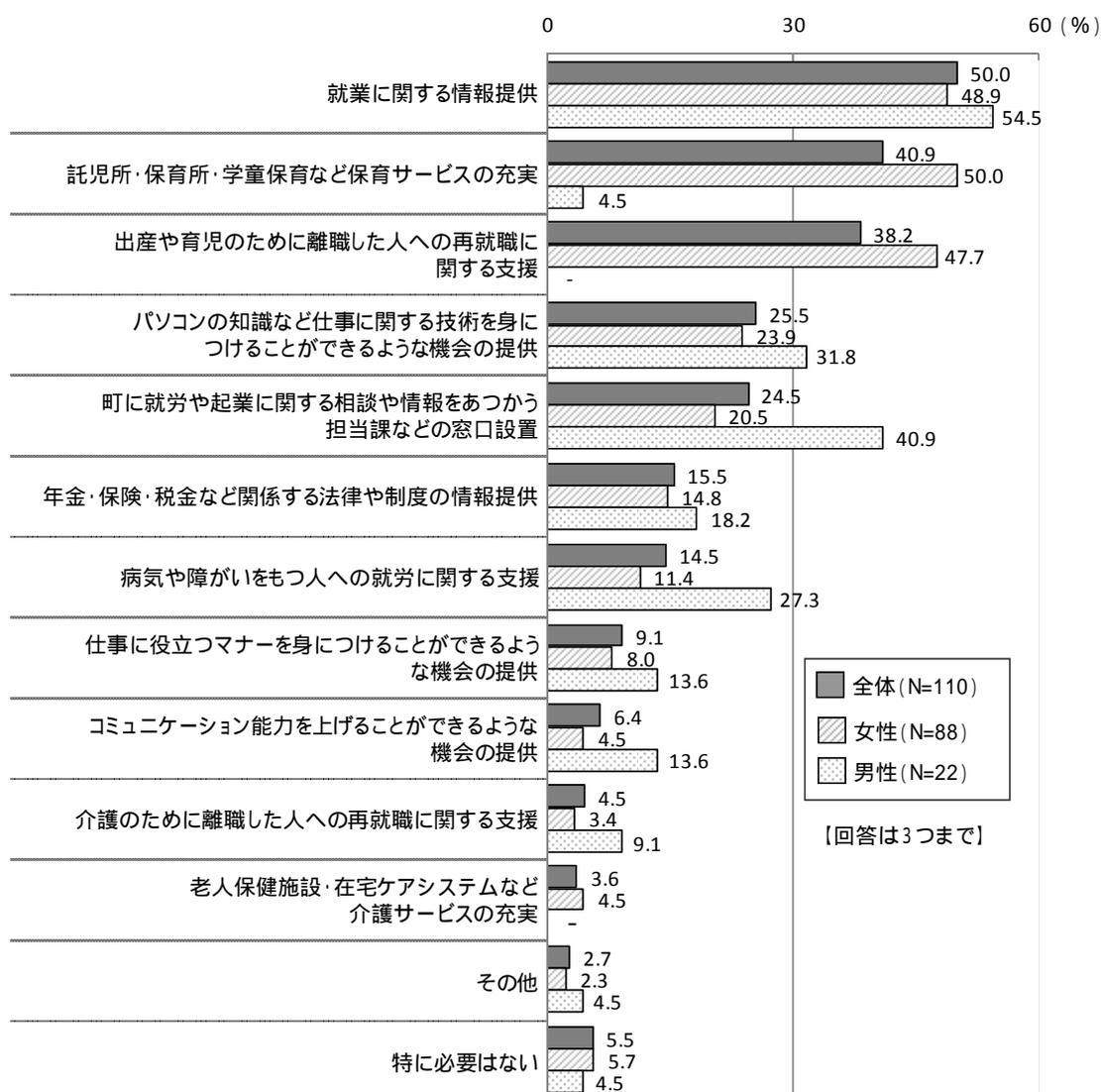
(6) 職業につくためにあったらよい支援

問5付問4 - 1.〔問5付問4で 1.または 2.と答えた方に〕

あなたが、職業につくためにどのような支援があったらよいと思いますか。
(印は3つまで)

女性は「就業に関する情報提供」「託児所・保育所・学童保育など保育サービスの充実」「出産や育児のために離職した人への再就職に関する支援」が5割前後と高い。

図3 - 6 職業につくためにあったらよい支援 [全体、性別]



「いま職業をさがしている」「そのうち職業をもつつもり」といった就労意向のある人に職業につくために欲しい支援をたずねたところ、「就業に関する情報提供」50.0%、「託児所・保育所・学童保育など保育サービスの充実」40.9%、「出産や育児のために離職した人への再就職に関する支援」38.2%などが上位にあげられている。

性別にみると、女性は「託児所・保育所・学童保育など保育サービスの充実」「就業に関する

情報提供」「出産や育児のために離職した人への再就職に関する支援」などが5割前後で上位3位を占めている。男性は「就業に関する情報提供」(54.5%)、「町に就労や起業に関する相談や情報をつかう担当課などの窓口設置」(40.9%)、「パソコンの知識など仕事に関する技術を身につけることができるような機会の提供」(31.8%)などが上位にあがっている。

属性別特徴

年代別にみると、女性の年齢が低い層では「出産や育児のために離職した人への再就職に関する支援」や「託児所・保育所・学童保育など保育サービスの充実」の要望が高く、年齢が高い層では「就業に関する情報提供」や「パソコンの知識など仕事に関する技術を身につけることができるような機会の提供」などの要望が高くなっている。

表3 - 5 職業につくためにあったらよい支援 [全体、年代別]

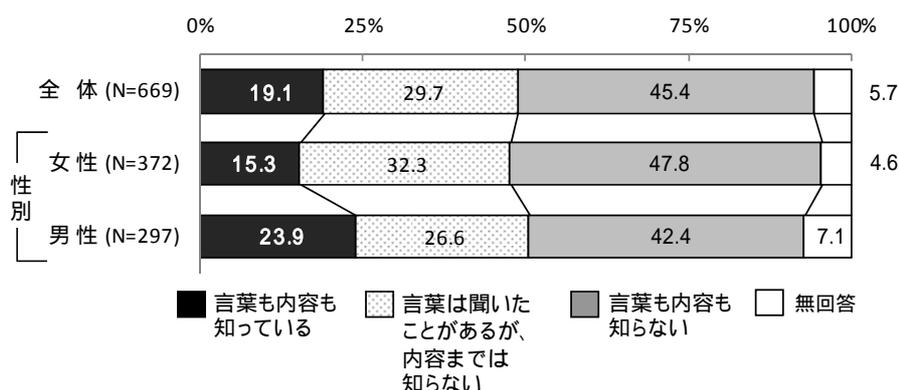
		(%)															
		就業に関する情報提供	年金・保険や制度の情報提供	育児サービス・保育所の充実	託児所・保育所・学童保育など保育サービスの充実	老人保健施設・在宅ケアシステム	出産や育児のために離職した人への再就職に関する支援	病気や障がいをもつ人への就労に関する支援	介護のために離職した人への再就職に関する支援	技術の身に付けることができるような機会の提供	パソコンの知識など仕事に関することができるようになる機会の提供	仕事に役立つ「マネー」を身につけることができるような機会の提供	コミュニケーション能力を上げる機会を提供	町に就労や起業に関する相談や情報をつかう担当課などの窓口設置	その他	特に必要はない	無回答
全体		110 100.0	55 50.0	17 15.5	45 40.9	4 3.6	42 38.2	16 14.5	5 4.5	28 25.5	10 9.1	7 6.4	27 24.5	3 2.7	6 5.5	2 1.8	
性別 × 年代別	女性:20歳代	20	30.0	5.0	85.0	-	90.0	5.0	-	10.0	-	5.0	20.0	10.0	-	-	
	女性:30歳代	26	30.8	7.7	65.4	3.8	69.2	11.5	-	15.4	11.5	7.7	23.1	-	7.7	-	
	女性:40歳代	21	66.7	38.1	42.9	-	23.8	19.0	-	28.6	9.5	4.8	4.8	-	9.5	-	
	女性:50歳代	16	75.0	6.3	6.3	12.5	6.3	6.3	12.5	50.0	12.5	-	43.8	-	6.3	-	
	女性:60歳代	4	75.0	-	-	25.0	-	25.0	25.0	25.0	-	-	-	-	-	25.0	
	女性:70歳以上	1	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	男性:20歳代	3	66.7	-	-	-	-	-	-	33.3	33.3	66.7	-	-	-	-	
	男性:30歳代	3	66.7	33.3	-	-	-	33.3	-	66.7	33.3	33.3	33.3	-	-	-	
	男性:40歳代	2	-	50.0	50.0	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-	50.0	-	
	男性:50歳代	5	60.0	-	-	-	-	20.0	20.0	-	-	-	-	60.0	-	-	
男性:60歳代	7	57.1	28.6	-	-	-	28.6	14.3	42.9	14.3	-	71.4	-	-	-		
男性:70歳以上	2	50.0	-	-	-	-	50.0	-	50.0	-	-	-	50.0	-	-		

2. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の認知度

問6. あなたは、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」について知っていますか。（印は1つ）

言葉の認知度は男女に大差はみられないが、男性の方が「言葉も内容も知っている」の割合が高い。

図3-7 ワーク・ライフ・バランスの認知度 [全体、性別]



「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」の認知について、「言葉も内容も知っている」は19.1%、「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」は29.7%と言葉の認知度は48.8%と約半数となっている。一方、「言葉も内容も知らない」は45.4%となっている。

性別にみると、言葉の認知度は女性47.6%、男性50.5%とあまり大差はみられないが、男性は「言葉も内容も知っている」が23.9%と女性（15.3%）より8.6ポイント高い。

属性別特徴

年代別にみると、言葉の認知度や「言葉も内容も知っている」は男女とも年齢が高い層で高くなる傾向がある。

表3-6 ワーク・ライフ・バランスの認知度 [全体、年代別]

		標本数	言葉も内容も知っている (%)	言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない (%)	言葉も内容も知らない (%)	無回答 (%)
全体		669	19.1	29.7	45.4	5.7
性別 × 年代別	女性:20歳代	56	8.9	21.4	67.9	1.8
	女性:30歳代	85	17.6	35.3	43.5	3.5
	女性:40歳代	65	16.9	29.2	49.2	4.6
	女性:50歳代	64	14.1	26.6	57.8	1.6
	女性:60歳代	68	20.6	39.7	38.2	1.5
	女性:70歳以上	33	9.1	42.4	24.2	24.2
	男性:20歳代	45	15.6	22.2	53.3	8.9
	男性:30歳代	57	15.8	26.3	50.9	7.0
	男性:40歳代	37	32.4	16.2	45.9	5.4
	男性:50歳代	56	23.2	30.4	39.3	7.1
	男性:60歳代	83	28.9	30.1	34.9	6.0
	男性:70歳以上	19	31.6	31.6	26.3	10.5
	無回答	1	-	100.0	-	-

3. 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度

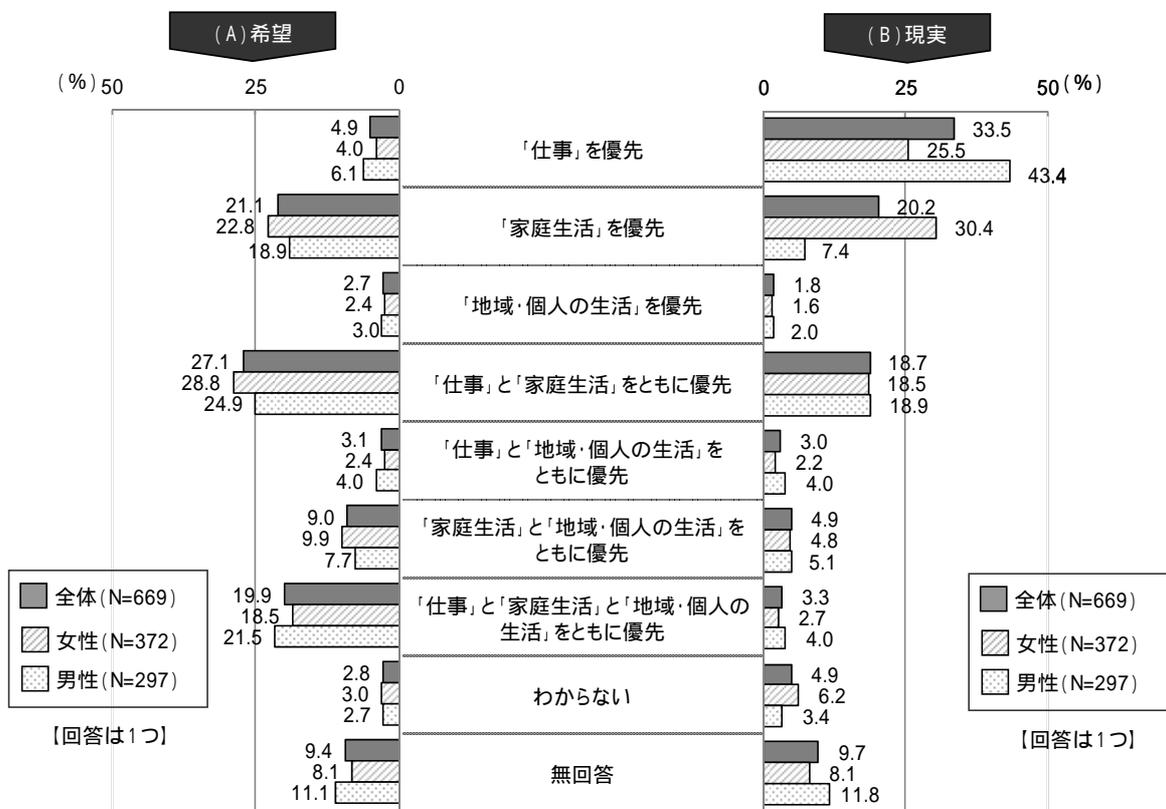
問7. ふだんの生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度についておたずねします。 現在、職業をもっていない方は、お考えをお答えください。

(A) あなたの希望に最も近いもの

(B) あなたの現実(現状)に最も近いものについて、それぞれあてはまるものを選んでください。(○印は1つずつ)

希望は「「仕事」と「家庭生活」をともに優先」、現実には「「仕事」を優先」。

図3-8 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度 [全体、性別]



「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度を希望と現実に分けてたずねた。

希望で最も多かったのは「「仕事」と「家庭生活」をともに優先」が27.1%、次いで「「家庭生活」を優先」21.1%、「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先」19.9%である。

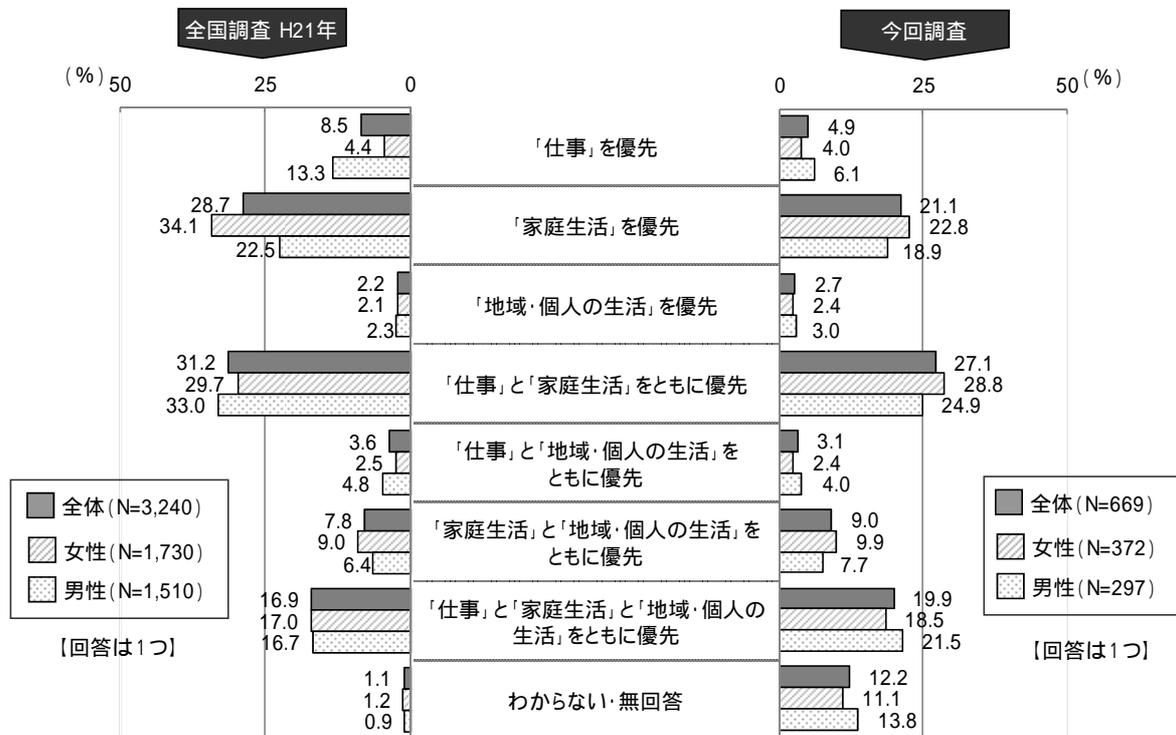
現実となると「「仕事」を優先」が33.5%と最も高く、次いで「「家庭生活」を優先」20.2%、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先」18.7%である。希望で第3位にあげられた「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先」は実際の生活では3.3%とわずかで希望と現実との差は大きい。

性別にみると、希望では性別による差はあまりみられないが、現実では男性は「「仕事」を優先」が43.4%と女性の25.5%を17.9ポイント、女性は「「家庭生活」を優先」が30.4%と男性の7.4%を23ポイント上回るなど男女差が特に大きい。

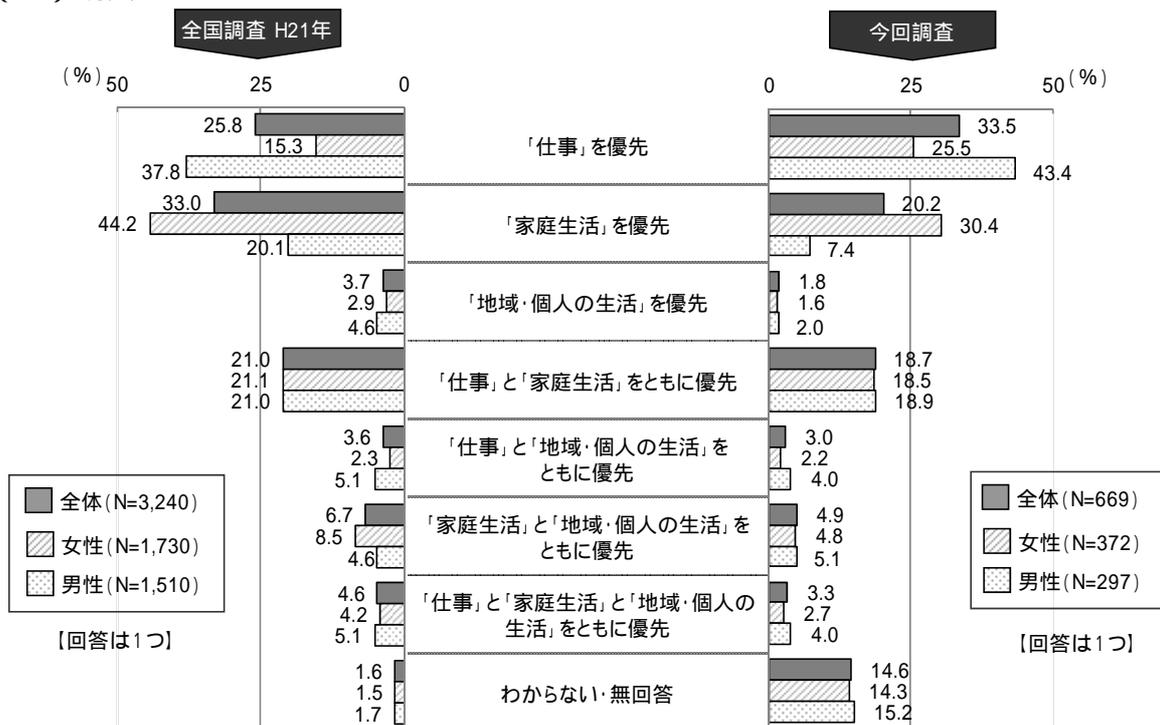
全国調査と比較すると、希望では、男女とも苅田町の方が「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先」が高く、現実では「仕事」を優先」が高い。

図3-9 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度 [全体、性別]
(全国調査比較)

(A) 希望



(B) 現実



属性別特徴

年代別にみると、希望では男性の40歳代で「家庭生活」を優先が32.4%と高いのが目立つが、現実には「仕事」を優先が64.9%と最も高くなっている。また、40歳代を除く50歳代までの男性の希望は「仕事」と「家庭生活」をともに優先が3割前後と高いが、現実には「仕事」を優先が5割前後と高いなど、希望と現実の差が大きい年代となっている。

表3-7 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度[全体、年代別]

(%)

	標本数	(A)希望									
		「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	優先「地域・個人の生活」を	を「仕事」と優先	の「仕事」と「地域・個人生活」を優先	先個人「家庭生活」と「地域」を優先	を「仕事」と「地域・個人生活」を優先	わからない	無回答	
全体	669 100.0	33 4.9	141 21.1	18 2.7	181 27.1	21 3.1	60 9.0	133 19.9	19 2.8	63 9.4	
性別×年代別	女性:20歳代	56	5.4	30.4	1.8	37.5	1.8	3.6	16.1	1.8	1.8
	女性:30歳代	85	2.4	36.5	2.4	30.6	2.4	5.9	18.8	-	1.2
	女性:40歳代	65	3.1	27.7	-	26.2	3.1	12.3	21.5	3.1	3.1
	女性:50歳代	64	3.1	10.9	-	37.5	4.7	9.4	21.9	-	12.5
	女性:60歳代	68	7.4	13.2	5.9	25.0	1.5	14.7	11.8	7.4	13.2
	女性:70歳以上	33	3.0	9.1	6.1	6.1	-	15.2	24.2	9.1	27.3
	男性:20歳代	45	2.2	17.8	-	33.3	2.2	4.4	17.8	4.4	17.8
	男性:30歳代	57	7.0	17.5	7.0	36.8	1.8	3.5	24.6	-	1.8
	男性:40歳代	37	5.4	32.4	2.7	21.6	2.7	5.4	21.6	-	8.1
	男性:50歳代	56	10.7	12.5	3.6	28.6	1.8	3.6	23.2	1.8	14.3
	男性:60歳代	83	3.6	19.3	2.4	15.7	7.2	12.0	22.9	3.6	13.3
	男性:70歳以上	19	10.5	15.8	-	5.3	10.5	26.3	10.5	10.5	10.5
	無回答	1	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-

(%)

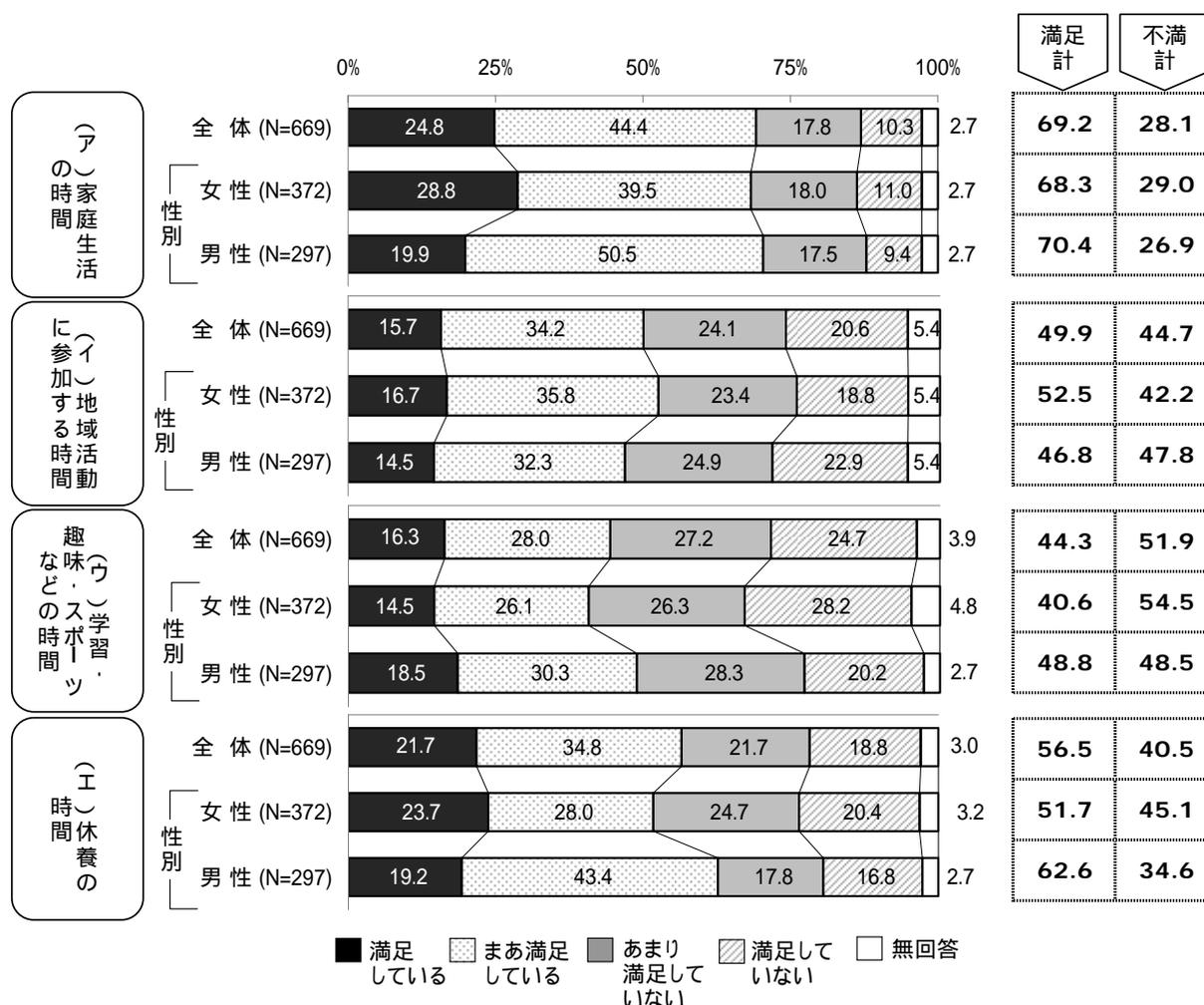
	標本数	(B)現実									
		「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	優先「地域・個人の生活」を	を「仕事」と優先	の「仕事」と「地域・個人生活」を優先	先個人「家庭生活」と「地域」を優先	を「仕事」と「地域・個人生活」を優先	わからない	無回答	
全体	669 100.0	224 33.5	135 20.2	12 1.8	125 18.7	20 3.0	33 4.9	22 3.3	33 4.9	65 9.7	
性別×年代別	女性:20歳代	56	30.4	44.6	1.8	12.5	-	3.6	1.8	3.6	1.8
	女性:30歳代	85	27.1	24.7	-	31.8	1.2	1.2	2.4	9.4	2.4
	女性:40歳代	65	33.8	38.5	-	15.4	1.5	3.1	1.5	3.1	3.1
	女性:50歳代	64	26.6	28.1	-	21.9	1.6	3.1	3.1	3.1	12.5
	女性:60歳代	68	22.1	25.0	2.9	10.3	4.4	8.8	4.4	7.4	14.7
	女性:70歳以上	33	3.0	21.2	9.1	12.1	6.1	12.1	3.0	12.1	21.2
	男性:20歳代	45	48.9	2.2	4.4	17.8	2.2	-	-	6.7	17.8
	男性:30歳代	57	57.9	-	3.5	28.1	1.8	-	5.3	1.8	1.8
	男性:40歳代	37	64.9	5.4	-	13.5	5.4	-	2.7	-	8.1
	男性:50歳代	56	46.4	5.4	1.8	19.6	3.6	1.8	7.1	1.8	12.5
	男性:60歳代	83	25.3	18.1	1.2	16.9	4.8	10.8	4.8	3.6	14.5
	男性:70歳以上	19	15.8	5.3	-	10.5	10.5	26.3	-	10.5	21.1
	無回答	1	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-

4. 家庭生活、地域・個人の生活等の時間の満足度

問8. あなたは、ふだんの生活の中で「家庭生活」、「地域活動」、「学習・趣味・スポーツなど」、「休養」の時間に満足していますか。次の(ア)～(エ)の項目ごとに、あなたの認識に最も近いものを選んでください。(印は1つずつ)

「家庭生活の時間」の『満足』が約7割。
 「学習・趣味・スポーツなどの時間」で『不満』が約5割。

図3-10 家庭生活、地域・個人の生活等の時間の満足度 [全体、性別]



「(ア) 家庭生活」「(イ) 地域活動」「(ウ) 学習・趣味・スポーツなど」「(エ) 休養」などに使う時間の満足度をたずねた。

「満足している」と「まあ満足している」を合わせた『満足』が最も高いのは「(ア) 家庭生活の時間」で69.2%、次いで「(エ) 休養の時間」56.5%、「(イ) 地域活動に参加する時間」49.9%である。「(ウ) 学習・趣味・スポーツなどの時間」は「満足していない」と「あまり満足していない」を合わせた『不満』が51.9%と『満足』(44.3%)の割合を上回っている。

性別にみると、「(ア) 家庭生活の時間」は『満足』でみると男女差はあまりみられないが、強

い満足感である「満足している」は女性の方が28.8%と男性(19.9%)を8.9ポイント上回っている。「(イ)地域活動に参加する時間」は女性の『満足』は52.5%と5割を超えるが、男性は46.8%と『不満』(47.8%)の方が高い。「(ウ)学習・趣味・スポーツなどの時間」と「(エ)休養の時間」はいずれも男性の『満足』の方が高く、女性は『不満』の割合が高い。特に「(ウ)学習・趣味・スポーツなどの時間」の『不満』は女性では54.5%と5割を超えている。

属性別特徴

年代別にみると、女性の40歳代以下で、男性では30歳代から50歳代の年代で「(ア)家庭生活の時間」「(ウ)学習・趣味・スポーツなどの時間」「(エ)休養の時間」などで『不満』の割合が高い傾向にある。

表3-8 家庭生活、地域・個人の生活等の時間の満足度 [全体、年代別]

		標本数	(ア)家庭生活の時間						(イ)地域活動に参加する時間							
			る満足している	てまいあ満足している	しまあいら満足している	な満足している	無回答	満足計	不満計	る満足している	てまいあ満足している	しまあいら満足している	な満足している	無回答	満足計	不満計
			(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
全体		669 100.0	166 24.8	297 44.4	119 17.8	69 10.3	18 2.7	463 69.2	188 28.1	105 15.7	229 34.2	161 24.1	138 20.6	36 5.4	334 49.9	299 44.7
性別×年代別	女性:20歳代	56	25.0	33.9	25.0	14.3	1.8	58.9	39.3	23.2	37.5	23.2	12.5	3.6	60.7	35.7
	女性:30歳代	85	27.1	45.9	14.1	12.9	-	73.0	27.0	17.6	43.5	22.4	14.1	2.4	61.1	36.5
	女性:40歳代	65	23.1	36.9	27.7	12.3	-	60.0	40.0	13.8	35.4	24.6	26.2	-	49.2	50.8
	女性:50歳代	64	28.1	43.8	18.8	9.4	-	71.9	28.2	17.2	31.3	28.1	20.3	3.1	48.5	48.4
	女性:60歳代	68	30.9	44.1	11.8	10.3	2.9	75.0	22.1	13.2	32.4	17.6	27.9	8.8	45.6	45.5
	女性:70歳以上	33	45.5	21.2	9.1	3.0	21.2	66.7	12.1	12.1	30.3	27.3	6.1	24.2	42.4	33.4
	男性:20歳代	45	15.6	73.3	4.4	4.4	2.2	88.9	8.8	15.6	46.7	13.3	15.6	8.9	62.3	28.9
	男性:30歳代	57	17.5	43.9	21.1	17.5	-	61.4	38.6	17.5	29.8	22.8	29.8	-	47.3	52.6
	男性:40歳代	37	13.5	48.6	27.0	10.8	-	62.1	37.8	21.6	21.6	35.1	18.9	2.7	43.2	54.0
	男性:50歳代	56	16.1	42.9	26.8	12.5	1.8	59.0	39.3	10.7	25.0	21.4	35.7	7.1	35.7	57.1
	男性:60歳代	83	26.5	48.2	14.5	6.0	4.8	74.7	20.5	10.8	36.1	28.9	18.1	6.0	46.9	47.0
	男性:70歳以上	19	31.6	52.6	5.3	-	10.5	84.2	5.3	15.8	31.6	31.6	10.5	10.5	47.4	42.1
無回答	1	100.0	-	-	-	-	100.0	-	100.0	-	-	-	-	100.0	-	
全体		669 100.0	109 16.3	187 28.0	182 27.2	165 24.7	26 3.9	296 44.3	347 51.9	145 21.7	233 34.8	145 21.7	126 18.8	20 3.0	378 56.5	271 40.5
性別×年代別	女性:20歳代	56	10.7	17.9	37.5	30.4	3.6	28.6	67.9	10.7	28.6	30.4	28.6	1.8	39.3	59.0
	女性:30歳代	85	12.9	24.7	30.6	29.4	2.4	37.6	60.0	21.2	23.5	27.1	28.2	-	44.7	55.3
	女性:40歳代	65	13.8	24.6	27.7	33.8	-	38.4	61.5	21.5	24.6	35.4	18.5	-	46.1	53.9
	女性:50歳代	64	14.1	31.3	21.9	28.1	4.7	45.4	50.0	20.3	31.3	29.7	17.2	1.6	51.6	46.9
	女性:60歳代	68	16.2	33.8	22.1	25.0	2.9	50.0	47.1	35.3	38.2	8.8	14.7	2.9	73.5	23.5
	女性:70歳以上	33	21.2	21.2	12.1	18.2	27.3	42.4	30.3	36.4	18.2	12.1	9.1	24.2	54.6	21.2
	男性:20歳代	45	22.2	37.8	26.7	11.1	2.2	60.0	37.8	15.6	51.1	15.6	15.6	2.2	66.7	31.2
	男性:30歳代	57	10.5	22.8	40.4	26.3	-	33.3	66.7	14.0	33.3	24.6	28.1	-	47.3	52.7
	男性:40歳代	37	5.4	40.5	29.7	21.6	2.7	45.9	51.3	8.1	40.5	37.8	13.5	-	48.6	51.3
	男性:50歳代	56	12.5	35.7	26.8	23.2	1.8	48.2	50.0	14.3	48.2	14.3	21.4	1.8	62.5	35.7
	男性:60歳代	83	28.9	21.7	25.3	19.3	4.8	50.6	44.6	32.5	39.8	10.8	12.0	4.8	72.3	22.8
	男性:70歳以上	19	31.6	36.8	10.5	15.8	5.3	68.4	26.3	21.1	63.2	5.3	-	10.5	84.3	5.3
無回答	1	100.0	-	-	-	-	100.0	-	100.0	-	-	-	-	100.0	-	

第4章 暴力などの人権侵害について

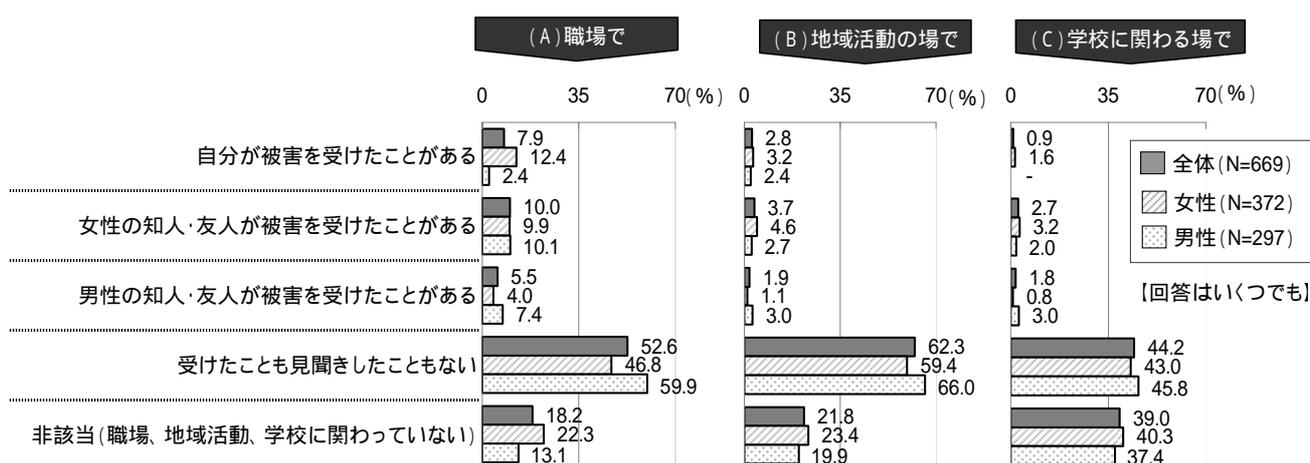
1. セクシュアル・ハラスメントについて

(1) セクシュアル・ハラスメントの経験、見聞き

問9. 最近3年間くらいの中に、(A)職場、(B)地域活動の場、(C)学校に関わる場で、付問1であげたようなセクシュアル・ハラスメントを受けたり、見聞きしたりしたことがありますか。(印はいくつでも)

セクシュアル・ハラスメントの被害や見聞きは「職場で」が2割強と最も多い。被害者は女性の場合が多く、年齢の低い層での被害や見聞きが多い。

図4-1 セクシュアル・ハラスメントの経験、見聞き [全体、性別]



「(A) 職場で」「(B) 地域活動の場で」「(C) 学校に関わる場で」セクシュアル・ハラスメントの被害を受けたり、見聞きしたりしたことがあるかどうかたずねた。

いずれの場でも「受けたことも見聞きしたこともない」が最も多いが、「自分が被害を受けたことがある」や見聞きしたことがある割合は「(A) 職場で」が23.4%と最も高く、「(B) 地域活動の場で」は8.4%、「(C) 学校に関わる場で」は5.4%である。

性別にみると、「自分が被害を受けたことがある」はいずれの場でも女性の方が割合は高く、また、見聞きした場合も女性の知人・友人が被害にあったケースの割合が高いことから、セクシュアル・ハラスメントの被害者は女性に多いことがわかる。

属性別特徴

年代別にみると、いずれの場でも「自分が被害を受けたことがある」や「女性の知人・友人が被害を受けたことがある」は男女とも年齢の低い層で割合が高い。

表4 - 1 セクシュアル・ハラスメントの経験、見聞き [全体、年代別]

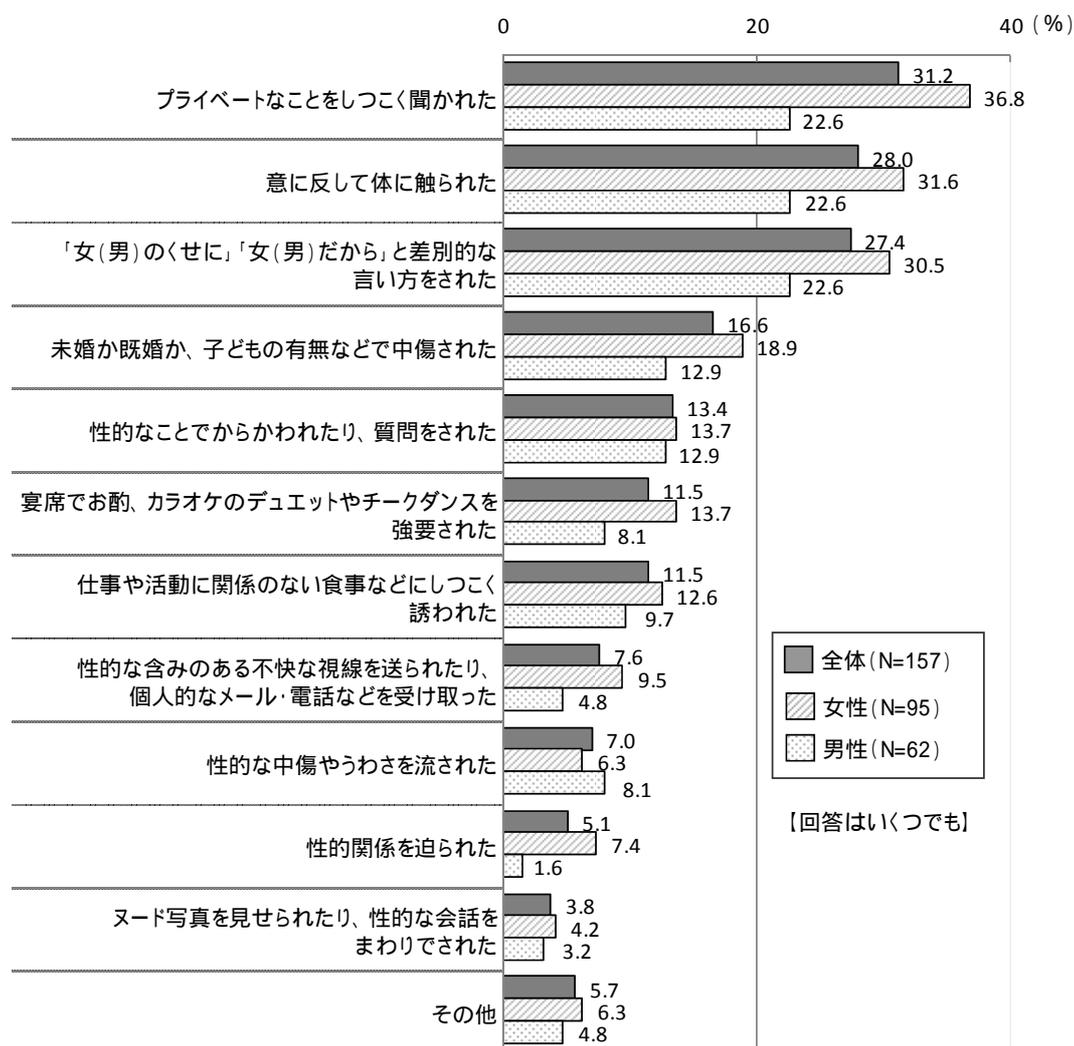
		(A)職場で						(B)地域活動の場で						(C)学校に関わる場で						(%)		
	標本数	ある	自分が被害を受けたことがある	女性の知人・友人が被害を受けたことがある	男性の知人・友人が被害を受けたことがある	受けたことも見聞きしたこともない	非該当(職場、地域活動、学校に関わっていない)	無回答	ある	自分が被害を受けたことがある	女性の知人・友人が被害を受けたことがある	男性の知人・友人が被害を受けたことがある	受けたことも見聞きしたこともない	非該当(職場、地域活動、学校に関わっていない)	無回答	ある	自分が被害を受けたことがある	女性の知人・友人が被害を受けたことがある	男性の知人・友人が被害を受けたことがある	受けたことも見聞きしたこともない	非該当(職場、地域活動、学校に関わっていない)	無回答
		全体	669 100.0	53 7.9	67 10.0	37 5.5	352 52.6	122 18.2	61 9.1	19 2.8	25 3.7	13 1.9	417 62.3	146 21.8	56 8.4	6 0.9	18 2.7	12 1.8	296 44.2	261 39.0	79 11.8	
性別×年代別	女性:20歳代	56	19.6	17.9	3.6	58.9	8.9	3.6	1.8	3.6	-	66.1	25.0	5.4	3.6	5.4	-	44.6	41.1	5.4		
	女性:30歳代	85	12.9	10.6	5.9	57.6	15.3	1.2	4.7	4.7	1.2	69.4	21.2	-	1.2	4.7	1.2	58.8	34.1	1.2		
	女性:40歳代	65	23.1	7.7	4.6	46.2	18.5	4.6	4.6	10.8	3.1	55.4	21.5	4.6	4.6	1.5	3.1	52.3	33.8	4.6		
	女性:50歳代	64	6.3	14.1	4.7	50.0	26.6	3.1	-	1.6	-	71.9	25.0	1.6	-	1.6	-	48.4	48.4	1.6		
	女性:60歳代	68	7.4	4.4	1.5	32.4	35.3	20.6	1.5	1.5	1.5	45.6	29.4	20.6	-	2.9	-	19.1	50.0	27.9		
	女性:70歳以上	33	-	3.0	3.0	24.2	33.3	36.4	9.1	6.1	-	33.3	15.2	36.4	-	3.0	-	21.2	30.3	45.5		
	男性:20歳代	45	-	11.1	8.9	73.3	2.2	4.4	-	2.2	-	75.6	15.6	6.7	-	6.7	4.4	55.6	26.7	6.7		
	男性:30歳代	57	5.3	15.8	7.0	68.4	5.3	3.5	3.5	1.8	3.5	68.4	19.3	7.0	-	-	1.8	54.4	31.6	12.3		
	男性:40歳代	37	-	10.8	2.7	78.4	2.7	5.4	-	8.1	-	75.7	10.8	5.4	-	5.4	2.7	64.9	24.3	5.4		
	男性:50歳代	56	1.8	8.9	10.7	58.9	5.4	16.1	1.8	1.8	7.1	60.7	23.2	8.9	-	-	5.4	42.9	37.5	14.3		
	男性:60歳代	83	3.6	6.0	7.2	47.0	27.7	9.6	4.8	1.2	1.2	61.4	24.1	7.2	-	-	1.2	33.7	50.6	14.5		
男性:70歳以上	19	-	10.5	5.3	26.3	42.1	21.1	-	5.3	10.5	52.6	21.1	15.8	-	5.3	5.3	21.1	47.4	26.3			
無回答	1	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-		

(2) セクシュアル・ハラスメントの内容

問9付問1 .【問9(A)(B)(C)で1～3のいずれかに1つでも○がついた方に】
それはどういったものでしたか。(印はいくつでも)

被害を受けた、見聞きしたセクシュアル・ハラスメントの内容は「プライベートなことをしつこく聞かれた」「意に反して体に触られた」「女(男)のくせに、女(男)だからと差別的な言い方をされた」などが上位。

図4-2 セクシュアル・ハラスメントの内容 [全体、性別]



「(A) 職場で」「(B) 地域活動の場で」「(C) 学校に関わる場で」セクシュアル・ハラスメントの被害を受けたり見聞きをした人にその内容についてたずねた。

「プライベートなことをしつこく聞かれた」(31.2%)、「意に反して体に触られた」(28.0%)、「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた」(27.4%)などが3割前後で上位にあがっている。

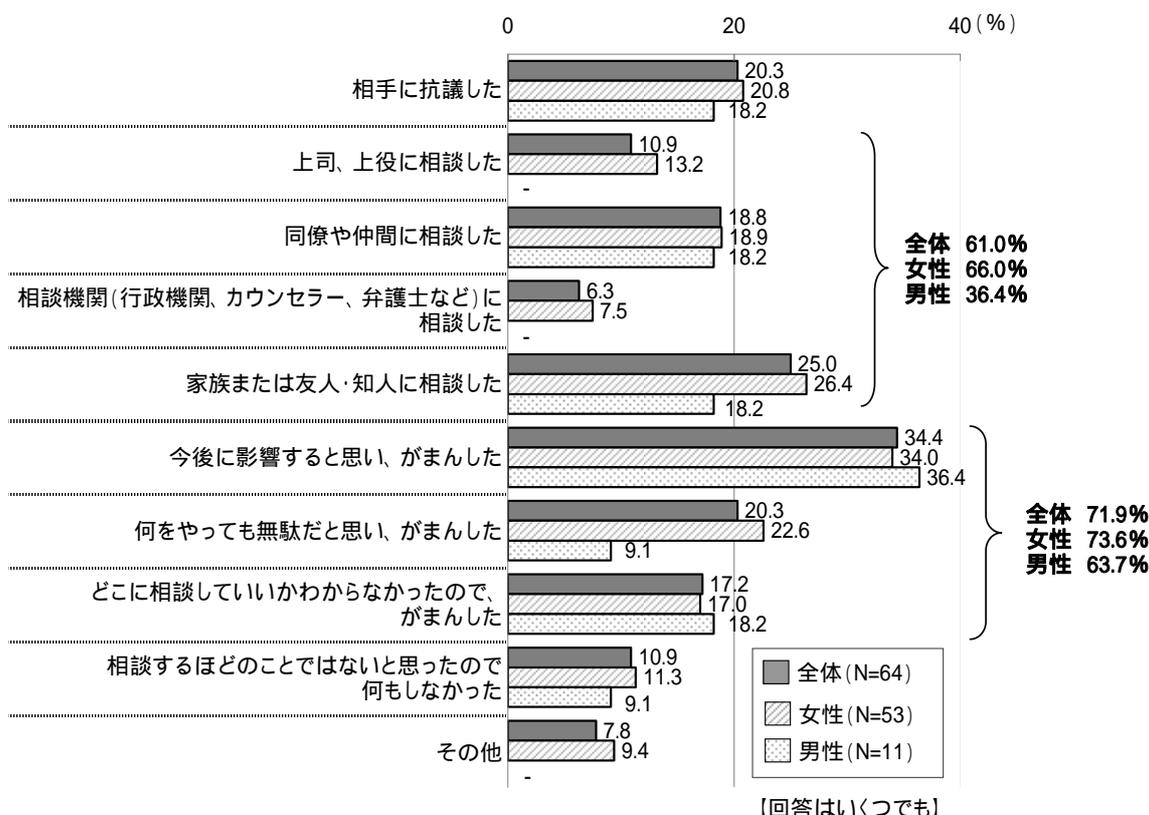
性別にみると、「性的な中傷やうわさを流された」以外のすべての項目は女性の割合が高く、

(3) セクシュアル・ハラスメントを受けたときの対応

問9付問2.【問9(A)(B)(C)のいずれかで「1.自分が被害を受けたことがある」と答えた方に】その時あなたはどのように対応しましたか。(印はいくつでも)

セクシュアル・ハラスメントを受けたときの対応は『相談した』約6割、『がまんした』約7割。

図4-3 セクシュアル・ハラスメントを受けたときの対応 [全体、性別]



「(A) 職場で」「(B) 地域活動の場で」「(C) 学校に関わる場で」セクシュアル・ハラスメントの被害を受けたことがある人に、そのときの対応についてたずねたところ、「今後に影響すると思い、がまんした」が34.4%と最も高く、ついで「家族または友人・知人に相談した」(25.0%)、「相手に抗議した」「何をやっても無駄だと思い、がまんした」(同率20.3%)、「同僚や仲間に相談した」(18.8%)、「どこに相談していいのかわからなかったので、がまんした」(17.2%)などが続くが、『相談した』人は61.0%に対し、『がまんした』人は71.9%と10.9ポイント多い。

性別にみると、『相談した』は女性が66.0%、男性が36.4%と女性の方が多く、相談の専門機関や上司などへの相談は女性にしかみられない。『がまんした』は女性が73.6%、男性が63.7%とやはり女性の方が多く、「何をやっても無駄だと思い、がまんした」は女性が22.6%と男性(9.1%)よりも13.5ポイントも多い。

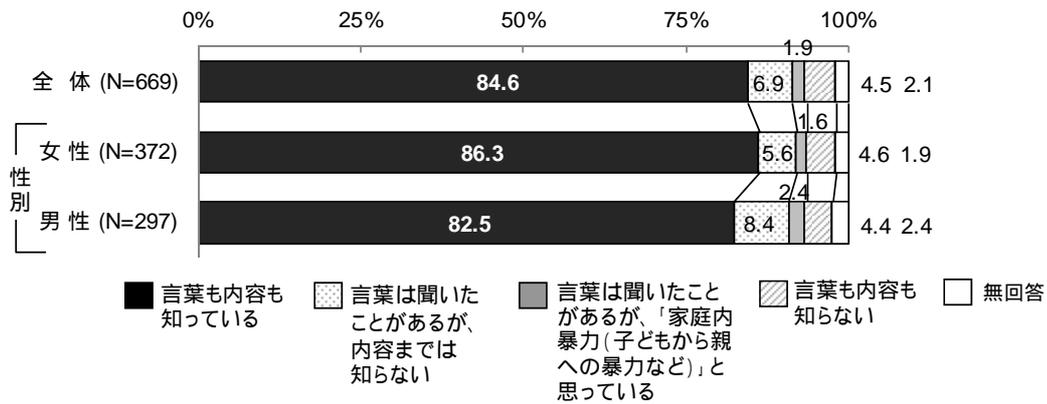
2. ドメスティック・バイオレンスについて

(1) ドメスティック・バイオレンスの認知

問10. あなたは、「ドメスティック・バイオレンス(DV:配偶者・パートナーからの暴力)」について知っていますか。(印は1つ)

ドメスティック・バイオレンスについて「言葉も内容も知っている」が8割を超える。

図4-4 ドメスティック・バイオレンスの認知 [全体、性別]



ドメスティック・バイオレンスの認知について、「言葉も内容も知っている」が84.6%と最も高い。

性別にみると、「言葉も内容も知っている」は女性が86.3%、男性が82.5%とやや女性の方が高い。

属性別特徴

年代別にみると、男女とも年齢が低い層で「言葉も内容も知っている」の割合が高い傾向にある。

表4-3 ドメスティック・バイオレンスの認知 [全体、年代別]

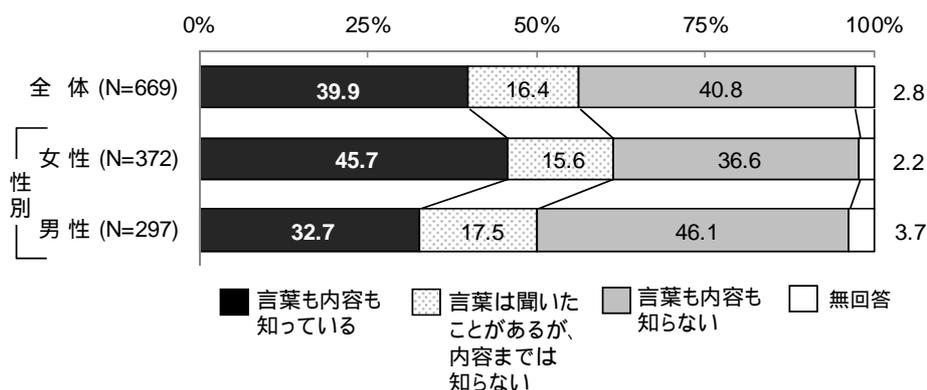
		標本数	言葉も内容も知っている	言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない	言葉は聞いたことがあるが、「家庭内暴力(子どもから親への暴力など)」と思っている	言葉も内容も知らない	無回答
全体		669	566	46	13	30	14
		100.0	84.6	6.9	1.9	4.5	2.1
性別×年代別	女性:20歳代	56	98.2	-	-	-	1.8
	女性:30歳代	85	89.4	5.9	1.2	2.4	1.2
	女性:40歳代	65	89.2	6.2	-	1.5	3.1
	女性:50歳代	64	87.5	12.5	-	-	-
	女性:60歳代	68	79.4	2.9	5.9	11.8	-
	女性:70歳以上	33	63.6	6.1	3.0	18.2	9.1
	男性:20歳代	45	86.7	11.1	-	2.2	-
	男性:30歳代	57	91.2	5.3	1.8	1.8	-
	男性:40歳代	37	89.2	8.1	-	2.7	-
	男性:50歳代	56	80.4	7.1	-	10.7	1.8
	男性:60歳代	83	79.5	8.4	4.8	2.4	4.8
	男性:70歳以上	19	52.6	15.8	10.5	10.5	10.5
	無回答	1	100.0	-	-	-	-

(2)「デートDV」の認知

問11. 恋人関係にある者の間での暴力を、特に「デートDV」と言うことがありますか、このことについて知っていますか。(印は1つ)

デートDVについて「言葉も内容も知っている」「言葉も内容も知らない」がともに約4割。

図4-5 「デートDV」の認知 [全体、性別]



デートDVの認知について「言葉も内容も知っている」は39.9%とドメスティック・バイオレンスに比べ半数以下となっている。「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」は16.4%でデートDVという言葉の認知度は56.3%となっている。一方、「言葉も内容も知らない」は40.8%と今後の周知・啓発が期待される。

性別にみると、「言葉も内容も知っている」は女性が45.7%、男性が32.7%と女性の方が13ポイント多い。

属性別特徴

年代別にみると、男女とも年齢が低い層で「言葉も内容も知っている」の割合が高い傾向にあるが、女性の20歳代では62.5%と最も高いのに対し、男性の20歳代は31.1%と差が大きい。

表4-4 「デートDV」の認知 [全体、年代別]

		標本数	言葉も内容も知っている (%)	言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない (%)	言葉も内容も知らない (%)	無回答 (%)
全体		669	39.9	16.4	40.8	2.8
性別 × 年代別	女性:20歳代	56	62.5	7.1	28.6	1.8
	女性:30歳代	85	44.7	14.1	41.2	-
	女性:40歳代	65	52.3	10.8	33.8	3.1
	女性:50歳代	64	46.9	14.1	39.1	-
	女性:60歳代	68	30.9	26.5	41.2	1.5
	女性:70歳以上	33	36.4	24.2	27.3	12.1
	男性:20歳代	45	31.1	31.1	37.8	-
	男性:30歳代	57	38.6	14.0	47.4	-
	男性:40歳代	37	48.6	5.4	43.2	2.7
	男性:50歳代	56	33.9	17.9	46.4	1.8
	男性:60歳代	83	22.9	20.5	50.6	6.0
	男性:70歳以上	19	26.3	5.3	47.4	21.1
	無回答	1	-	-	100.0	-

(3) ドメスティック・バイオレンスと思う内容

問12 .あなたは、次のようなことが配偶者・パートナーとの間や恋人との間で行われた場合、それは暴力だと思いますか。次の(ア)～(ス)の項目について、それぞれあてはまるものを選んでください。(印は1つずつ)

「大声でどなる」「子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする」などの精神的暴力で場合によっては暴力にあたると認識する傾向がある。

図4-6(1) ドメスティック・バイオレンスと思う内容
[全体、性別](前回調査比較)

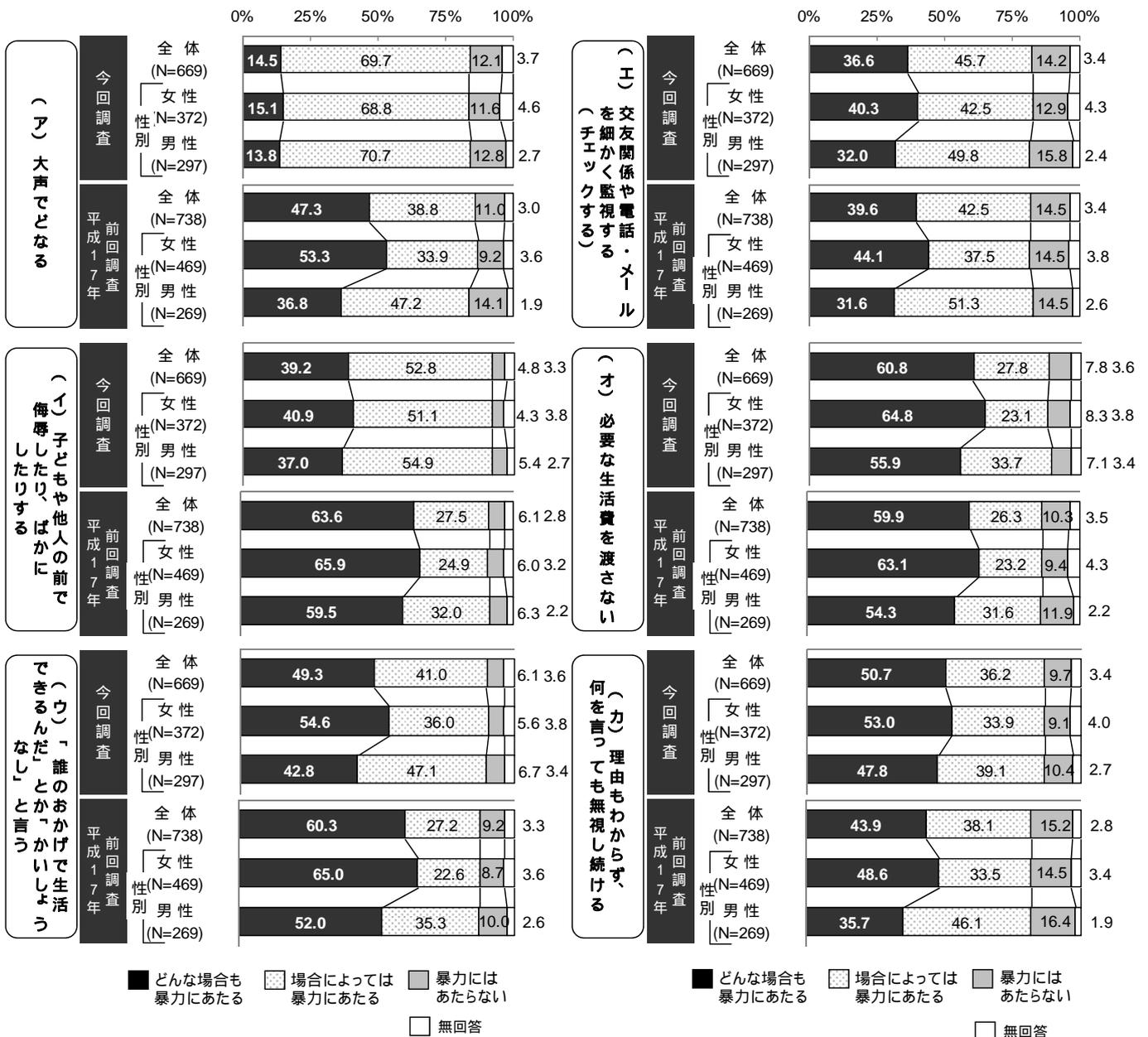
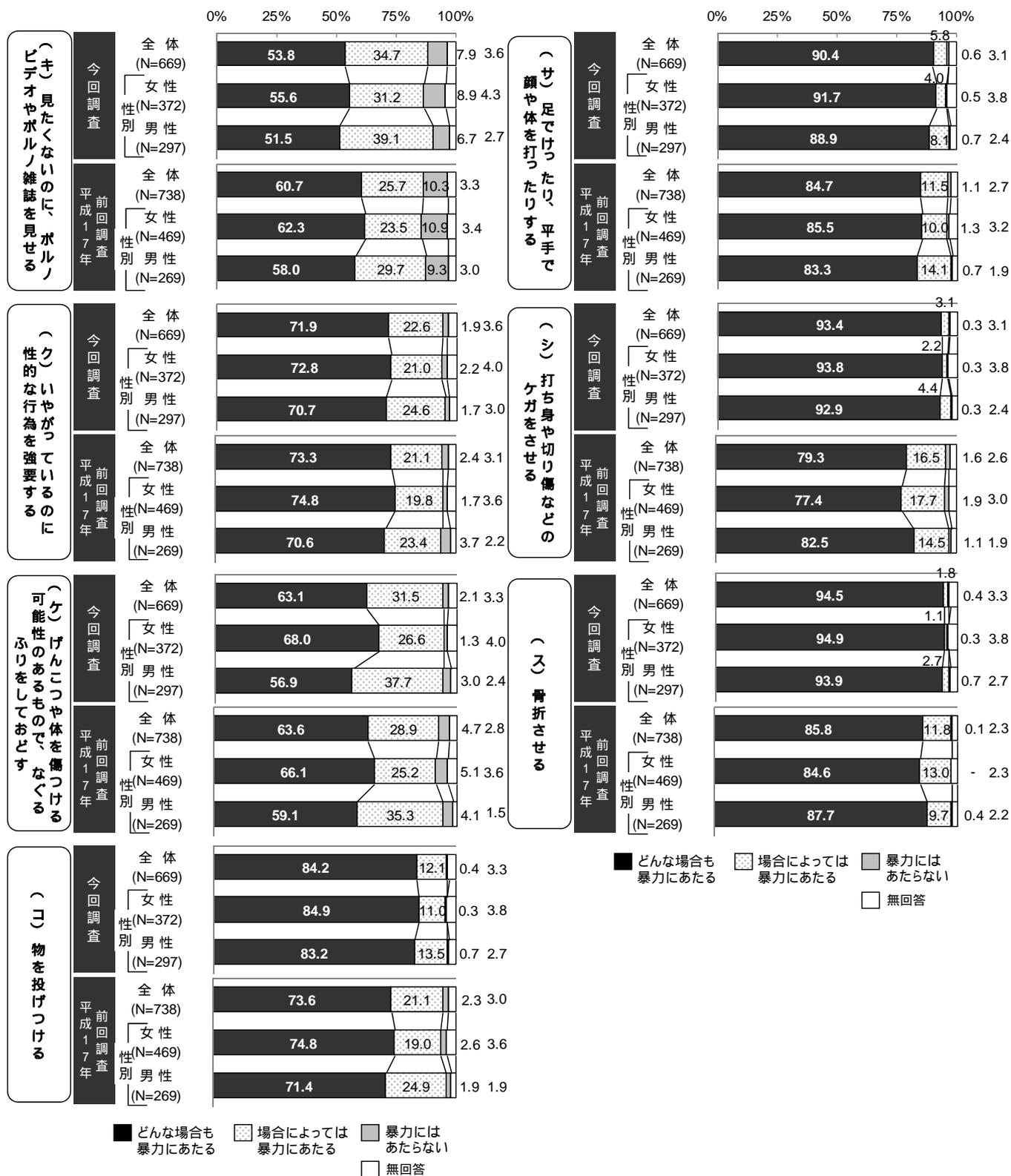


図4-6(2) ドメスティック・バイオレンスと思う内容
[全体、性別](前回調査比較)



精神的・経済的・性的・身体的暴力 13 項目をあげ、配偶者・パートナーとの間や恋人との間で行われた場合、それが暴力と思うかどうかたずねた。

「どんな場合も暴力にあたる」が多いのは「(コ)物を投げつける」(84.2%)、「(サ)足でけったり、平手で顔や体を打ったりする」(90.4%)、「(シ)打ち身や切り傷などのケガをさせる」(93.4%)、「(ス)骨折させる」(94.5%)などの身体的暴力で8割以上となっている。ほとんどの項目で「どんな場合も暴力にあたる」が最も高い割合となっているが、「(ア)大声でどなる」「(イ)子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする」「(エ)交友関係や電話・メールを細かく監視する(チェックする)」などは「場合によっては暴力にあたる」の割合が上回り、特に「(ア)大声でどなる」の「どんな場合も暴力にあたる」は14.5%と最も低い割合となっている。

性別にみると、すべての項目で女性の方が「どんな場合も暴力にあたる」の割合が男性よりも高く、「(ウ)「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言う」や「(ケ)げんこつや体を傷つける可能性のあるもので、なぐるふりをしておどす」などは男性と約11ポイントの差がある。

前回調査と比較すると、男女とも「(サ)足でけったり、平手で顔や体を打ったりする」「(シ)打ち身や切り傷などのケガをさせる」「(ス)骨折させる」など明らかな身体的暴力については「どんな場合も暴力にあたる」の割合が前回調査よりも増加しているが、「(ア)大声でどなる」をはじめ、「(イ)子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする」「(ウ)「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言う」「(キ)見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」などの精神的暴力、性的暴力で「どんな場合も暴力にあたる」の割合が減少しており、特に「(ア)大声でどなる」の減少が目立つ。

属性別特徴

年代別に「どんな場合でも暴力にあたる」の割合をみると、「(ア)大声でどなる」「(イ)子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする」「(エ)交友関係や電話・メールを細かく監視する(チェックする)」「(キ)見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」などの精神的暴力、性的暴力は女性の40歳代から60歳代で高く、「(ウ)「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言う」「(オ)必要な生活費を渡さない」「(ク)いやがっているのに性的な行為を強要する」「(ケ)げんこつや体を傷つける可能性のあるもので、なぐるふりをしておどす」「(コ)物を投げつける」などの経済的暴力、性的暴力、精神的暴力は女性の20歳代が高い。「(サ)足でけったり、平手で顔や体を打ったりする」「(シ)打ち身や切り傷などのケガをさせる」「(ス)骨折させる」などの身体的暴力は女性のいずれの年代でも割合が高い。

男性の場合、20歳代や30歳代の年代で身体的暴力を除くその他の暴力で「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が他の年代に比べて低く、「場合によっては暴力にあたる」の割合が高い傾向がみられる。

表4-5 ドメスティック・バイオレンスと思う内容 [全体、年代別]

(%)

	標本数	(ア) 大声でどなる				(イ) 子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする				(ウ) 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしようなし」と言う				(エ) 交友関係や電話・メールを細かく監視する(チェックする)				(オ) 必要な生活費を渡さない				
		暴力にあたる	場合にあたる	ない	無回答	暴力にあたる	場合にあたる	ない	無回答	暴力にあたる	場合にあたる	ない	無回答	暴力にあたる	場合にあたる	ない	無回答	暴力にあたる	場合にあたる	ない	無回答	
全体	669 100.0	97 14.5	466 69.7	81 12.1	25 3.7	262 39.2	353 52.8	32 4.8	22 3.3	330 49.3	274 41.0	41 6.1	24 3.6	245 36.6	306 45.7	95 14.2	23 3.4	407 60.8	186 27.8	52 7.8	24 3.6	
性別×年代別	女性:20歳代	56	14.3	75.0	8.9	1.8	41.1	51.8	5.4	1.8	64.3	28.6	5.4	1.8	39.3	48.2	10.7	1.8	75.0	17.9	5.4	1.8
	女性:30歳代	85	12.9	77.6	8.2	1.2	36.5	60.0	3.5	-	57.6	36.5	5.9	-	35.3	45.9	18.8	-	63.5	28.2	8.2	-
	女性:40歳代	65	15.4	67.7	13.8	3.1	44.6	46.2	6.2	3.1	53.8	35.4	7.7	3.1	43.1	36.9	16.9	3.1	70.8	12.3	13.8	3.1
	女性:50歳代	64	18.8	70.3	10.9	-	43.8	54.7	1.6	-	60.9	32.8	6.3	-	48.4	43.8	7.8	-	65.6	26.6	7.8	-
	女性:60歳代	68	19.1	61.8	13.2	5.9	47.1	47.1	2.9	2.9	48.5	47.1	-	4.4	44.1	41.2	10.3	4.4	67.6	23.5	5.9	2.9
	女性:70歳以上	33	6.1	51.5	15.2	27.3	27.3	36.4	9.1	27.3	33.3	30.3	12.1	24.2	27.3	33.3	9.1	30.3	33.3	33.3	6.1	27.3
	男性:20歳代	45	6.7	77.8	15.6	-	35.6	57.8	6.7	-	40.0	53.3	6.7	-	20.0	53.3	26.7	-	44.4	48.9	6.7	-
	男性:30歳代	57	7.0	70.2	22.8	-	33.3	59.6	7.0	-	43.9	45.6	10.5	-	29.8	49.1	21.1	-	59.6	35.1	5.3	-
	男性:40歳代	37	24.3	67.6	8.1	-	45.9	45.9	8.1	-	43.2	48.6	8.1	-	29.7	45.9	24.3	-	56.8	27.0	16.2	-
	男性:50歳代	56	5.4	80.4	12.5	1.8	35.7	55.4	7.1	1.8	41.1	46.4	10.7	1.8	23.2	58.9	16.1	1.8	51.8	33.9	8.9	5.4
	男性:60歳代	83	22.9	62.7	8.4	6.0	38.6	54.2	1.2	6.0	44.6	47.0	2.4	6.0	44.6	45.8	4.8	4.8	65.1	24.1	4.8	6.0
	男性:70歳以上	19	15.8	68.4	5.3	10.5	31.6	52.6	5.3	10.5	42.1	36.8	-	21.1	42.1	42.1	5.3	10.5	42.1	47.4	-	10.5
	無回答	1	-	-	100.0	-	-	100.0	-	-	-	100.0	-	-	-	100.0	-	-	-	-	100.0	-
	標本数	(カ) 理由もわからず、何を言っても無視し続ける				(キ) 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる				(ク) いやがっているのに性的な行為を強要する				(ケ) げんこつや体を傷つける可能性のあるもので、なぐるふりをしておどす				(コ) 物を投げつける				
		暴力にあたる	場合にあたる	ない	無回答	暴力にあたる	場合にあたる	ない	無回答	暴力にあたる	場合にあたる	ない	無回答	暴力にあたる	場合にあたる	ない	無回答	暴力にあたる	場合にあたる	ない	無回答	
全体	669 100.0	339 50.7	242 36.2	65 9.7	23 3.4	360 53.8	232 34.7	53 7.9	24 3.6	481 71.9	151 22.6	13 1.9	24 3.6	422 63.1	211 31.5	14 2.1	22 3.3	563 84.2	81 12.1	3 0.4	22 3.3	
性別×年代別	女性:20歳代	56	51.8	35.7	10.7	1.8	55.4	35.7	7.1	1.8	82.1	14.3	1.8	1.8	78.6	19.6	-	1.8	92.9	5.4	-	1.8
	女性:30歳代	85	58.8	35.3	5.9	-	56.5	36.5	7.1	-	76.5	22.4	1.2	-	72.9	25.9	1.2	-	90.6	9.4	-	-
	女性:40歳代	65	56.9	30.8	9.2	3.1	58.5	21.5	16.9	3.1	72.3	21.5	3.1	3.1	69.2	26.2	1.5	3.1	84.6	12.3	-	3.1
	女性:50歳代	64	54.7	32.8	12.5	-	62.5	31.3	6.3	-	76.6	21.9	1.6	-	70.3	28.1	1.6	-	87.5	12.5	-	-
	女性:60歳代	68	52.9	33.8	8.8	4.4	55.9	32.4	5.9	5.9	70.6	23.5	1.5	4.4	60.3	33.8	1.5	4.4	85.3	11.8	-	2.9
	女性:70歳以上	33	30.3	36.4	6.1	27.3	36.4	27.3	9.1	27.3	48.5	21.2	3.0	27.3	45.5	24.2	3.0	27.3	51.5	18.2	3.0	27.3
	男性:20歳代	45	48.9	37.8	13.3	-	42.2	44.4	13.3	-	64.4	33.3	2.2	-	51.1	46.7	2.2	-	82.2	17.8	-	-
	男性:30歳代	57	50.9	36.8	12.3	-	57.9	35.1	7.0	-	68.4	28.1	1.8	1.8	61.4	35.1	3.5	-	84.2	15.8	-	-
	男性:40歳代	37	56.8	37.8	5.4	-	45.9	43.2	10.8	-	75.7	24.3	-	-	62.2	32.4	5.4	-	78.4	21.6	-	-
	男性:50歳代	56	37.5	41.1	17.9	3.6	48.2	42.9	7.1	1.8	75.0	21.4	1.8	1.8	67.9	26.8	3.6	1.8	87.5	7.1	3.6	1.8
	男性:60歳代	83	51.8	36.1	7.2	4.8	57.8	33.7	2.4	6.0	73.5	19.3	2.4	4.8	53.0	41.0	1.2	4.8	86.7	7.2	-	6.0
	男性:70歳以上	19	31.6	57.9	-	10.5	47.4	42.1	-	10.5	57.9	26.3	-	15.8	31.6	52.6	5.3	10.5	63.2	26.3	-	10.5
	無回答	1	-	-	100.0	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	100.0	-	-	-
	標本数	(サ) 足でけったり、平手で顔や体を打ったりする				(シ) 打ち身や切り傷などのケガをさせる				(ス) 骨折させる												
		暴力にあたる	場合にあたる	ない	無回答	暴力にあたる	場合にあたる	ない	無回答	暴力にあたる	場合にあたる	ない	無回答									
全体	669 100.0	605 90.4	39 5.8	4 0.6	21 3.1	625 93.4	21 3.1	2 0.3	21 3.1	632 94.5	12 1.8	3 0.4	22 3.3									
性別×年代別	女性:20歳代	56	89.3	8.9	-	1.8	96.4	1.8	-	1.8	96.4	1.8	-	1.8								
	女性:30歳代	85	96.5	3.5	-	-	96.5	3.5	-	-	98.8	1.2	-	-								
	女性:40歳代	65	93.8	3.1	-	3.1	95.4	1.5	-	3.1	96.9	-	-	3.1								
	女性:50歳代	64	95.3	3.1	1.6	-	98.4	1.6	-	-	98.4	1.6	-	-								
	女性:60歳代	68	94.1	2.9	-	2.9	94.1	2.9	-	2.9	95.6	1.5	-	2.9								
	女性:70歳以上	33	66.7	3.0	3.0	27.3	69.7	-	3.0	27.3	69.7	-	3.0	27.3								
	男性:20歳代	45	80.0	20.0	-	-	86.7	13.3	-	-	91.1	6.7	2.2	-								
	男性:30歳代	57	93.0	7.0	-	-	100.0	-	-	-	98.2	1.8	-	-								
	男性:40歳代	37	86.5	13.5	-	-	94.6	5.4	-	-	100.0	-	-	-								
	男性:50歳代	56	94.6	-	3.6	1.8	94.6	1.8	1.8	1.8	94.6	1.8	1.8	1.8								
	男性:60歳代	83	89.2	6.0	-	4.8	91.6	3.6	-	4.8	92.8	2.4	-	4.8								
	男性:70歳以上	19	84.2	5.3	-	10.5	84.2	5.3	-	10.5	78.9	5.3	-	15.8								
	無回答	1	100.0	-	-	-	100.0	-	-	-	100.0	-	-	-								

(4) ドメスティック・バイオレンスの被害経験

問 13.(A) あなたはこれまでに、あなたの配偶者や恋人関係にあった人から次の(ア)から(ス)のようなことをされたことがありますか。(印は1つずつ)
 (B) これまでに「1、2度あった」「何度もあった」と答えた人は、この1年についてもお答えください。(印は1つずつ)

ドメスティック・バイオレンスの被害経験は女性が多く、「物を投げつける」「ける、平手で打つ」「ケガをさせる」などの身体的暴力の経験は約 10 ポイント女性の方が高い。

図 4 - 7 (1) ドメスティック・バイオレンスの被害経験
 [全体、性別] (前回調査比較)

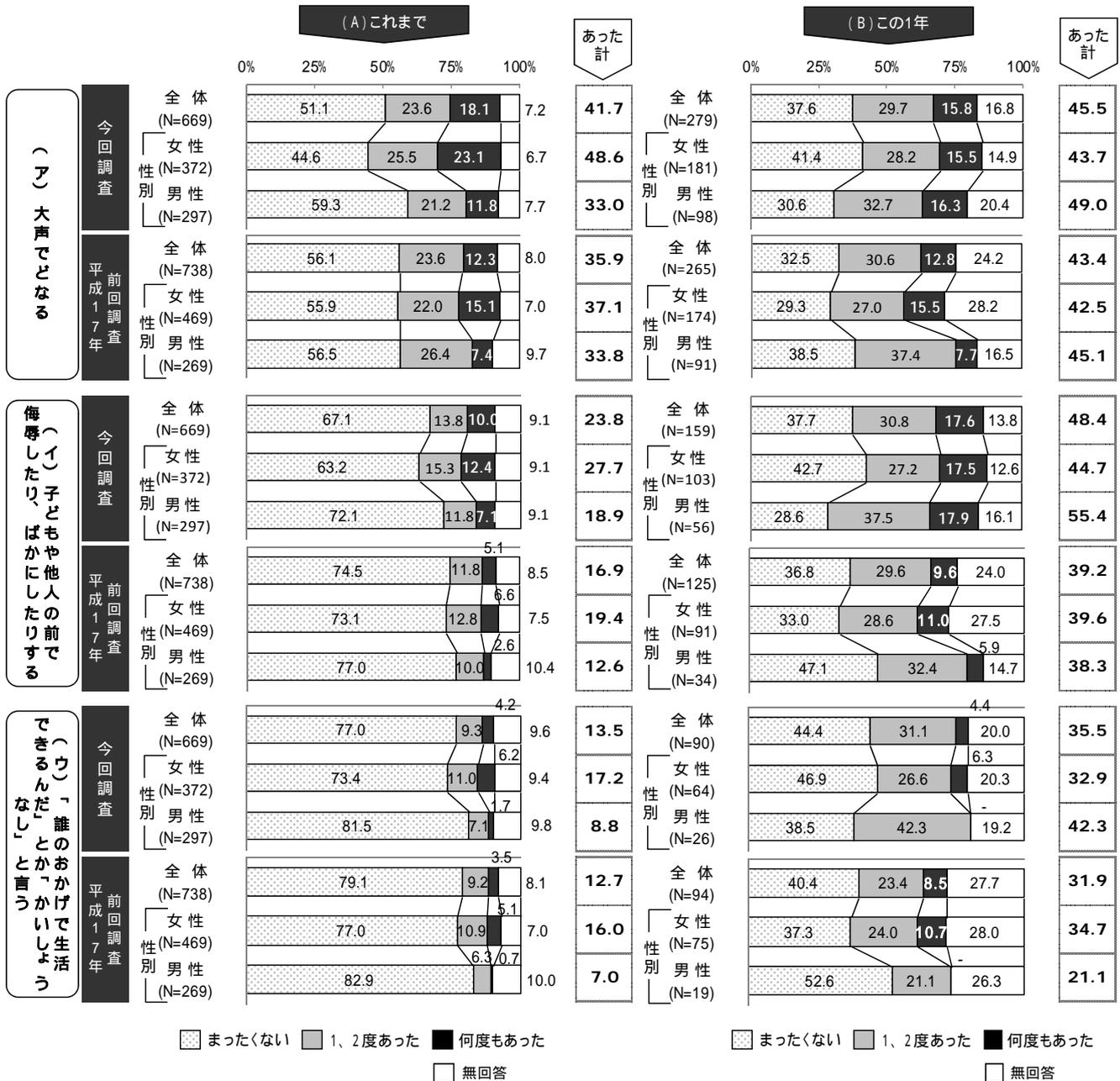


図4-7(2) ドメスティック・バイオレンスの被害経験
[全体、性別](前回調査比較)

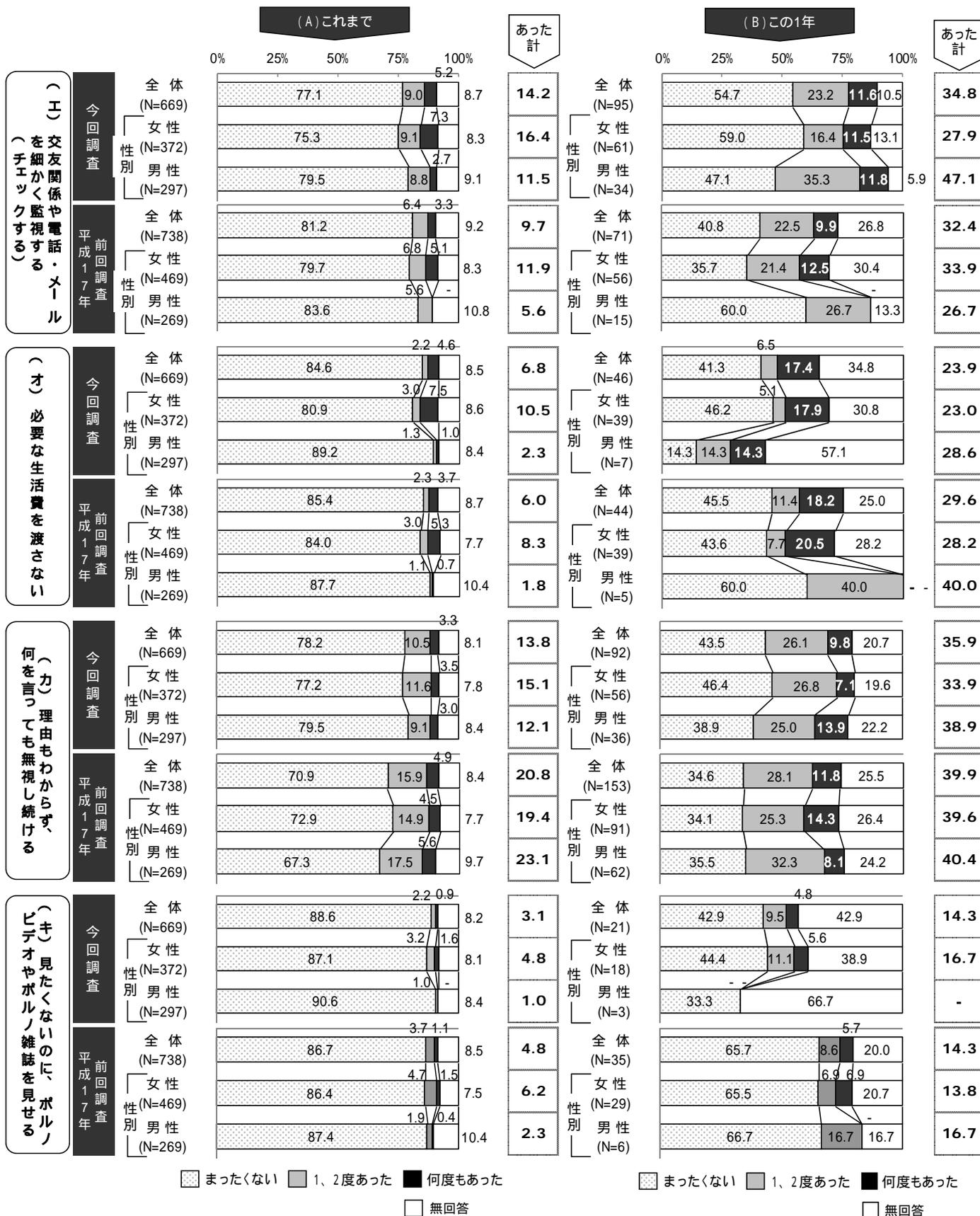


図4-7(3) ドメスティック・バイオレンスの被害経験
[全体、性別](前回調査比較)

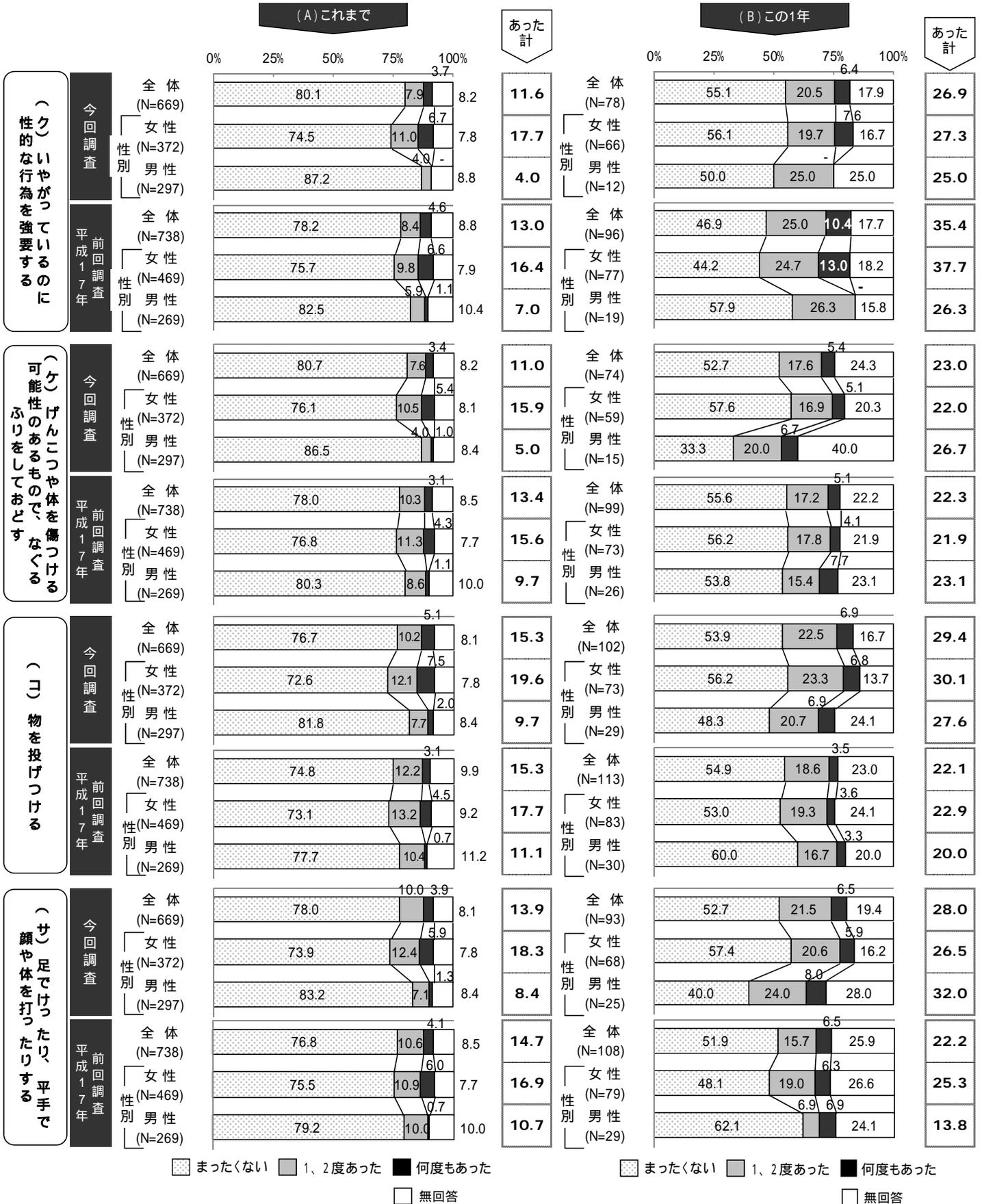
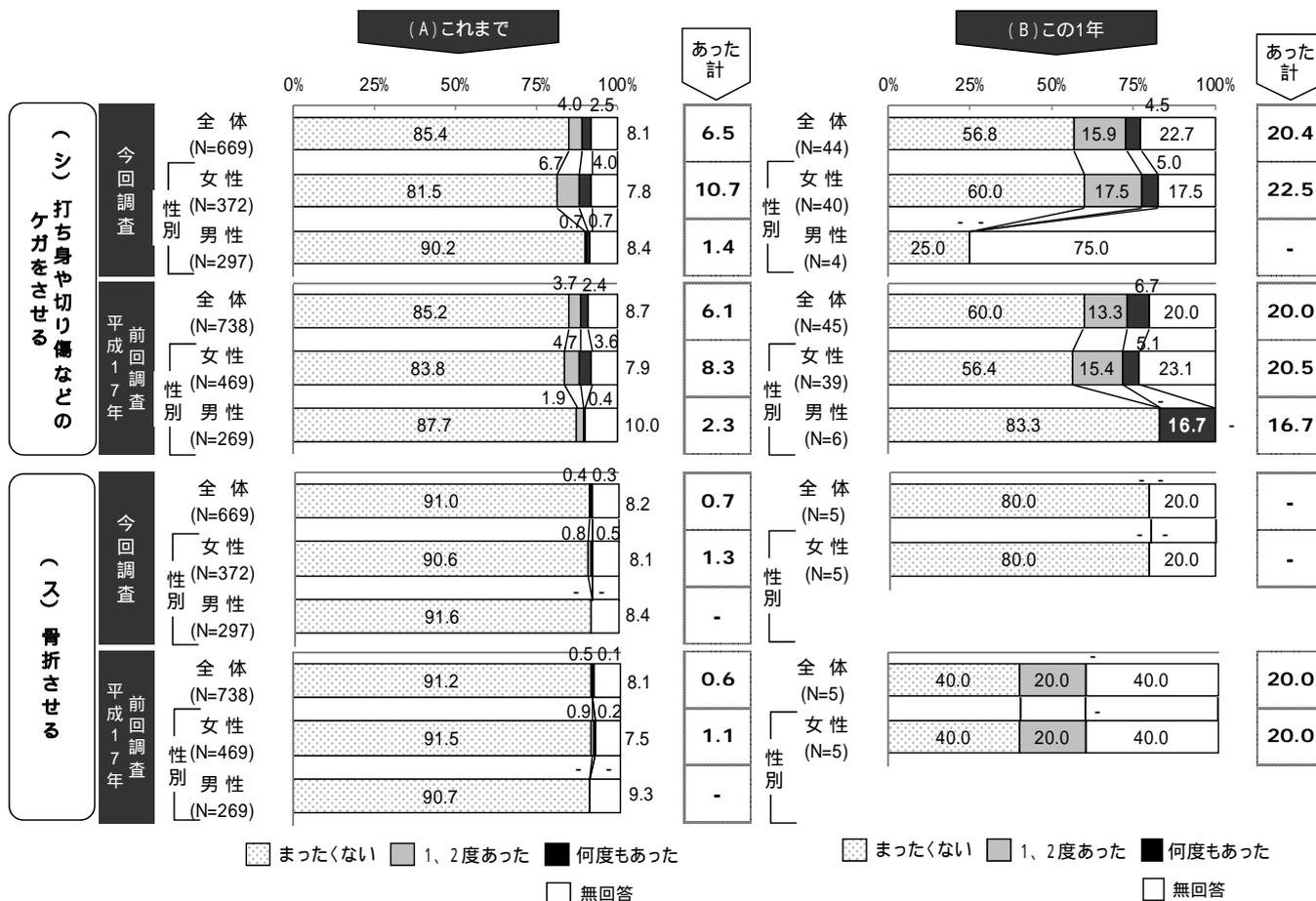


図4-7(4) ドメスティック・バイオレンスの被害経験
[全体、性別](前回調査比較)



配偶者や恋人関係にある人からのドメスティック・バイオレンスの被害経験について 13 項目を掲げてたずね、また、被害経験があった場合にはこの 1 年間についてのその頻度をたずねた。

これまでに「1、2度あった」と「何度もあった」の合計『あった』の割合が高い暴力は「(ア) 大声でどなる」が 41.7%と最も高く、次いで「(イ) 子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする」が 23.8%、「(コ) 物を投げつける」(15.3%)、「(エ) 交友関係や電話・メールを細かく監視する(チェックする)」(14.2%)、「(サ) 足でけったり、平手で顔や体を打ったりする」(13.9%)、「(カ) 理由もわからず、何を言っても無視し続ける」(13.8%)、「(ウ)「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしようなし」と言う」(13.5%)、「(ク) いやがっているのに性的な行為を強要する」(11.6%)、「(ケ) げんこつや体を傷つける可能性のあるもので、なぐるふりをしておどす」(11.0%)などが1割台となっている。

この 1 年間について「何度もあった」暴力をみると、「(イ) 子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする」(17.6%)、「(オ) 必要な生活費を渡さない」(17.4%)、「(ア) 大声でどなる」(15.8%)、「(エ) 交友関係や電話・メールを細かく監視する(チェックする)」(11.6%)などが1割を超えている。

性別にみると、「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が高かった身体的暴力で「(コ) 物を投げつける」(女性：19.6%、男性：9.7%)、「(サ) 足でけったり、平手で顔や体を打ったりする」(同 18.3%、8.4%)、「(シ) 打ち身や切り傷などのケガをさせる」(同 10.7%、1.4%)などの経験が女性の方が約 10 ポイント男性よりも高く、また「(ス) 骨折させる」(同 1.3%、0%)も比

率は低いが、被害経験は女性のみで実数は4人である。その他の精神的暴力や経済的暴力、性的暴力でもすべて女性の方が『あった』の割合が男性を上回っている。

前回調査と比較すると、女性で暴力の経験が『あった』割合が「(カ)理由もわからず、何を言っても無視し続ける」で4.3ポイント減少しているのが目立つ程度で、その他の暴力は「(ア)大声でどなる」が11.5ポイント、「(イ)子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする」が8.3ポイント、「(エ)交友関係や電話・メールを細かく監視する(チェックする)」が4.5ポイント増加、または同程度の割合となっており、精神的暴力は増加しているといえる。

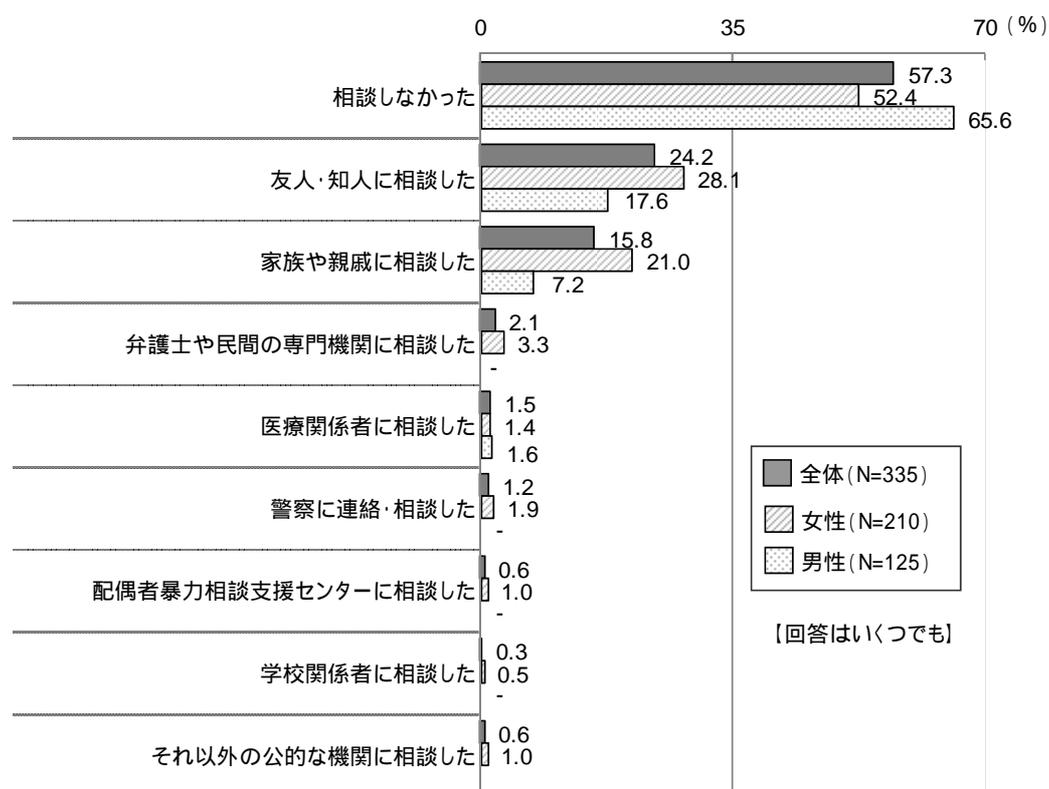
(5) ドメスティック・バイオレンスを受けたときの対応

問13付問1 .〔問13(A)で「1、2度あった」「何度もあった」と答えた方に〕

あなたはこれまでに、問13(ア)～(ス)のようなことをされたとき、誰かに打ち明けたり相談したりしましたか。(印はいくつでも)

ドメスティック・バイオレンスを受けたときの対応は「相談しなかった」が5割以上。相談する場合の相手は「友人・知人」、「家族や親戚」など身近な人が大半である。

図4-8 ドメスティック・バイオレンスを受けたときの対応〔全体、性別〕



ドメスティック・バイオレンスを受けたときの対応をたずねたところ、「相談しなかった」が57.3%で最も高い。相談した場合、最も多かったのは「友人・知人に相談した」で24.2%、次いで「家族や親戚に相談した」が15.8%と被害者の周りにいる身近な人が大半を占めている。「弁護士や民間の専門機関に相談した」2.1%をはじめ、専門機関や公的機関への相談はわずかとなっている。

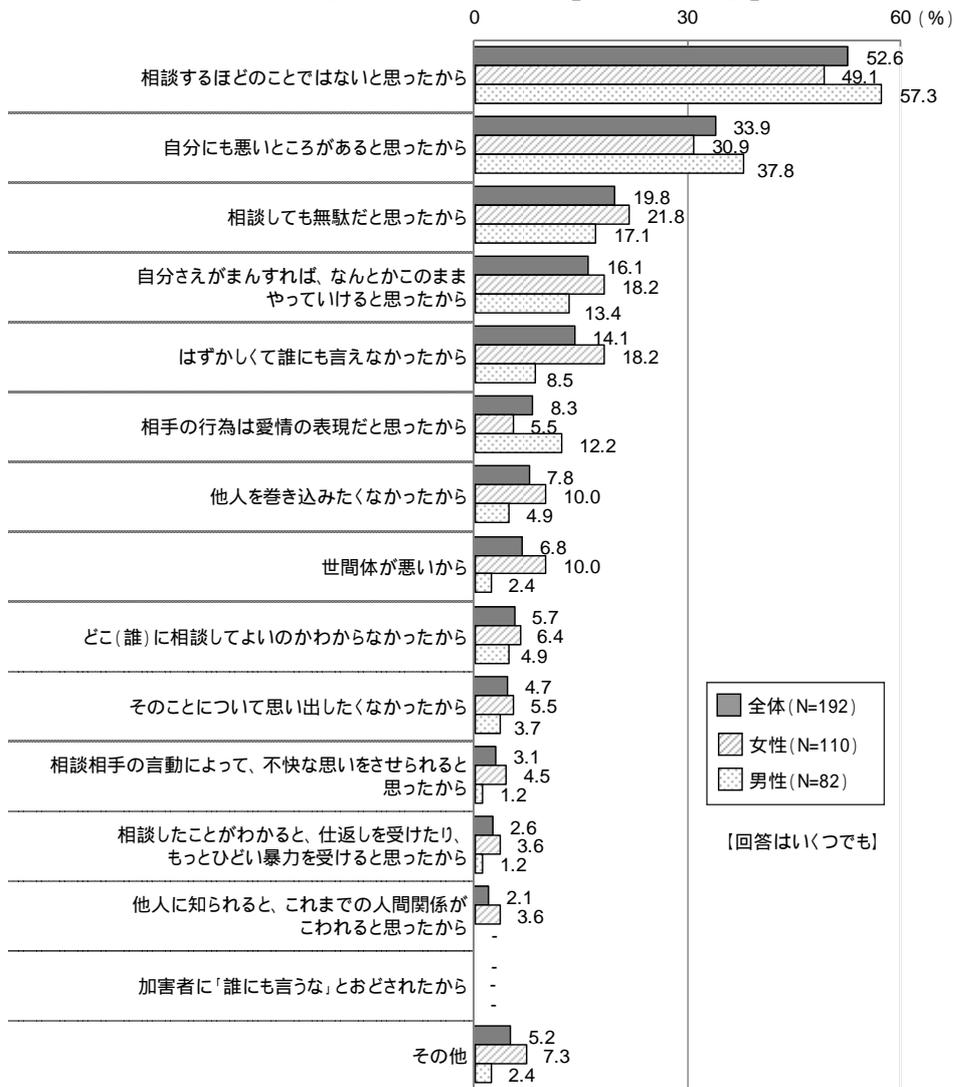
性別にみると、「相談しなかった」は女性が52.4%、男性が65.6%と男性の方が13.2ポイント高く、女性は「友人・知人に相談した」(女性：28.1%、男性：17.6%)が10.5ポイント、「家族や親戚に相談した」(同21.0%、7.2%)が13.8ポイント高く、専門機関や公的機関への相談も男性に比べて多い。

(6) 相談しなかった理由

問 13 付問 1 - 1 . [付問 1 で「 1 . 相談しなかった」と答えた方に]
 あなたが相談しなかったのはなぜですか。(印はいくつでも)

相談しなかった理由は「相談するほどのことではないと思ったから」が約 5 割。

図 4 - 9 相談しなかった理由 [全体、性別]



ドメスティック・バイオレンスを受けたときに「相談しなかった」理由をたずねた。「相談するほどのことではないと思ったから」が 52.6%と最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」33.9%、「相談しても無駄だと思ったから」19.8%、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」16.1%、「はずかしくて誰にも言えなかったから」14.1%などが続いている。

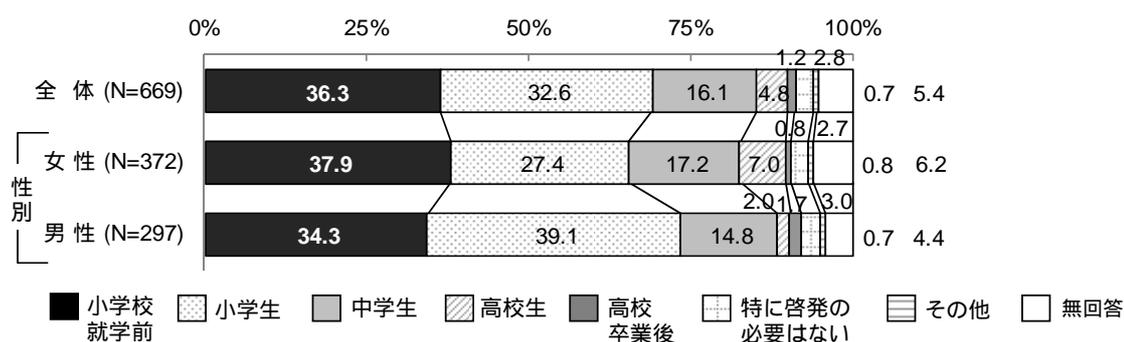
性別にみると、男性は「相談するほどのことではないと思ったから」(女性:49.1%、男性 57.3%) が 8.2 ポイント、「自分にも悪いところがあると思ったから」(同 30.9%、37.8%) が 6.9 ポイント女性よりも高く、その他の理由のほとんどは女性の方が男性よりも割合が高い。

3. 暴力防止の啓発をはじめる時期

問 14 配偶者・パートナーや恋人の間における暴力を防止するためには啓発が重要ですが、あなたは、いつごろから啓発することが大切だと思いますか。(印は1つ)

暴力防止の啓発をはじめる時期は「小学校就学前」(36.3%)、「小学生」(32.6%)が多く、早い時期からの啓発が重要と考えている。

図 4 - 10 暴力防止の啓発をはじめる時期 [全体、性別]



暴力を防止するための啓発をはじめる時期について「小学校就学前」(36.3%)と「小学生」(32.6%)が3割台が多く、次いで「中学生」が16.1%と早い時期からの啓発が重要と考えている。

性別にみると、女性は「小学校就学前」(女性：37.9%、男性：34.3%)が3.6ポイント、男性は「小学生」(同27.4%、39.1%)が11.7ポイント高く、男女とも早い時期から啓発が重要と考えているが女性の方がより早い段階からの啓発を希望していることがわかる。

第5章 社会活動への参画について

1. 地域の役職に女性がつくことに対する考え方

問15. あなたは、次にあげるような役職に、女性がどの程度つくことが望ましいと思いますか。(ア)～(キ)の各分野ごとに、あなたの考えに最も近いものを選んでください。
(印は1つずつ)

地域の役職について「男性と同じくらいにする」の回答が多い。

図5-1(1) 地域の役職に女性がつくことに対する考え方 [全体、性別] (前回調査比較)

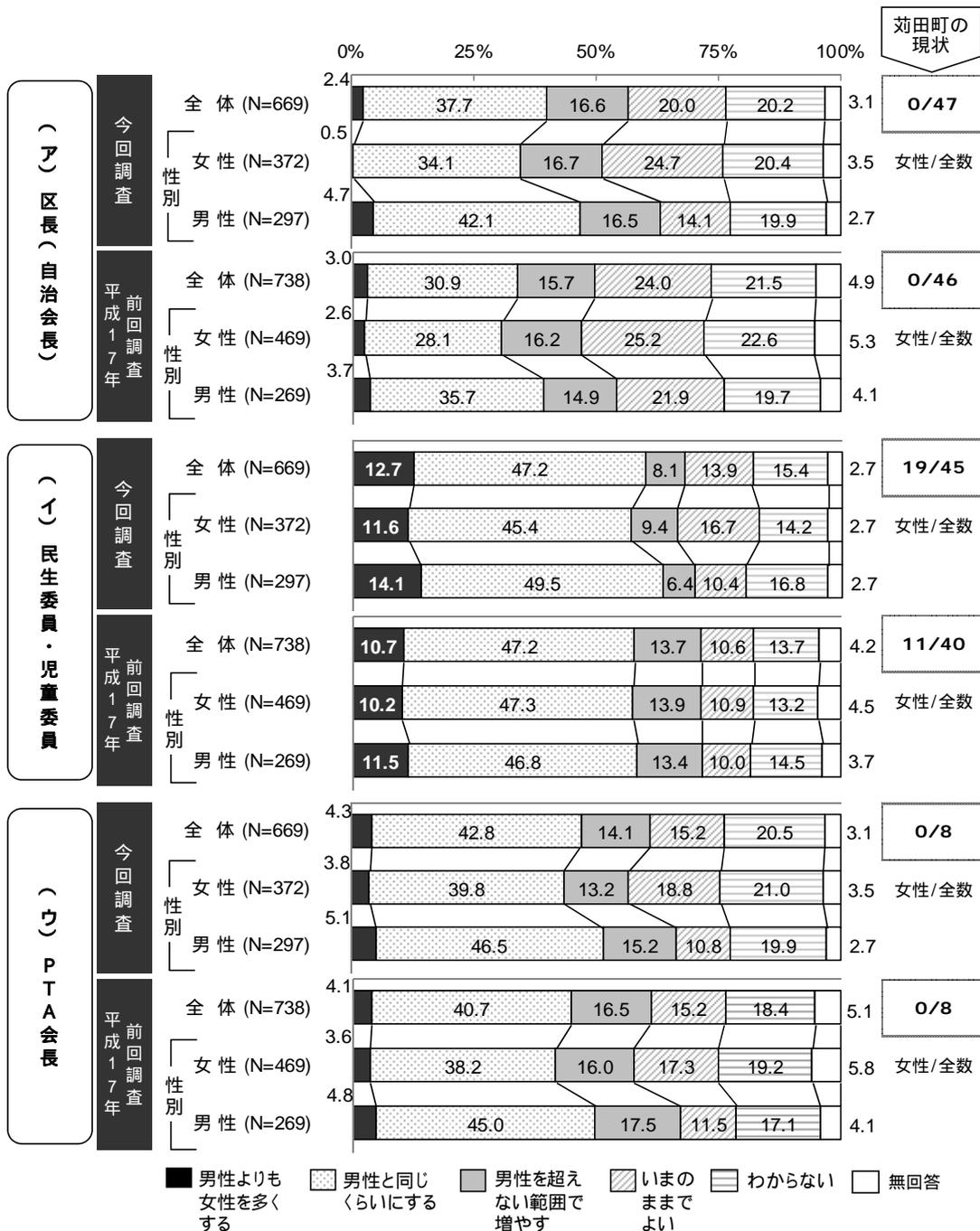
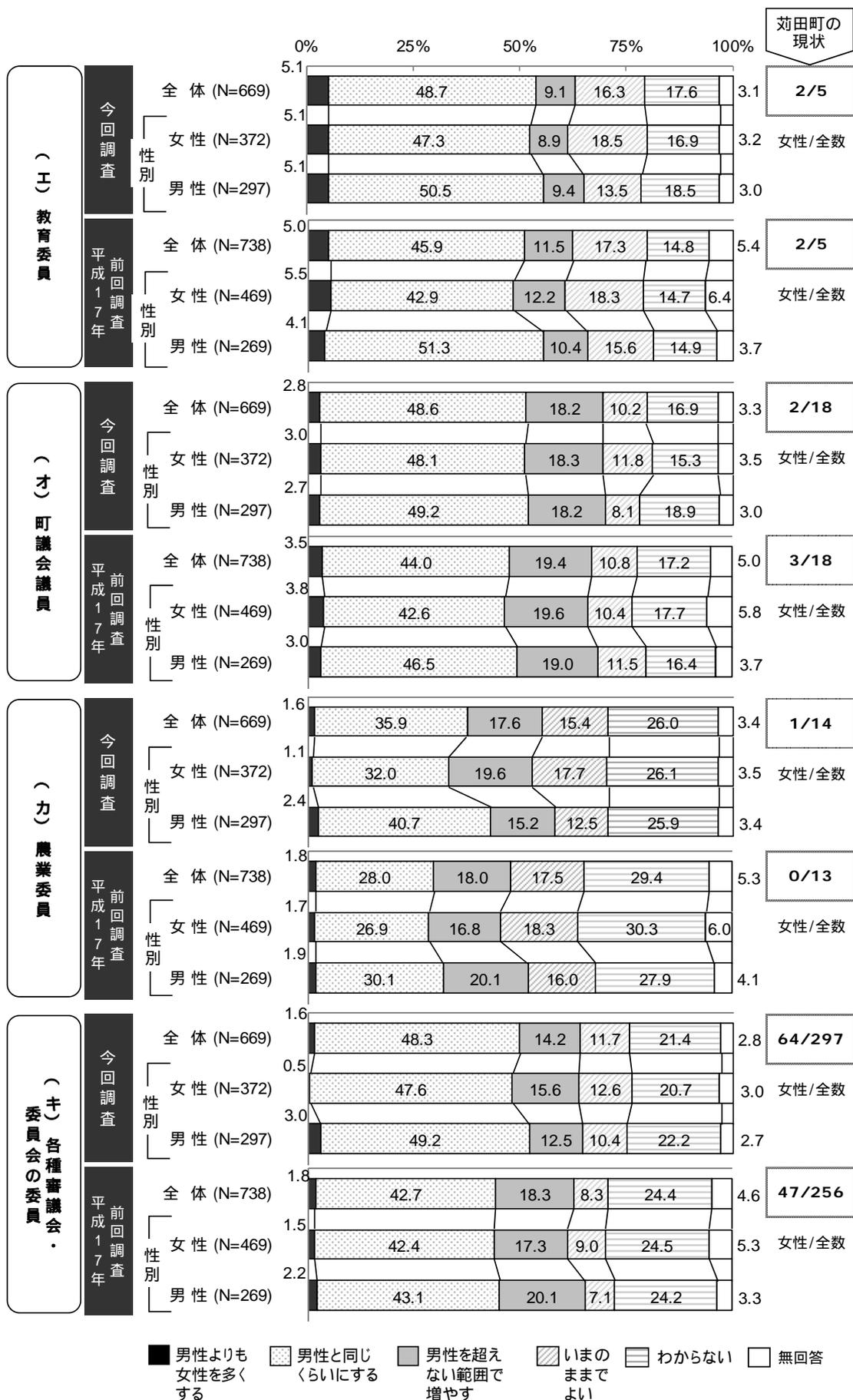


図5 - 1 (2) 地域の役職に女性がつくことに対する考え方 [全体、性別] (前回調査比較)



7つの役職について、現状の女性の人数を示し男女の割合をどの程度にするのがいいと思うかたずねた。役職ごとの現状の人数は「(ア) 区長(自治会長)」47人中0人(0%)、「(イ) 民生委員・児童委員」45人中19人(42.2%)、「(ウ) P T A会長」8人中0人(0%)、「(エ) 教育委員」5人中2人(40.0%)、「(オ) 町議会議員」18人中2人(11.1%)、「(カ) 農業委員」14人中1人(7.1%)、「(キ) 各種審議会・委員会の委員」297人中64人(21.5%)である。

いずれの役職も「男性と同じくらいにする」が3割台から4割台で多く、「(エ) 教育委員」(48.7%)や「(オ) 町議会議員」(48.6%)、「(キ) 各種審議会・委員会の委員」(48.3%)、「(イ) 民生委員・児童委員」(47.2%)などは5割近くとなっている。「いまのままでよい」が相対的に多いのは「(ア) 区長(自治会長)」(20.0%)であるが、現状では女性は47人中0人と男性のみの役職であるにも関わらず、現状維持でよいと考える人が多かった。「男性よりも女性を多くする」は「(イ) 民生委員・児童委員」(12.7%)で唯一1割を超えている。

性別にみると、すべての役職において男性は「男性と同じくらいにする」の割合が女性よりも高く、「(ア) 区長(自治会長)」(女性：34.1%、男性：42.1%)や「(カ) 農業委員」(同32.0%、40.7%)では8ポイント以上の差がある。また、「男性よりも女性を多くする」も「(エ) 教育委員」と「(オ) 町議会議員」を除いて男性の割合の方が高いが、女性はすべての役職で「いまのままでよい」の割合が男性を上回っている。

前回調査と比較すると、女性では「(イ) 民生委員・児童委員」「(ウ) P T A会長」を除く5つの役職で「男性と同じくらいにする」の割合が前回よりも高く、男性は「(エ) 教育委員」を除く6つの役職で「男性と同じくらいにする」の割合が高くなっている。男女とも前回調査に比べ、地域の役職には男女同程度となることが望ましいという考えが広まってきているようだ。

属性別特徴

年代別にみると、ほとんどの役職において女性は30歳代から50歳代、男性は30歳代から40歳代で「男性と同じくらいにする」の割合が高く、現状に満足していないことがうかがわれる。また、「いまのままでよい」は女性の60歳代で相対的に高く、「わからない」は女性の20歳代で多くなっていた。

表5 - 1 地域の役職に女性がつくことに対する考え方 [全体、年代別]

(%)

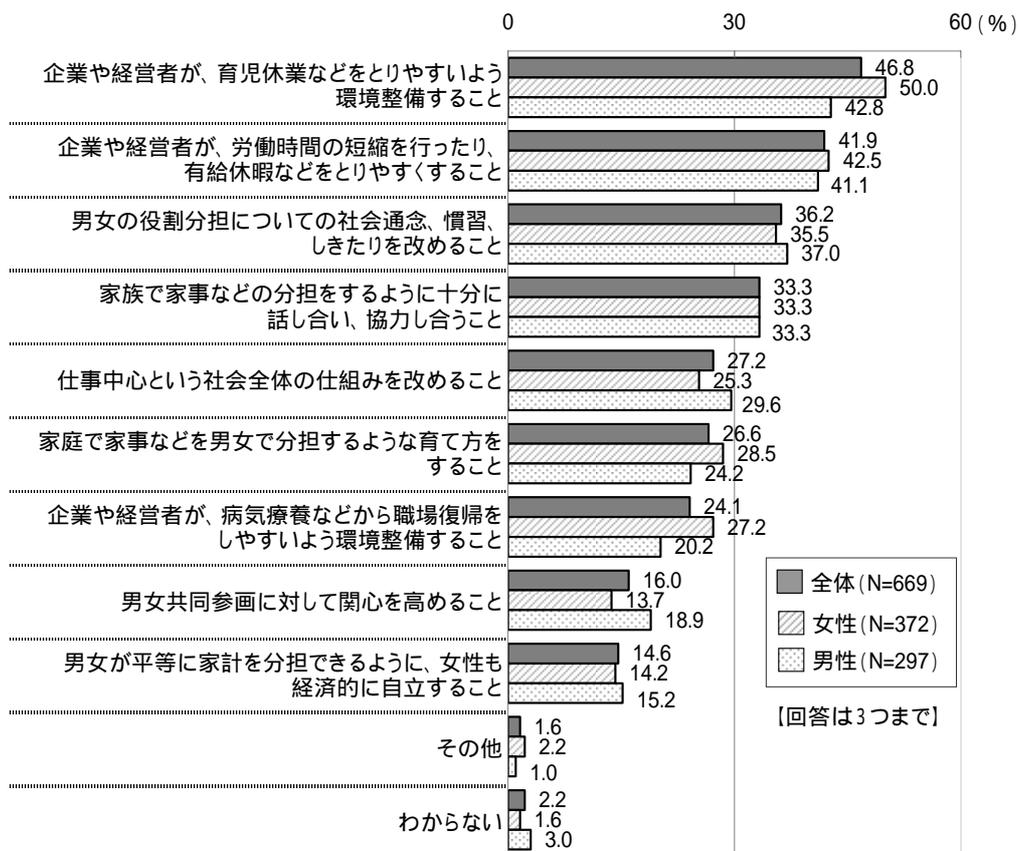
	標本数	(ア) 区長(自治会長)						(イ) 民生委員・児童委員						(ウ) PTA会長						
		を男性より 多 く す る 女 性	い に 男 性 と 同 じ く ら	範 男 性 を 超 え な い	い ま の ま ま で よ	わ か ら な い	無 回 答	を男性より 多 く す る 女 性	い に 男 性 と 同 じ く ら	範 男 性 を 超 え な い	い ま の ま ま で よ	わ か ら な い	無 回 答	を男性より 多 く す る 女 性	い に 男 性 と 同 じ く ら	範 男 性 を 超 え な い	い ま の ま ま で よ	わ か ら な い	無 回 答	
全体	669 100.0	16 2.4	252 37.7	111 16.6	134 20.0	135 20.2	21 3.1	85 12.7	316 47.2	54 8.1	93 13.9	103 15.4	18 2.7	29 4.3	286 42.8	94 14.1	102 15.2	137 20.5	21 3.1	
性別×年代別	女性:20歳代	56	1.8	39.3	10.7	21.4	26.8	-	12.5	42.9	5.4	17.9	21.4	-	12.5	33.9	7.1	14.3	30.4	1.8
	女性:30歳代	85	-	40.0	11.8	17.6	29.4	1.2	5.9	56.5	5.9	14.1	16.5	1.2	3.5	47.1	8.2	16.5	22.4	2.4
	女性:40歳代	65	-	46.2	18.5	13.8	18.5	3.1	15.4	52.3	9.2	7.7	13.8	1.5	3.1	47.7	10.8	16.9	20.0	1.5
	女性:50歳代	64	-	34.4	18.8	32.8	12.5	1.6	14.1	46.9	14.1	14.1	9.4	1.6	-	45.3	21.9	14.1	17.2	1.6
	女性:60歳代	68	1.5	22.1	22.1	38.2	11.8	4.4	8.8	33.8	13.2	26.5	13.2	4.4	1.5	30.9	16.2	30.9	17.6	2.9
	女性:70歳以上	33	-	12.1	21.2	27.3	21.2	18.2	18.2	30.3	9.1	24.2	6.1	12.1	3.0	24.2	18.2	21.2	15.2	18.2
	男性:20歳代	45	2.2	51.1	17.8	8.9	20.0	-	15.6	48.9	4.4	15.6	15.6	-	6.7	48.9	17.8	6.7	20.0	-
	男性:30歳代	57	3.5	49.1	14.0	7.0	26.3	-	14.0	49.1	1.8	8.8	26.3	-	3.5	54.4	10.5	5.3	26.3	-
	男性:40歳代	37	5.4	40.5	10.8	21.6	21.6	-	8.1	62.2	2.7	13.5	13.5	-	2.7	51.4	8.1	18.9	18.9	-
	男性:50歳代	56	5.4	26.8	23.2	14.3	23.2	7.1	14.3	39.3	7.1	10.7	21.4	7.1	5.4	32.1	16.1	10.7	28.6	7.1
男性:60歳代	83	6.0	41.0	18.1	16.9	14.5	3.6	14.5	54.2	10.8	6.0	10.8	3.6	6.0	48.2	16.9	13.3	12.0	3.6	
男性:70歳以上	19	5.3	52.6	5.3	21.1	10.5	5.3	21.1	36.8	10.5	15.8	10.5	5.3	5.3	42.1	26.3	10.5	10.5	5.3	
無回答	1	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-	
	標本数	(工) 教育委員						(オ) 町議会議員						(カ) 農業委員						
		を男性より 多 く す る 女 性	い に 男 性 と 同 じ く ら	範 男 性 を 超 え な い	い ま の ま ま で よ	わ か ら な い	無 回 答	を男性より 多 く す る 女 性	い に 男 性 と 同 じ く ら	範 男 性 を 超 え な い	い ま の ま ま で よ	わ か ら な い	無 回 答	を男性より 多 く す る 女 性	い に 男 性 と 同 じ く ら	範 男 性 を 超 え な い	い ま の ま ま で よ	わ か ら な い	無 回 答	
全体	669 100.0	34 5.1	326 48.7	61 9.1	109 16.3	118 17.6	21 3.1	19 2.8	325 48.6	122 18.2	68 10.2	113 16.9	22 3.3	11 1.6	240 35.9	118 17.6	103 15.4	174 26.0	23 3.4	
性別×年代別	女性:20歳代	56	14.3	39.3	3.6	16.1	26.8	-	8.9	50.0	7.1	8.9	25.0	-	1.8	37.5	12.5	14.3	33.9	-
	女性:30歳代	85	5.9	52.9	4.7	15.3	20.0	1.2	1.2	56.5	10.6	12.9	17.6	1.2	1.2	42.4	15.3	12.9	27.1	1.2
	女性:40歳代	65	4.6	53.8	12.3	12.3	15.4	1.5	3.1	55.4	15.4	10.8	13.8	1.5	1.5	35.4	23.1	16.9	21.5	1.5
	女性:50歳代	64	-	56.3	9.4	21.9	10.9	1.6	1.6	51.6	28.1	7.8	9.4	1.6	-	31.3	25.0	21.9	20.3	1.6
	女性:60歳代	68	1.5	42.6	11.8	26.5	14.7	2.9	2.9	41.2	25.0	16.2	11.8	2.9	1.5	25.0	22.1	23.5	23.5	4.4
	女性:70歳以上	33	6.1	27.3	15.2	21.2	9.1	21.2	-	18.2	30.3	15.2	12.1	24.2	-	6.1	21.2	18.2	33.3	21.2
	男性:20歳代	45	4.4	53.3	4.4	20.0	17.8	-	-	60.0	15.6	4.4	17.8	2.2	4.4	42.2	17.8	11.1	24.4	-
	男性:30歳代	57	5.3	47.4	10.5	10.5	24.6	1.8	5.3	47.4	15.8	5.3	26.3	-	3.5	49.1	10.5	3.5	33.3	-
	男性:40歳代	37	2.7	62.2	5.4	13.5	16.2	-	-	59.5	8.1	8.1	24.3	-	-	51.4	10.8	10.8	27.0	-
	男性:50歳代	56	3.6	39.3	10.7	14.3	25.0	7.1	1.8	37.5	14.3	14.3	25.0	7.1	-	33.9	10.7	16.1	30.4	8.9
男性:60歳代	83	7.2	51.8	12.0	12.0	13.3	3.6	4.8	48.2	26.5	7.2	9.6	3.6	3.6	36.1	19.3	16.9	19.3	4.8	
男性:70歳以上	19	5.3	57.9	10.5	10.5	10.5	5.3	-	47.4	26.3	10.5	10.5	5.3	-	31.6	26.3	15.8	21.1	5.3	
無回答	1	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-	
	標本数	(キ) 各種審議会・委員会の委員																		
		を男性より 多 く す る 女 性	い に 男 性 と 同 じ く ら	範 男 性 を 超 え な い	い ま の ま ま で よ	わ か ら な い	無 回 答													
全体	669 100.0	11 1.6	323 48.3	95 14.2	78 11.7	143 21.4	19 2.8													
性別×年代別	女性:20歳代	56	-	50.0	8.9	12.5	28.6	-												
	女性:30歳代	85	1.2	54.1	8.2	11.8	22.4	2.4												
	女性:40歳代	65	-	56.9	13.8	9.2	18.5	1.5												
	女性:50歳代	64	-	48.4	23.4	12.5	14.1	1.6												
	女性:60歳代	68	1.5	39.7	20.6	16.2	19.1	2.9												
	女性:70歳以上	33	-	24.2	24.2	15.2	21.2	15.2												
	男性:20歳代	45	4.4	48.9	13.3	6.7	26.7	-												
	男性:30歳代	57	3.5	52.6	8.8	5.3	29.8	-												
	男性:40歳代	37	2.7	54.1	8.1	10.8	24.3	-												
	男性:50歳代	56	1.8	37.5	17.9	12.5	23.2	7.1												
男性:60歳代	83	3.6	53.0	12.0	14.5	13.3	3.6													
男性:70歳以上	19	-	47.4	15.8	10.5	21.1	5.3													
無回答	1	-	-	-	-	100.0	-													

2. 男女がともに参画していくために必要なこと

問 16. 男女がともに仕事と家庭、社会活動などに積極的に参画していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。特に必要と思うものを選んでください。(印は3つまで)

仕事と家庭、社会活動へ積極的に参画していくためには「育児休業を取得しやすい環境整備」「労働時間の短縮、有給休暇の取得」など企業や経営者への要望が上位。

図 5 - 2 男女がともに参画していくために必要なこと [全体、性別]



男女がともに仕事と家庭、社会活動などに積極的に参画するために必要なこととして「企業や経営者が、育児休業などをとりやすいよう環境整備すること」が 46.8%、「企業や経営者が、労働時間の短縮を行ったり、有給休暇などを取りやすくすること」が 41.9%と企業や経営者への要望が上位にあがった。

性別にみると、女性は「企業や経営者が、育児休業などをとりやすいよう環境整備すること」(女性：50.0%、男性：42.8%)、「企業や経営者が、病気療養などから職場復帰をしやすいよう環境整備すること」(同 27.2%、20.2%)などが約7ポイント高く、男性は「仕事中心という社会全体の仕組みを改めること」(同 25.3%、29.6%)、「男女共同参画に対して関心を高めること」(同 13.7%、18.9%)などが約4～5ポイント高くなっている。

属性別特徴

年代別にみると、男女とも年齢が低い層では「企業や経営者が、育児休業などをとりやすいよう環境整備すること」「企業や経営者が、労働時間の短縮を行ったり、有給休暇などをとりやすくすること」「仕事中心という社会全体の仕組みを改めること」などが高くなっており、反対に年齢が高い層では「企業や経営者が、病気療養などから職場復帰をしやすいよう環境整備すること」「男女共同参画に対して関心を高めること」「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」などが高くなっている。また、「家庭で家事などを男女で分担するような育て方をすること」「家族で家事などの分担をするように十分に話し合い、協力し合うこと」などの家庭や家族での話し合いの必要性については女性では年齢が高い層で、男性では低い層で高くなっている。

配偶関係別にみると、男女とも共働きでない場合は「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」、男性の共働きの場合は「企業や経営者が、育児休業などをとりやすいよう環境整備すること」「企業や経営者が、労働時間の短縮を行ったり、有給休暇などをとりやすくすること」などの要望が高くなっている。また、男女とも未婚者では「男女が平等に家計を分担できるように、女性も経済的に自立すること」が既婚者に比べて高く、その他女性の未婚者は「企業や経営者が、労働時間の短縮を行ったり、有給休暇などをとりやすくすること」「家族で家事などの分担をするように十分に話し合い、協力し合うこと」「家庭で家事などを男女で分担するような育て方をすること」などが高くなっている。

表5 - 2 男女がともに参画していくために必要なこと [全体、年代別、配偶関係別]

		標本数	会通の慣習、しきたり	男女の役割分担	仕事中心という社会全体の仕組みを改めること	短縮や行ったり、有給休暇などの	企業や経営者が、労働時間の短縮を行ったり、有給休暇などをとりやすくすること	企業や経営者が、育児休業環境整備すること	企業や経営者が、病気療養などから職場復帰をしやすいよう環境整備すること	家族で家事などの話し合い、協力を	男女が平等に家計を分担できるように、女性も経済的に自立すること	家庭で家事などを男女で分担すること	男女共同参画に	その他	わからない	無回答
全体		669 100.0	242 36.2	182 27.2	280 41.9	313 46.8	161 24.1	223 33.3	98 14.6	178 26.6	107 16.0	11 1.6	15 2.2	16 2.4		
性別×年代別	女性:20歳代	56	39.3	33.9	55.4	57.1	19.6	30.4	12.5	25.0	10.7	1.8	-	-		
	女性:30歳代	85	24.7	35.3	47.1	57.6	16.5	32.9	12.9	25.9	7.1	4.7	2.4	2.4		
	女性:40歳代	65	43.1	18.5	50.8	49.2	29.2	24.6	15.4	27.7	15.4	1.5	-	1.5		
	女性:50歳代	64	40.6	20.3	37.5	39.1	31.3	42.2	18.8	29.7	14.1	-	1.6	1.6		
	女性:60歳代	68	33.8	22.1	27.9	50.0	33.8	39.7	13.2	32.4	17.6	2.9	1.5	4.4		
	女性:70歳以上	33	36.4	15.2	30.3	42.4	42.4	24.2	12.1	30.3	24.2	-	6.1	3.0		
	男性:20歳代	45	37.8	28.9	40.0	51.1	15.6	44.4	13.3	28.9	13.3	2.2	2.2	-		
	男性:30歳代	57	19.3	31.6	52.6	52.6	24.6	33.3	15.8	29.8	12.3	1.8	1.8	-		
	男性:40歳代	37	29.7	37.8	43.2	40.5	16.2	37.8	16.2	29.7	16.2	2.7	5.4	-		
	男性:50歳代	56	35.7	30.4	50.0	32.1	23.2	25.0	21.4	14.3	14.3	-	1.8	7.1		
男性:60歳代	83	50.6	26.5	27.7	42.2	15.7	33.7	12.0	21.7	28.9	-	2.4	3.6			
男性:70歳以上	19	47.4	21.1	36.8	31.6	36.8	21.1	10.5	26.3	26.3	-	10.5	5.3			
無回答		1	-	-	100.0	-	-	100.0	-	100.0	-	-	-	-		
性別×配偶関係別	女性:結婚したことはない	39	28.2	20.5	48.7	56.4	10.3	46.2	23.1	30.8	10.3	2.6	-	2.6		
	女性:既婚(共働きである)	116	30.2	29.3	43.1	54.3	27.6	31.0	18.1	28.4	9.5	3.4	1.7	0.9		
	女性:既婚(共働きでない)	124	40.3	30.6	42.7	46.8	29.0	29.0	9.7	24.2	16.1	0.8	0.8	3.2		
	女性:死別	39	38.5	12.8	28.2	46.2	35.9	38.5	10.3	43.6	15.4	2.6	5.1	2.6		
	女性:離別	51	37.3	17.6	49.0	47.1	29.4	33.3	11.8	25.5	17.6	2.0	2.0	2.0		
	女性:その他	1	100.0	-	-	100.0	-	-	-	100.0	-	-	-	-		
	男性:結婚したことはない	51	33.3	33.3	39.2	45.1	13.7	31.4	23.5	33.3	13.7	2.0	3.9	-		
	男性:既婚(共働きである)	80	25.0	31.3	47.5	48.8	21.3	36.3	13.8	23.8	13.8	1.3	2.5	3.8		
	男性:既婚(共働きでない)	126	49.2	25.4	37.3	40.5	19.0	32.5	14.3	18.3	28.6	0.8	0.8	2.4		
	男性:死別	6	16.7	50.0	66.7	50.0	16.7	50.0	-	33.3	-	-	-	-		
男性:離別	29	34.5	34.5	34.5	37.9	34.5	20.7	13.8	31.0	3.4	-	10.3	6.9			
男性:その他	1	-	-	100.0	-	-	100.0	-	100.0	-	-	-	-			
無回答		6	16.7	16.7	33.3	-	16.7	83.3	-	33.3	33.3	-	16.7	-		

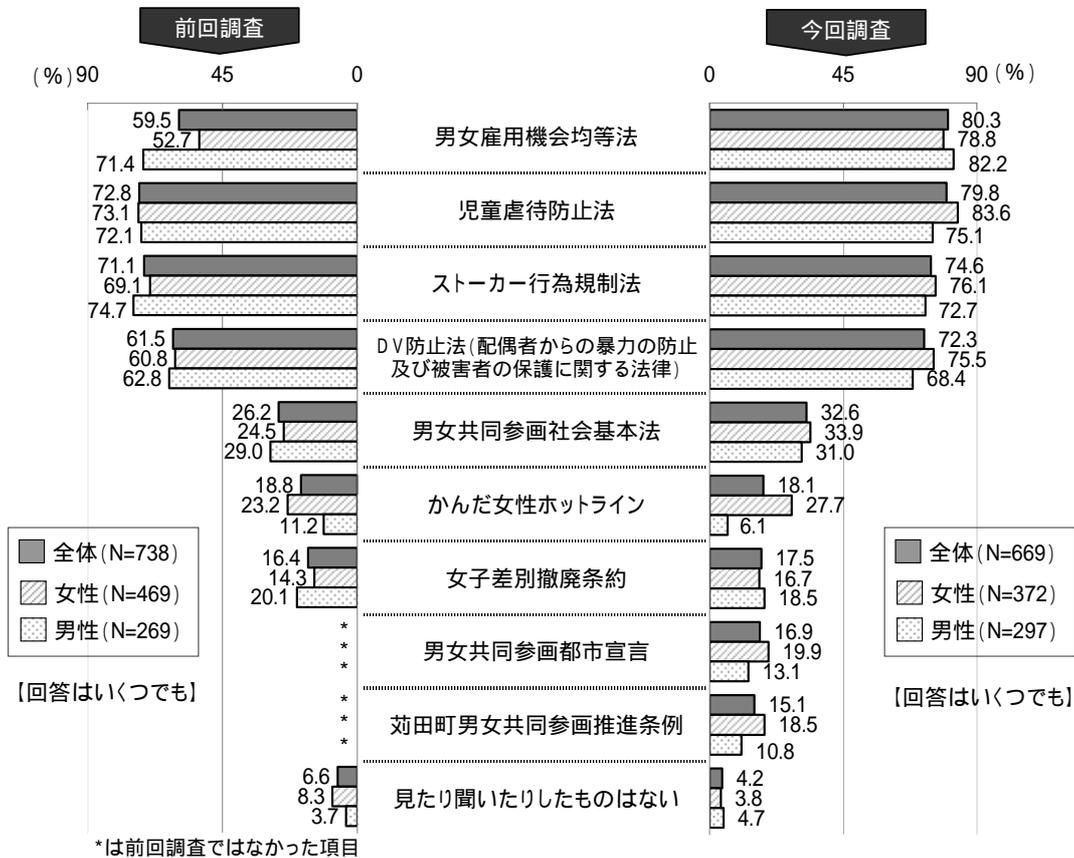
第6章 男女共同参画社会の実現に向けて

1. 男女共同参画社会関連の法律や制度などの認知状況

問17. 次の法律や制度などについて、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものはどれですか。(印はいくつでも)

男女共同参画社会関連の法律や制度などの認知は男女とも前回調査より上昇。

図6-1 男女共同参画社会関連の法律や制度などの認知状況
[全体、性別] (前回調査比較)



男女共同参画社会関連の法律や制度などの認知についてたずねたところ、「男女雇用機会均等法」(80.3%)、「児童虐待防止法」(79.8%)、「ストーカー行為規制法」(74.6%)、「DV防止法(配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律)」(72.3%)などは7割以上の認知となっている。

性別にみると、「かんだ女性ホットライン」(女性：27.7%、男性：6.1%)や「苅田町男女共同参画推進条例」(同 18.5%、10.8%)、「男女共同参画都市宣言」(同 19.9%、13.1%)、「児童虐待防止法」(同 83.6%、75.1%)、「DV防止法(配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律)」(同 75.5%、68.4%)などは女性の方の認知が高く、差が大きいものである。

前回調査と比較すると、男女とも法律や制度の認知率はほとんどが前回調査よりも上がっている。特に女性は前回調査では「男女雇用機会均等法」をはじめとする男女共同参画社会に向けた法律や施策については男性よりも認知が低かったことから関心が高くなったと思われる。

属性別特徴

年代別にみると、女性では「苅田町男女共同参画推進条例」「男女共同参画都市宣言」などは年齢が高い層での認知が高く、その他の法律や制度などは年齢が低い層での認知が高くなっている。男性では40歳代で「男女雇用機会均等法」「児童虐待防止法」「ストーカー行為規制法」「DV防止法(配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律)」「男女共同参画社会基本法」などの認知が高く、「女子差別撤廃条約」「苅田町男女共同参画推進条例」「男女共同参画都市宣言」などは60歳以上の年代で高い。

性別役割分担意識別にみると、男女とも法律や制度の認知率はほとんどが性別役割分担を容認しない人の方が高くなっている。

表6-1 男女共同参画社会関連の法律や制度などの認知状況
[全体、年代別、性別役割分担意識別]

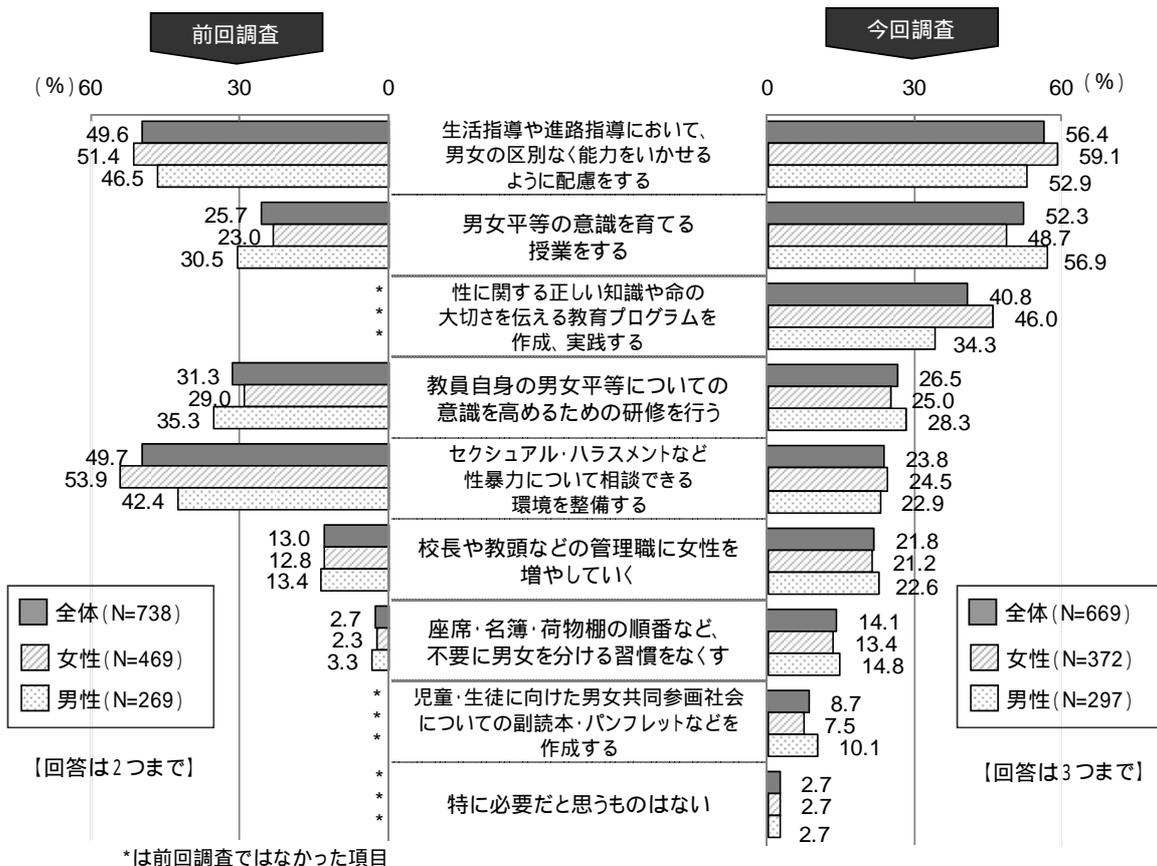
		標本数	女子差別撤廃条約	男女雇用機会均等法	男女共同参画社会基本法	ストーカー行為規制法	DV防止法(配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律)	児童虐待防止法	苅田町男女共同参画推進条例	男女共同参画都市宣言	かんだ女性ホットライン	見たり聞いたもの	無回答
全体		669 100.0	117 17.5	537 80.3	218 32.6	499 74.6	484 72.3	534 79.8	101 15.1	113 16.9	121 18.1	28 4.2	13 1.9
性別×年代別	女性:20歳代	56	26.8	91.1	35.7	76.8	80.4	87.5	8.9	19.6	35.7	-	-
	女性:30歳代	85	17.6	80.0	27.1	87.1	80.0	84.7	11.8	17.6	28.2	2.4	-
	女性:40歳代	65	16.9	87.7	38.5	89.2	89.2	92.3	18.5	21.5	30.8	-	-
	女性:50歳代	64	10.9	82.8	37.5	75.0	78.1	79.7	18.8	18.8	31.3	6.3	1.6
	女性:60歳代	68	13.2	64.7	33.8	61.8	58.8	76.5	32.4	19.1	19.1	8.8	4.4
	女性:70歳以上	33	15.2	60.6	33.3	51.5	57.6	78.8	24.2	27.3	18.2	6.1	6.1
	男性:20歳代	45	15.6	84.4	31.1	66.7	60.0	80.0	-	11.1	4.4	4.4	-
	男性:30歳代	57	14.0	84.2	26.3	80.7	73.7	66.7	5.3	10.5	10.5	-	1.8
	男性:40歳代	37	13.5	89.2	40.5	81.1	75.7	83.8	16.2	10.8	5.4	5.4	-
	男性:50歳代	56	12.5	75.0	19.6	64.3	60.7	69.6	5.4	7.1	1.8	7.1	7.1
	男性:60歳代	83	25.3	83.1	34.9	77.1	72.3	80.7	15.7	19.3	8.4	6.0	1.2
男性:70歳以上	19	36.8	73.7	42.1	52.6	63.2	63.2	36.8	21.1	-	5.3	5.3	
	無回答	1	-	-	-	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-	-
性別役割分担意識別	女性:賛成	20	5.0	50.0	35.0	65.0	75.0	75.0	10.0	20.0	20.0	5.0	10.0
	女性:どちらかといえば賛成	107	12.1	73.8	34.6	75.7	76.6	86.9	17.8	15.9	27.1	1.9	-
	女性:どちらかといえば反対	129	19.4	82.9	32.6	77.5	76.7	82.2	19.4	21.7	28.7	3.9	1.6
	女性:反対	81	18.5	85.2	42.0	81.5	75.3	86.4	23.5	25.9	23.5	3.7	2.5
	女性:わからない	28	21.4	82.1	10.7	67.9	67.9	75.0	10.7	10.7	39.3	7.1	-
	男性:賛成	28	10.7	67.9	32.1	71.4	67.9	67.9	10.7	7.1	7.1	10.7	-
	男性:どちらかといえば賛成	102	23.5	84.3	35.3	69.6	70.6	75.5	9.8	12.7	4.9	3.9	2.0
	男性:どちらかといえば反対	76	15.8	86.8	28.9	75.0	59.2	76.3	14.5	11.8	6.6	2.6	3.9
	男性:反対	63	17.5	79.4	31.7	77.8	77.8	81.0	9.5	17.5	4.8	4.8	1.6
	男性:わからない	22	22.7	86.4	18.2	72.7	68.2	68.2	9.1	13.6	9.1	-	4.5
		無回答	13	15.4	69.2	30.8	53.8	61.5	69.2	7.7	15.4	30.8	23.1

2. 学校教育の中で男女共同参画を進めるために必要なこと

問 18. 学校教育（小・中・高等学校）の中で男女共同参画を進めるには、どのようなことが必要だと思いますか。特に必要と思うものを選んでください。（ 印は3つまで）

学校教育の中で必要なこと、女性は「男女の区別なく能力をいかせるよう配慮」「性教育や命の大切さを伝える教育」、男性は「男女平等の意識を育てる授業」。

図 6 - 2 学校教育の中で男女共同参画を進めるために必要なこと
[全体、性別] (前回調査比較)



学校教育の中で男女共同参画を進めるために必要なことをたずねた。

「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力をいかせるように配慮をする」(56.4%)、「男女平等の意識を育てる授業をする」(52.3%)、「性に関する正しい知識や命の大切さを伝える教育プログラムを作成、実践する」(40.8%)などが4割以上で上位にあがっている。

性別にみると、女性は「性に関する正しい知識や命の大切さを伝える教育プログラムを作成、実践する」(女性：46.0%、男性：34.3%)が11.7ポイント、「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力をいかせるように配慮をする」(同59.1%、52.9%)が6.2ポイント高く、男性は「男女平等の意識を育てる授業をする」(同48.7%、56.9%)が8.2ポイント高くなっている。その他の項目では男女差はあまりみられない。

前回調査では、それぞれの項目について学校で力を入れることに賛成か反対かを問い、その後その中で特に力を入れるべきものとして2つまで選択してもらう設問になっている。今回調査と

は設問の仕方が違うことや新たな項目が加わっているため、参考までに前回調査の比率を表示するにとどめておく。

属性別特徴

年代別にみると、「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力をいかせるように配慮をする」は男女とも年齢が高い層で割合が高く、「男女平等の意識を育てる授業をする」や「性に関する正しい知識や命の大切さを伝える教育プログラムを作成、実践する」「セクシュアル・ハラスメントなど性暴力について相談できる環境を整備する」などは年齢が低い層で高い傾向がある。

表6 - 2 学校教育の中で男女共同参画を進めるために必要なこと [全体、年代別]

		(%)										
		を男女平等の意識を育てる授業	パ参児 ン画童 フ社・生 レ会徒 ットにつ ない向け などをの 作成副 する本 ・同	かて生活 せる、男 よう女の に区進 配慮な路 をする能 をい	をど座 なく不 す要名 に簿・ 男・荷 女を物 を分柵 ける順 習番 慣な	行の教 う意識 を身の 高めの 男女平 た等 めのに つ研 修い をて	性校 を長 増や や教 頭し てな いど の管 理職 に女	ムを大 切に性 作さ 成を を 伝 え る 正 し い 教 育 知 識 の 研 究 を 行 う	るなセ 環境性 を暴 力に 整備 する つ・ い て 相 談 メ ン タ ル の 研 究 を 行 う	特に必要な だと思 うもの はない	無回答	
全体		669 100.0	350 52.3	58 8.7	377 56.4	94 14.1	177 26.5	146 21.8	273 40.8	159 23.8	18 2.7	18 2.7
性別 × 年代別	女性:20歳代	56	50.0	5.4	46.4	14.3	16.1	39.3	48.2	30.4	3.6	1.8
	女性:30歳代	85	56.5	5.9	52.9	14.1	22.4	23.5	48.2	24.7	4.7	2.4
	女性:40歳代	65	52.3	7.7	53.8	13.8	30.8	13.8	38.5	30.8	1.5	3.1
	女性:50歳代	64	50.0	6.3	73.4	18.8	25.0	20.3	45.3	14.1	1.6	1.6
	女性:60歳代	68	39.7	11.8	64.7	10.3	29.4	16.2	44.1	22.1	2.9	4.4
	女性:70歳以上	33	33.3	9.1	69.7	6.1	27.3	9.1	54.5	27.3	-	6.1
	男性:20歳代	45	57.8	11.1	42.2	24.4	28.9	22.2	44.4	17.8	-	-
	男性:30歳代	57	59.6	7.0	52.6	15.8	26.3	17.5	26.3	31.6	3.5	1.8
	男性:40歳代	37	62.2	16.2	43.2	21.6	32.4	21.6	37.8	21.6	2.7	-
	男性:50歳代	56	55.4	7.1	51.8	16.1	25.0	21.4	25.0	12.5	5.4	7.1
	男性:60歳代	83	55.4	10.8	60.2	7.2	27.7	28.9	38.6	27.7	1.2	1.2
男性:70歳以上	19	47.4	10.5	68.4	5.3	36.8	15.8	36.8	21.1	5.3	5.3	
無回答		1	100.0	-	-	-	-	100.0	100.0	-	-	-

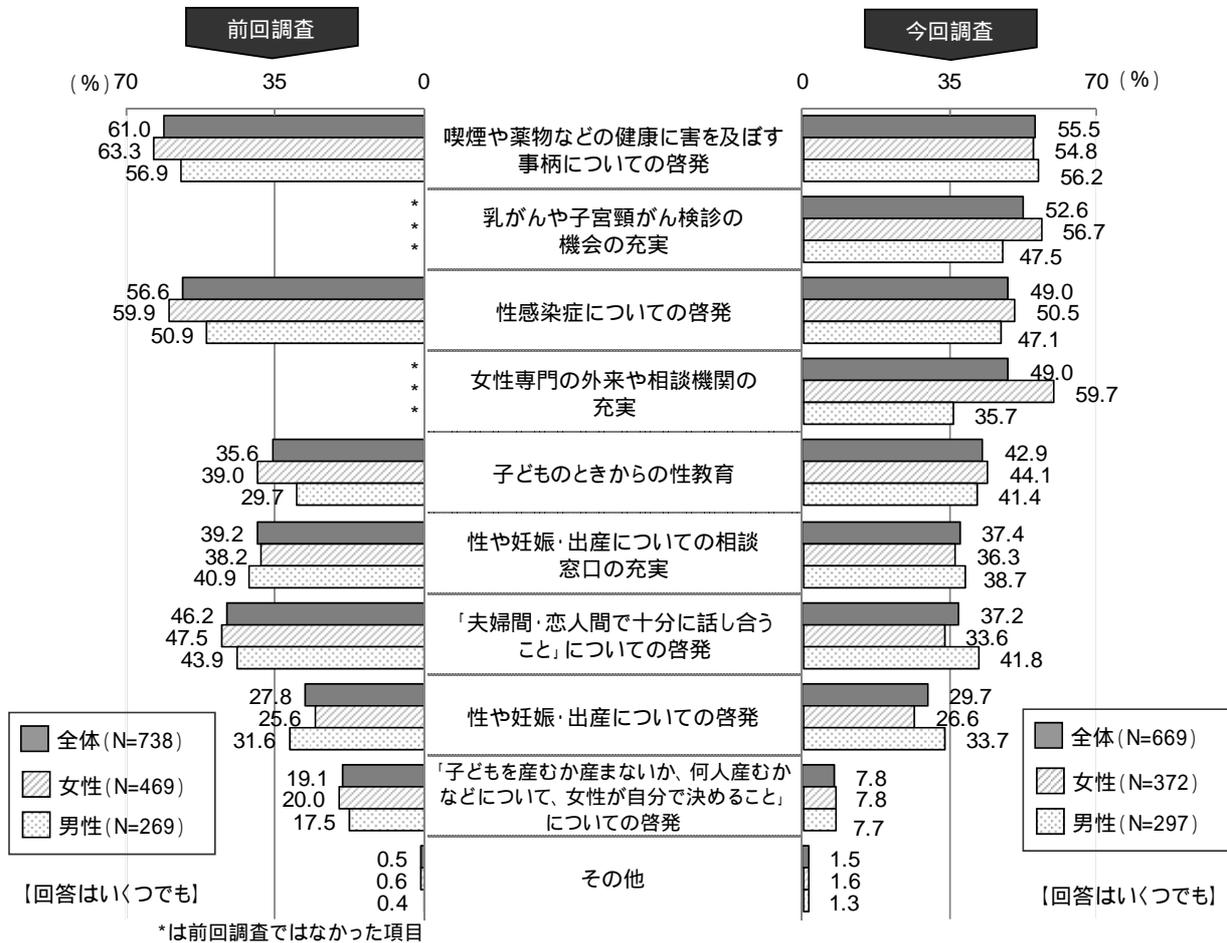
3. リプロダクティブ・ヘルス/ライツ のために必要なこと

問 19. 「生涯にわたる性と生殖に関する健康と権利（リプロダクティブ・ヘルス/ライツ）」についておたずねします。【男女ともお答えください】

女性の健康を守るために、性や妊娠・出産について、どのようなことが必要だと思いますか。（ 印はいくつでも）

女性の健康を守るために必要なこととして、女性自身は「女性専門の外来や相談機関の充実」「乳がんや子宮頸がん検診の機会の充実」などが約 6 割。

図 6 - 3 リプロダクティブ・ヘルス/ライツのために必要なこと
[全体、性別](前回調査比較)



女性の健康を守るために必要なことは「喫煙や薬物などの健康に害を及ぼす事柄についての啓発」(55.5%)、「乳がんや子宮頸がん検診の機会の充実」(52.6%)、「性感染症についての啓発」(49.0%)、「女性専門の外来や相談機関の充実」(同率 49.0%)、「子どもときからの性教育」(42.9%) など多岐にわたってあげられている。

性別にみると、女性は「女性専門の外来や相談機関の充実」が 59.7% と最も高く、男性の 35.7% を大きく上回っている。その他に「乳がんや子宮頸がん検診の機会の充実」(56.7%) が男性 (47.5%) よりも 9.2 ポイント高い。男性は「夫婦間・恋人間で十分に話し合うこと」につい

ての啓発」(41.8%)、「性や妊娠・出産についての啓発」(33.7%)などが女性よりも約7～8ポイント高く、その他では男女差はあまりみられない。

前回調査と比較すると、男女とも「子どもを産むか産まないか、何人産むかなどについて、女性が自分で決めること」についての啓発」の割合が約10ポイント減少し、また女性では「夫婦間・恋人間で十分に話し合うこと」についての啓発」が13.9ポイント減少、男性では「子どものときからの性教育」が11.7ポイント増加していることが目立つ。その他の項目は男性ではあまり変化はみられないが、女性は全体的に割合が減少している。

属性別特徴

年代別にみると、男女とも「乳がんや子宮頸がん検診の機会の充実」「女性専門の外来や相談機関の充実」「夫婦間・恋人間で十分に話し合うこと」についての啓発」「性や妊娠・出産についての啓発」などは年齢が低い層で割合が高い傾向がある。特に「乳がんや子宮頸がん検診の機会の充実」は女性の20歳代と30歳代で7割以上、「女性専門の外来や相談機関の充実」は20歳代で80.4%と高率となっている。

反対に「喫煙や薬物などの健康に害を及ぼす事柄についての啓発」「性感染症についての啓発」「子どものときからの性教育」などは年齢が高い層で割合が高い傾向があるが、「喫煙や薬物などの健康に害を及ぼす事柄についての啓発」や「子どものときからの性教育」などは男性の20歳代でも高率となっている。

表6-3 リプロダクティブ・ヘルス/ライツのために必要なこと[全体、年代別]

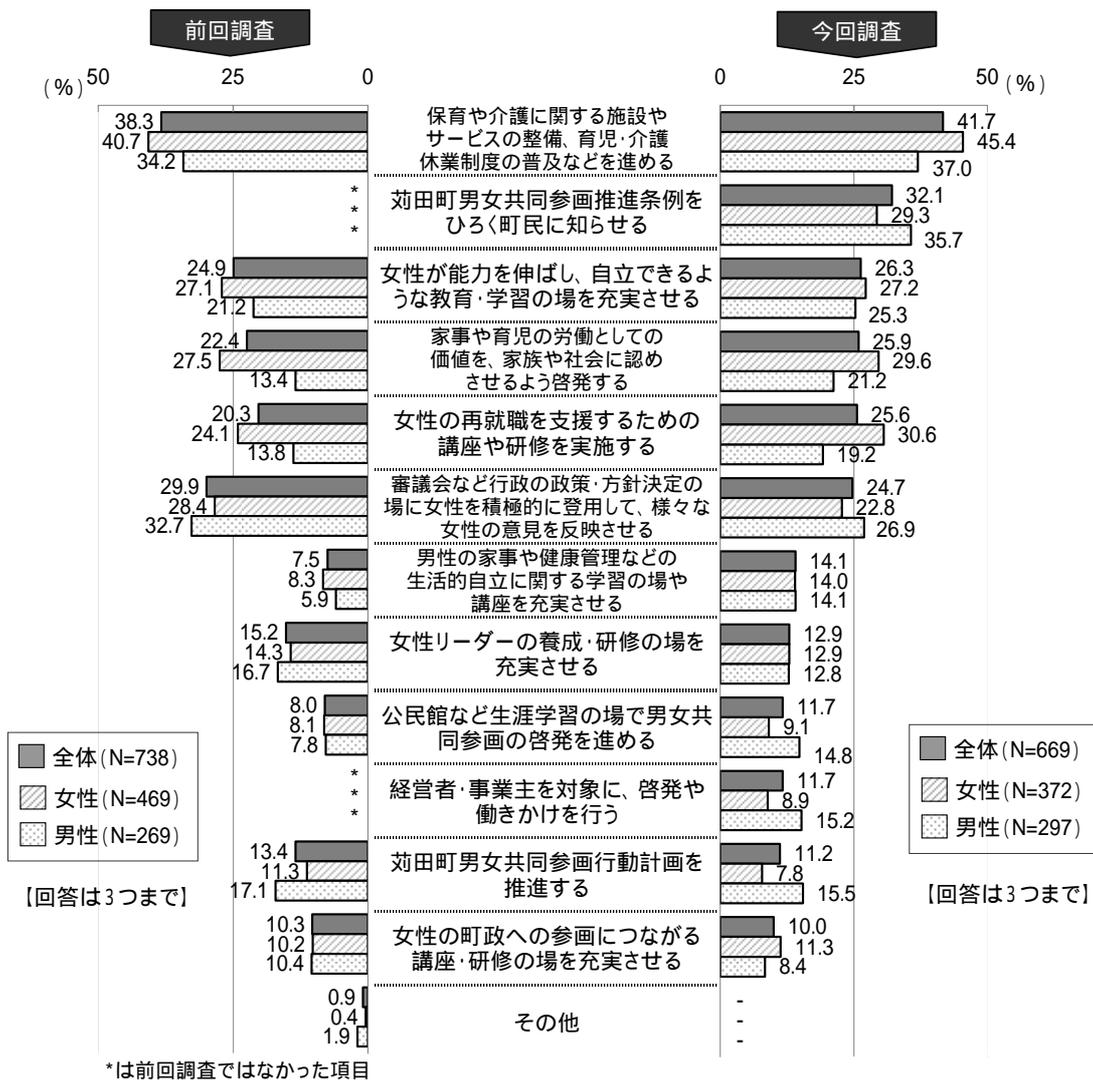
		(%)														
	標本数	性や妊娠・出産についての啓発	窓や妊娠・出産についての相談	の啓発	が自分や他人の産むか産まないかについて	何人産むか産まないかについて	「子どもを産むか産まないか、何人産むかなどについて」	合「夫婦間・恋人間で十分に話し	子どもを産むか産まないか、何人産むかなどについて	性感染症についての啓発	ぼす事柄についての健康に害を及	喫煙や薬物などの健康に害を及	の乳がんや子宮頸がん検診の機会	実女性専門の外来や相談機関の充	その他	無回答
全体	669 100.0	199 29.7	250 37.4	52 7.8	249 37.2	287 42.9	328 49.0	371 55.5	352 52.6	328 49.0	10 1.5	24 3.6				
性別×年代別	女性:20歳代	56	37.5	48.2	12.5	39.3	41.1	48.2	46.4	76.8	80.4	1.8	1.8			
	女性:30歳代	85	24.7	37.6	7.1	38.8	44.7	48.2	50.6	70.6	64.7	2.4	-			
	女性:40歳代	65	32.3	29.2	9.2	30.8	47.7	47.7	61.5	50.8	60.0	-	-			
	女性:50歳代	64	15.6	31.3	10.9	26.6	43.8	53.1	54.7	50.0	53.1	3.1	3.1			
	女性:60歳代	68	27.9	39.7	2.9	35.3	36.8	55.9	57.4	39.7	48.5	1.5	8.8			
	女性:70歳以上	33	21.2	27.3	3.0	27.3	57.6	51.5	60.6	48.5	45.5	-	12.1			
	男性:20歳代	45	48.9	37.8	15.6	48.9	53.3	44.4	62.2	57.8	40.0	2.2	-			
	男性:30歳代	57	35.1	35.1	5.3	43.9	24.6	36.8	52.6	57.9	40.4	-	3.5			
	男性:40歳代	37	43.2	35.1	10.8	45.9	40.5	56.8	43.2	54.1	32.4	2.7	-			
	男性:50歳代	56	23.2	46.4	14.3	28.6	33.9	46.4	53.6	46.4	30.4	-	7.1			
男性:60歳代	83	27.7	38.6	1.2	42.2	53.0	49.4	62.7	37.3	38.6	1.2	3.6				
男性:70歳以上	19	31.6	36.8	-	47.4	36.8	57.9	57.9	26.3	21.1	5.3	10.5				
無回答	1	-	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-	-	100.0	-	-	-	

4. 男女共同参画社会の実現のための行政施策

問 20 . 苅田町が「男女共同参画社会」づくりを進めるためには、どのようなことに取り組むことが重要だと思いますか。(印は3つまで)

男女共同参画社会実現のために「保育や介護の施設やサービスの整備、制度の普及を進める」が最も高い。

図 6 - 4 男女共同参画社会の実現のための行政施策 [全体、性別]



男女共同参画社会づくりを進めるために町が取り組む施策についてたずねたところ、「保育や介護に関する施設やサービスの整備、育児・介護休業制度の普及などを進める」が41.7%で最も高く、次いで「苅田町男女共同参画推進条例をひろく町民に知らせる」32.1%、「女性が能力を伸ばし、自立できるような教育・学習の場を充実させる」26.3%、「家事や育児の労働としての価値を、家族や社会に認めさせるよう啓発する」25.9%、「女性の再就職を支援するための講座や研修を実施する」25.6%、「審議会など行政の施策・方針決定の場に女性を積極的に登用して、様々な女性の意見を反映させる」24.7%などがあげられている。

性別にみると、女性は「女性の再就職を支援するための講座や研修を実施する」(女性:30.6%、男性:19.2%)、「保育や介護に関する施設やサービスの整備、育児・介護休業制度の普及などを進める」(同 45.4%、37.0%)、「家事や育児の労働としての価値を、家族や社会に認めさせるよう啓発する」(同 29.6%、21.2%)などが男性よりも約8~11ポイント高く、男性は「苜田町男女共同参画行動計画を推進する」(同 7.8%、15.5%)、「苜田町男女共同参画推進条例をひろく町民に知らせる」(同 29.3%、35.7%)、「経営者・事業主を対象に、啓発や働きかけを行う」(同 8.9%、15.2%)が約6~7ポイント高くなっている。女性は日常の生活に近いものに、男性は行動計画や条例の活用、啓発などに取り組むべきと考える傾向がある。

前回調査と比較すると、男女とも「保育や介護に関する施設やサービスの整備、育児・介護休業制度の普及などを進める」「審議会など行政の政策・方針決定の場に女性を積極的に登用して、様々な女性の意見を反映させる」などの割合が減少している他はあまり大きな変化はみられない。

属性別特徴

年代別にみると、「保育や介護に関する施設やサービスの整備、育児・介護休業制度の普及などを進める」や「家事や育児の労働としての価値を、家族や社会に認めさせるよう啓発する」「女性の再就職を支援するための講座や研修を実施する」「女性が能力を伸ばし、自立できるような教育・学習の場を充実させる」などは女性の年齢が低い層で高い。結婚や出産を機にそれぞれのコースを歩いている人たちから家庭生活と社会参画との両立を目指してあがってきた要望となっている。「審議会など行政の政策・方針決定の場に女性を積極的に登用して、様々な女性の意見を反映させる」「苜田町男女共同参画推進条例をひろく町民に知らせる」「公民館など生涯学習の場で男女共同参画の啓発を進める」などは男女とも年齢が高い層で高いが、「苜田町男女共同参画推進条例をひろく町民に知らせる」は男性の20歳代でも40.0%と高くなっている。

表6-4 男女共同参画社会の実現のための行政施策 [全体、年代別]

		(%)													
標本数		苜田町男女共同参画推進条例をひろく町民に知らせる	苜田町男女共同参画行動計画を推進する	審議会など行政の政策・方針決定の場に女性の意見を積極的に登用して、様々な女性の意見を反映させる	公民館など生涯学習の場で男女共同参画の啓発を進める	女性リーダーの養成・研修の場を充実させる	女性の町政への参画につなげる講座・研修の場を充実させる	女性が能力を伸ばし、自立できるような教育・学習の場を充実させる	家族や社会に認めさせるよう啓発する	経営者・事業主を対象に、啓発や働きかけを行う	男性の家事や健康管理などの生活実践的な学習の場や講座を充実させる	女性の再就職を支援するための講座や研修を実施する	保育や介護に関する施設やサービスの普及を進める	その他	無回答
全体		669 100.0	215 32.1	75 11.2	165 24.7	78 11.7	86 12.9	67 10.0	176 26.3	173 25.9	78 11.7	94 14.1	171 25.6	279 41.7	35 5.2
性別×年代別	女性:20歳代	56	25.0	3.6	17.9	7.1	12.5	5.4	39.3	41.1	7.1	17.9	30.4	44.6	5.4
	女性:30歳代	85	21.2	7.1	17.6	2.4	12.9	7.1	27.1	34.1	17.6	14.1	37.6	52.9	7.1
	女性:40歳代	65	26.2	6.2	15.4	4.6	15.4	12.3	32.3	30.8	7.7	16.9	40.0	43.1	4.6
	女性:50歳代	64	26.6	6.3	37.5	4.7	12.5	21.9	23.4	28.1	4.7	14.1	31.3	45.3	4.7
	女性:60歳代	68	47.1	14.7	23.5	19.1	11.8	13.2	22.1	20.6	7.4	11.8	19.1	39.7	4.4
	女性:70歳以上	33	33.3	9.1	27.3	27.3	12.1	6.1	15.2	18.2	3.0	6.1	15.2	45.5	15.2
	男性:20歳代	45	40.0	8.9	20.0	6.7	8.9	4.4	22.2	28.9	15.6	17.8	26.7	40.0	2.2
	男性:30歳代	57	28.1	12.3	15.8	14.0	10.5	5.3	24.6	28.1	24.6	15.8	19.3	40.4	3.5
	男性:40歳代	37	21.6	16.2	24.3	16.2	18.9	8.1	35.1	32.4	8.1	13.5	16.2	29.7	5.4
	男性:50歳代	56	39.3	19.6	23.2	12.5	10.7	7.1	23.2	17.9	12.5	14.3	16.1	37.5	7.1
男性:60歳代	83	39.8	18.1	41.0	15.7	18.1	14.5	14.5	26.5	12.0	14.5	12.0	18.1	2.4	
男性:70歳以上	19	47.4	15.8	31.6	36.8	-	5.3	15.8	10.5	10.5	10.5	21.1	31.6	5.3	
無回答	1	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	